

鹽稅等ハ
一種ノ人
頭稅ナリ
否人頭稅
ヨリハヨ
ナリ不都
合ヨ

モノノ粗野ナルモノニシテ、産業ヲ營ミ得ルノ男子ニノミ課スルニ至リテ、既ニ一步公正ノ點ニ向ヒタルモノナリ。今日列國間ニ行ハルル鹽稅、穀物稅、石油稅ノ如キハ、何レモ高キ徵收費ヲ支出シ、嚴メシキ課稅法ノ下ニ行ハルルモ、其實ハ一種ノ人頭稅ニシテ、佛ノ「人稅及ビ動產稅」モ亦此ノ性質ヲ有スルモノナリ。今ヤ文明國ニテハ昔時ニ行ハレタル露骨ナル人頭稅ハ、米、瑞西ノ各州ヲ除キテハ、外形上ソノ跡ヲ絶チタルモ、消費稅ニ屬スル人頭稅、即チ「隠レタル人頭稅」ハ頻々ソノ間ニ行ハレアリテ、産業ヲ營ミ得ル人々ノミニ課スルノ人頭稅ハ、寧ロ男女老幼ヲ問ハズ何人ニモ賦課シ、且ツ比較的下層社會ヲ壓スル鹽稅等ニ比スレバ反ツテ公正ニ近キモノトス。

階級稅

階級稅 (Klassensteuer, class tax) トハ人々ヲ或ル階級ニ區分シ、同一階級内ニテ更ニ若干ノ稅率ヲ

我所得稅
ノ實施ハ
早キニ失
シタリト
ノ説

設ケ、各人ニ對シ適當ト見做シタル稅率ヲ課スルモノニシテ、是ハソノ人ノ社會上ノ地位、ソノ有スル財產等ヨリ之ガ所得ヲ概定シテ、ソノ納稅力ヲ決スルモノニシテ、稅ソノモノヨリ謂フモ人頭稅ヨリ今日ノ所得稅ニ推移スルノ階段トナルベキモノナリ。獨ノ漢堡大學ノ總長ニシテ、曾テ東京帝國法科大學教授タリシ「ラートゲン」博士ハ、ソノ著「日本ノ經濟財政」(一八九一年出版)ニ於テ、我邦ニテ所得稅ヲ實施シタルハ、國民經濟ノ狀態ニ比スレバ餘リニ早キニ失シタルモノニシテ、寧ロ先ヅ人稅及ビ階級稅ヲ採用シ、之ガ補足トシテ俸給及ビ資本利子稅ヲ課スルコソ、當時ニ於テ多

普國ニテ
人頭稅
階級稅
ニレテ
所得稅
ニ夫レ
リニ進
ルニ徑
路タ

ク收入ヲ得ルノ目的ヲ達シ得タリシナラント言ヘリ。

普國ハ奈翁戰爭中財政ノ困難ニ堪ヘズシテ、一八一一年「一定ノ人稅」ナル名稱ノ下ニ人頭稅ヲ採用シ、十二歳以上ノ人々ニハ各々一、五馬克ヲ課スルコトトシ、(後ニ至リ六十歳以上ヲ免除シタリ)之ヲ村落及ビ小都府ノミニ施行シタリシガ、一八二〇年ノ稅制改革ニ於テ人頭稅率ニ階級ヲ附シ、之ヲ一、五馬克乃至一四四馬克トナシ、著シク上流者ノ負擔ヲ重クシタルヨリ、人頭稅ハ一變シテ階級稅トナリタリ。ソノ後更ニ之ガ階級ト稅率トヲ增加スルノ必要ヲ生ジ、人口ヲ四大階級ニ區分シ、更ニ各之ヲ三小級ニ細分シ、各戸ヲコレニ符メ込ミ、最低四、五馬克ヨリ最高四三二馬克ヲ課スルコトトナシタリ。然ルニ一八五一年ニ至リ、階級稅ノ外ニ所得稅ヲ採用シ、三千馬克ニ達セザル想定所得ニ對シテハ依然階級稅ヲ課シ、三千馬克以上ニハ所得稅トシテ所得ノ三%ヲ課シ、所得高二萬千六百馬克以上ニハ課稅セザルコトトナシ、又所得額ハ本人ノ申告ニ由ラズシテ調査委員ノ調査ニヨリ之ヲ定メタリ。爾來階級稅ト所得稅ト相並ンデ相行ハレ、ソノ間最低生計費ヲ免除シ、人的關係ヲ顧慮シテ或ル種ノ減額ヲ爲ス等、稅制ハ次第ニ修正改良セラレ、階級稅ノ調査方法ハ次第ニ所得稅ノソレニ接近セシガ、一八九一年ノ直稅大改革ニ當リ、遂ニ階級稅ヲ全廢シ、之ニ代ユルニ一般所得稅ヲ以テシ之ヲ全國ニ施行シタリ。

階級稅の所
貴族稅の所
階級稅の所
貴族稅の所
階級稅の所
貴族稅の所

所得稅ハ
文明的租
稅ナリト
意義

以上ハ人頭稅及ビ階級稅ノ本質、及ビ普國ニテ次第ニ進化シテ遂ニ一般所得稅トナルニ至リタルノ徑路ヲ述ベタリ。要スルニ階級稅ハ始メヨリ各人ノ所得ヲ調査ノ目的トナスニ非ズシテ、或ル徵表標準ニヨリ各人ノ所得ヲ想定シテ、之ヲ或ル階級ニ箝メ込ムモノニシテ、我が地方稅ノ一種ナル戶數割ノアル課稅法ハ之ニ類スルモノアリ。所得稅ハ之ニ反シ、各人ニ付キ各別ニ之ガ調査ヲ遂ゲ、計數ヲ以テ各人ノ所得ヲ表示スルモノニシテ、前者ハ社會組織ノ階級的ナル舊時代ノ產物ニシテ、從ツテ之ガ性質モ亦階級的、門地的、貴族的ニシテ、ソノ人ノ眞實ノ所得ニヨラズシテ、寧ロ之ガ社會上ノ地位、生活ノ狀態等ニヨリ課稅額ヲ定ムルモノナリトス。之ニ反シ、所得稅ハ平民的、民衆的ニシテ自由競争、資本萬能主義ノ行ハルル新時代ニ出生シ、發達シアルモノニシテ、此ノ時代ニハ社會上唯財囊ノ輕重ヲ問フハ外何等區分スル所ナク、此ノ間ニ在リテ最モ權威ヲ有スル所得稅ハ、住家ノ大小、使用人ノ多少、身分ノ如何等ヲ問ハズ、唯個人ノ眞實ナル納稅力ヲ見テ之ニ課稅スルモノニシテ、之ヲ稱シテ平民的租稅ト謂フベシ。

平民的租稅ナル所得稅ハ學者ノ所謂文明的租稅ト稱スルモノニシテ、文明的租稅トハ國民ノ文化ガ或ル程度以上ニ進歩スルニ非ズンバ之ヲ實施スルヲ得ズトノ意味ニシテ、即チ富力尙未ダ増進セズシテ、國內ハ多數ノ小農工商業者ヲ有シ、且ツ智德尙未ダ開發セズ租稅道德ノ尙低級ニアルノ國

所得稅ハ
點上ノ
施行ノ
缺

民ニテハ、本稅ハ容易ニソノ目的ヲ達シ得ザルモノトス。元來所得ナルモノハ各種ノ收入ヨリ之ガ生産費ヲ控除シタル殘餘ノ集リニシテ、外間ヨリシテ人々ノ眞實ナル所得ヲ測定スルハ容易ノ業ニ非ズシテ殆ンド不可能ノ場合モ尠ラズ。爲メニ眞實ノ所得ヲ知ルニハ、複雑ナル經濟ヲ有スル者ヲシテソノ所得ヲ申告セシムルヲ要スルモノトス。然ルニ何人モ人情上若クハ利害上ヨリ自家ノ所得ヲ他ニ示スヲ好マザルモノニシテ、國家ノ爲メナリトテ、家政上ノ秘密トナスモノヲ坦壞ニ打ち明ケテ之ガ眞實ナル所得ヲ申告スルハ、公德心ノ大ニ進歩發達シタル國民ニ非ズンバ爲ヌヲ得ザルモノニシテ、殊ニ稅率ニシテ高歩ナルトキハ益所得ヲ隱蔽スルノ弊ヲ助長増大ナラシムルモノトス。然ルニ所得ノ種類性質ニヨリ容易ニ隱蔽シ得ルモノト然ラザルモノトアリテ、例ヘバ勤勞々力ヨリ生ズル給料賃金の所得ノ如キハ殆ンド隱匿スルノ餘地ナキニ反シ、大商工業者、大資本主ノ營利的所得ノ如キハ、本人ノ誠實ナル申告ニ基クニ非ラズンバ容易ニ之ガ真相ヲ透見スルヲ得ザルモノアリ、而テ是等ノ人々ニシテ公德心ノ進歩セザル爲メ、所得ノ一部若クハ大部分ヲ隱匿シテ脫稅ノ目的ヲ達シ得ベシトスレバ、官公吏ノ如キ、勞働者ノ如キ定額受領者ト、是等商工業者又ハ金貸業者トノ間ニハ負擔ノ大不均衡ヲ生ジ、且ツ最モ納稅力ニ富ムノ大商工業者、大資産家ニ對シテ適當ナル課稅ヲ爲シ得ズシテ、頻々吞舟ノ魚ヲ逸スルニ至ルモノトス。又同一地方ニ於ケル同一職業ヲ營ム者

ニシテ、甲ハ不誠實ナル申告ニヨリ脱税ノ目的ヲ達シ、乙ハ眞實ナル申告ニ對シ課税セラルルモノトスレバ、恰モ同業者間ノ競争上正直者ハ罰セラレテ不利ナル地位ニ陥ルト同一ノ結果ヲ呈スベキヲ以テ、遂ニ相率ヒテ虚偽ノ申告ヲナスノ風ヲ助長シ、爲メニ租税道德ハ地ヲ拂フニ至ルベク、理想的租税ナル所得税モ不都合ナル惡税ニ化シ去ルモノトス。且小農ノ如キ、手工業者ノ如キハ平素完全ナル帳簿ヲ備ヘズ、又生産費ヲ知ルヲ得ザル等、誠意ヲ以テ所得ヲ申告セントスルモ能ハザル者モ尠ラズシテ、英國ニテハ昔時ヨリ今ニ至ル迄百姓ハ帳簿ヲ備ヘズトノ言ヒ慣ハシアリ、是ハ單ニ英國ノミナラズシテ、未開ナル小農國、即チ我ガ三四十年前ノ經濟状態ニアツテハ、所得ノ申告ノ如キハ概シテ尙未ダ企テ及ブベカラザルモノアリトス。且小額所得者ニ對スル課税ニハ、斯クノ如ク申告ノ點ニ於テ既ニ缺クル所アルノミナラズ、滞税者、不納者多キ等徵税上非常ニ煩雜ニシテ多クノ經費ト手數トヲ要シ、大ニ國民ヲ煩累スル割合ニ國家ノ收入ハ多大ナラザルモノアリ。要スルニ本税ヲ以テ文明的租税ト爲スハ以上ノ理由ニ基クモノニシテ、然ラバ今日文明國ト稱スル我邦及ビ歐米諸國民ノ公德ハ果シテ如何ナル程度迄進歩シアリヤ。國民富力ノ大増加ト物質の進歩ノ著大ナルモノアルハ何人モ否認セザル所ナレド、彼等ハ果シテ隱蔽シ得ルノ所得ニ對シ、之ヲ赤裸々ニ申告スルノ公德心ト勇氣トヲ有スルヤ。此點ヨリスレバ本税ノ理想的ニ實行セラルルニ至ルハ

所得税ノ長所

尙前途瞭遠ナルモノアリテ、所謂文明國ノ現状ヲ以テスレバ實施上種々ナル難問題ニ逢着スルヲ免レザルモノトス。米ノ「ブレーション」教授曰ク、予ノ所得税ニ對スル熱心ノ程度ハ時日ノ經過シ研究ヲ重ヌルニ連レ次第二冷却スルニ至リタリト、想フニ是ハ獨リ同氏ノミニ非ザルベシ。

地租等ノ收入税ハ外部ノ徵表ニヨリ課税スルヲ以テ、我營業税ノ如キヲ除キテハ簡單ニ課税シ得ルノ一大長所ヲ有スルモ、本税ハ之ニ反シ、前述ノ理由ニヨリ本人ノ申告ヲ強要スルノ餘儀ナキモノアルノミナラズ、稅務當局ハ之ニ基キテ精密ナル調査ヲ要スルモノニシテ、眞實ナル所得ヲ見出すニ非ズンバ實際ノ納稅力ニ適應スルノ課税ヲ爲スヲ得ザルヲ以テ、此點ヨリシテ所得ノ調査、課税ノ手段ハ自ラ煩雜ニ流レ、遂ニハ非難苦情百出スルノ流弊ニ陥ルモノニシテ、カク調査ノ煩雜ニシテ一々個人經濟ノ内容ニ立チ入り、帳簿ノ検査等ヲ爲スハ本税ニ伴フ必然ノ缺點ナリトス。然シ一面ヨリスレバ人々ノ眞實ナル納稅力ニ適應スルノ課税ヲ爲スニハ、理論上本税ニ依ラザルヲ得ザルモノニシテ、租税汎論ノ部ニテ述ベタル如ク、所得ノ大小ニヨリ各之ニ適當ナル課税ヲ爲スニハ累進率ノ適用ヲ要シ、又所得ノ種類、即チソノ勤勞所得ナルト資産所得ナルトニヨリ同一ノ所得高ニ對シテモ稅率ヲ輕重スルヲ要スルモノニシテ、本税ニ非ズンバ充分ニ是等ノ手段方法ヲ取ルヲ得ザルモノトス。

本稅賦課ノ方法トシテハ、綜合的課稅ト源泉的課稅トノ兩者アリテ、是ハ大正九年ニ於ケル我が所得稅法ノ改正ニ際シ、官民間ノ一大問題トナリタルモノトス。而テ綜合課稅トハ各人ノ各種ノ所得ヲ一併總括シテ、此ノ一ツニ纏リタル所得ニ對シテ賦課シ、源泉課稅ハ之ニ反シ、所得ヲ生ズル各源泉、即チ各目的物ニ溯リ之ニ對シ各別ニ賦課スルモノニシテ、例ヘバ茲ニ甲アリ、ソノ所有土地ヨリ一萬圓、ソノ所有家屋ヨリ五千圓、ソノ動産的資本ヨリ三萬圓、ソノ營業ノ利潤ヨリ一萬圓ノ所得ヲ生ズルモノトスレバ、此ノ四者ヲ總計シタル五萬五千圓ノ全所得ニ對シ、之ヲ以テ本人ノ纏リタル納稅力トシテ之ニ賦課スルハ則チ綜合課稅ニシテ、右四種ノ所得ニ對シ各別ニ課稅スルヲ源泉課稅ト謂フ。而テ之ヲ源泉課稅ト稱スルハ、所得者ソノ人ヲ見ズシテ所得ヲ生ズル源泉ナル土地、家屋、資本、營業等ニ對シ各別ニ賦課スルニヨルモノニシテ、純理上ヨリスレバ源泉課稅ハ眞實ナル所得稅ナリト謂フヲ得ズ。元來所得稅ハソノ人ノ所得ニヨリ、之ガ納稅力ニ適應スルノ課稅ヲ爲スモノニシテ、ソノ人ニ入り來ルノ所得全體ニ對シ賦課スルニヨリ始メテ此ノ目的ヲ達シ得ルモノトス。且所得トハ前述ノ如ク土地、家屋等各種ノ收入中ヨリ生産費ヲ控除シタルモノノ殘額ノ集リナルヲ以テ、所得稅ハ當然此ノ綜合シタル所得ニ賦課スベクシテ、源泉課稅ノ如キハ單ニ徵收ノ便宜上ニ出ヅル一種ノ變體的課稅法ナリトス。

斯クノ如ク源泉課稅主義ノ缺點ハ人々ノ納稅力ニ適應スルノ課稅ヲ爲シ得ザルニアリテ、此ノ主義ニヨルトキハ本人ノ所得全體ヲ知り得ザルヲ以テ、累進稅ヲ適用シ又ハ所得ノ種類ノ異ナルニヨリ稅率ヲ異ニスルヲ得ザルハ、所得稅トシテ最モ重要ナル點ヲ實行シ得ザルノ缺點ヲ有スルモノニシテ、從ツテ源泉課稅ハ殆ンド收入稅ニ近キモノト謂フベシ。英國ノ所得稅ガ學理上一種ノ變體ニシテ、學者ノ之ヲ以テ所得稅ト收入稅トノ中間的租稅ナリトナスハ此ノ理ニ由ルモノトス。以上述べ來リタル所ト、課稅ノ正理的原則ノ部ニテ述べタル累進稅並ビニ資産所得、勤勞所得ノ區分等ノ研究ト相合シテ、略本稅ニ關スル大體論ヲ了リタルヲ以テ、以下例ヲ我邦ニ取リテ稍細目ニ亘ルノ研究ヲ試ムルモノトス。

我が所得稅ハ明治二十年ニ新設セラレタル以來數次ノ修正變更ヲ經テ、大正九年ニ現行稅法ノ制定ヲ見ルニ至リタルモノニシテ、之ニヨレバ所得ヲ二種ニ區分シアリテ、之ガ第一種ハ法人ノ所得ナリトス。而テ更ニ法人ノ所得ヲ超過所得、留保所得、配當所得等ニ區分シテ各別ニ本稅ヲ賦課シアリテ、法人ノ超過所得ニ對シテハ、ソノ各事業年度ノ所得ガ資本金額ニ對シ年一割ヲ超過スルトキハ、此ノ一割以上ノ金額ニ對シ之ガ百分ノ四ヲ課シ、二割以上ヲ超過スルトキハ二割以上ノ超過高ノ百分ノ十、又三割以上ヲ超過スルトキハ三割以上超過高ノ百分ノ二十ヲ課スルモノトス。又法人

ノ留保所得トハ、各事業年度ノ所得中ヨリ株主ヘノ配當等ニ充テズシテ積立金トナシアルモノニシテ、之ニ對シ百分ノ五ヲ課ス。又法人ノ配當所得トハ、各事業年度ノ所得中利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充ツルモノニシテ之ニ對シ百分ノ七、五ヲ課ス。

次ギニ第二種所得ハ公私法人ニ對スル債權、利子及ビ定期預金ト、之ト同性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニシテ、此ノ内公債ノ利子ニハ百分ノ四、ソノ他ニハ百分ノ五ノ比例稅ヲ課スルモノトス。但シ茲ニ公債ト稱スルハ地方債ノミニシテ國債ハ他ノ單行法律ノ規定ニヨリ全然免稅セラル、又公債ノ利子ニ對シソノ他ニ比シ多少輕率ヲ課スルハ地方團體ニテハ募債困難ニシテ之ガ利子ノ高キニ苦シムノ現狀ヲ斟酌シタルモノトス。又定期預金及ビ之ト同性質ノ預金利子ニ本稅ヲ課スルノ一事ハ大正九年ノ新設ニ係ルモノトス。

最後ニ第三種所得ハ個人所得、即チ我々自然人ノ所得ニシテ、之ニ對シテハ本稅新設ノ始メヨリ今ニ至ル迄累進稅ヲ課シアリテ現行稅率ハ、

- 八百圓以下百分ノ〇、五
- 八百圓ヲ超ユル金額百分ノ一
- 千圓ヲ超ユル金額百分ノ二

- 千五百圓ヲ超ユル金額百分ノ三
- 二千圓ヲ超ユル金額百分ノ四
- 三千圓ヲ超ユル金額百分ノ五
- 五千圓ヲ超ユル金額百分ノ六、五
- 七千圓ヲ超ユル金額百分ノ八
- 一萬圓ヲ超ユル金額百分ノ九、五
- 一萬五千圓ヲ超ユル金額百分ノ十一
- 二萬圓ヲ超ユル金額百分ノ十三
- 三萬圓ヲ超ユル金額百分ノ十五
- 五萬圓ヲ超ユル金額百分ノ十七
- 七萬圓ヲ超ユル金額百分ノ十九
- 十萬圓ヲ超ユル金額百分ノ二十一
- 二十萬圓ヲ超ユル金額百分ノ二十三
- 五十萬圓ヲ超ユル金額百分ノ二十五

- 百萬圓ヲ超ユル金額百分ノ二十七
- 二百萬圓ヲ超ユル金額百分ノ三十
- 三百萬圓ヲ超ユル金額百分ノ三十三
- 四百萬圓ヲ超ユル金額百分ノ三十六

ナリトス。以上ハ我が現行所得稅法ノ大要ニシテ、以下之ガ要點ヲ述ブレバ

法人課稅問題

第一、法人課稅問題 是ハ我邦ニテハ稅制上幾多ノ變遷ヲ經タル極メテ難問題ナリトス。明治二十年始メテ本稅實施ニ際シテハ一切法人所得ヲ除キ個人所得ノミニ課稅セシガ、是當時會社事業ハ尙極メテ幼稚ニシテ、將來之ヲ獎勵シテ大ニ發展セシムルノ要アリタルニ因リタルモノトス。然ルニ三十二年ニ於ケル本稅改正ニ際シテハ、法人ニ課稅スル時機ハ既ニ到來セルモノトシテ新タニ之ニ賦課シ、且此ノ當時ヨリシテ公債社債ノ利子ニ對スル所得ヲ個人所得ト區分シテ賦課スルコトトナシ、大體上ハ現行法ノ如ク第一種法人ノ所得、第二種公債、社債ノ利子及ビ第三種個人ノ所得ノ三者ニ區分シタリ。茲ニハ專ラ法人所得ニツキ説明スルモノニシテ、當時第三種ノ個人所得ニハ徹底ノ累進率ヲ課スルニ反シ、法人所得ニハ之ガ千分ノ二十五ナル比例稅ヲ課セシガ、ソノ何故ニ比例稅ヲ課スルノ理由ハ、元來會社等法人所得ノ大小ハ概シテ之ガ株金資本金ノ多少ニヨルモノニ

會社等ノ

法人ニ比
例稅ヲ
課スル
理由

シテ、所得ニシテ多額ナレバトテ、多クノ株金ニ配當スルトキハ、各株ノ受クル配當高モ會社ノ保留金モ、必シモ小會社ノ小所得ニ比シ多大ナルヲ得ザルモノトス。即チ或ル會社ノ所得高ガ多額ナレバトテ、之ヲ以テソノ納稅力モ亦多大ナリト謂フヲ得ズシテ、此點ハ大ニ個人所得ト異ルモノアリ、大正九年ニ於ケル本稅改正前ニハ合名合資會社等ニ對シ一部累進稅ヲ課セシガ、是ハ寧ろ變例ニシテソノ累進率ヲ課シタル理由ハ、畢竟是等ノ會社ヲ以テソノ實ハ個人經營ニ類スルモノトナシタルニヨル。

合法的脫稅

斯ル理由ノ下ニ三十二年ノ改正ニヨリ法人所得ニ比例稅ヲ課セシガ、之ト同時ニ個人所得ニハ累進稅ヲ課シ、最低三百圓以上五百圓迄ニハ千分ノ十、最高十萬圓以上ニハ千分ノ五十五ヲ課セシガ、之ガ結果ハ個人事業ヲ形式上ノ合名合資等ノ會社ト爲ストキハ、累進稅ノ適用ヲ受ケズシテ個人企業ト同額ノ所得ニテモソレヨリ輕微ナル課稅ヲ受クルヲ以テ、個人經營ハ續々形式的合名、合資會社等ニ變形シ、以テ所謂合法的脫稅ヲ計リタリ。而テ此ノ情勢ヲ看取シタル立法者ハ日露戰役ノ際ニ於ケル非常特別稅法ノ實施ヲ機トシ、一面ニハ大々的增稅ヲ爲スト同時ニ、他面ニハ法人所得ニ對スル課稅法ヲ改正シ、第一種法人ヲ甲ト乙トニ區分シ、甲ハ株主二十一人以上又ハ株主及ビ社員ノ數二十一人以上ヨリ成ルノ株式會社又ハ株式合資會社トシ、之ニ千分ノ五十三半ノ比例稅ヲ

課シ、乙ハソノ他ノ法人トシ、之ニ最低千分ノ四十五ヨリ最高千分ノ百二十五ノ累進率ヲ課シタリ、而テソノ他ノ法人中ノ主ナルモノハ合名ト合資會社ナリトス。

此ノ改正ニヨリ合名會社等ニハ累進率ヲ課シ、二十一名以上ヨリ成ルノ株式會社等ニハ比較的輕キ比例稅ヲ課セシガ、之ガ結果ハ從來ノ如ク個人企業ガ合名合資會社ニ變形スルノ弊ヲ矯メ得タルモ、更ラニ合資合名會社ヲ組織スル人ガソノ一家一門及ビ古參ノ郎黨輩ヲ糾合シ、二十一名以上ノ與黨ヲ狩リ集メテ形式的ノ株式會社等ヲ作り、以テ比較的輕キ比例稅ノ適用ヲ受クルノ徒ヲ増加シ、所謂前門虎ヲ防イデ後門狼ヲ進ムルノ不覺ヲ招致シタリ。爾來此ノ點ハ絶ヘズ稅制上ノ問題トナリシガ、大正九年ノ改正ニヨリ遂ニ前述ノ如ク法人ニ對スル甲乙ノ區分ヲ撤廢シテ一樣ニ比例稅ヲ賦課シ、唯一ノ例外トシテ法人ノ超過所得ニ累進率ヲ課スルニ至リタルモノトス。

第二、綜合課稅ト源泉課稅 明治二十年ノ所得稅法ニテハ、單ニ個人所得ニ課稅スルト同時ニ綜合課稅主義ヲ採リ人々ノ所得ノ總テヲ合併シタルモノニ對シ課稅セシガ、三十二年ノ改正ニヨリ所得ヲ法人所得、公債、社債ノ利子及ビ個人所得ノ三種ニ區分スルニ至リテ、此ノ綜合課稅主義ハ破壞セラレタリ。即チ一面ニハ法人ニ課稅スルニヨリ、株主ノ法人ヨリ受け取ル配當金等ニハ一切課稅

綜合課稅
源泉課稅

セズ、又個人所得ヨリ公債社債ノ利子ヲ引キ離シテ別個ニ課稅スルコトナシタル爲メ、法人所得及ビ公債、社債ノ利子ニ對シテハ源泉課稅主義ヲ採リ、配當金等ノ流レ出ルノ會社及ビ利子ノ源泉ナル公債社債ニ對シ直接ニ之ニ賦課スルニ至リタリ。而テ此ノ改正ノ結果トシテ、會社ノ株主等ハ各自ガ資本ヲ投下シアル會社ガ課稅セラルノ外ハ、幾十幾百萬圓ノ配當ヲ受クルモ毫モ之ニ課稅セラレザルヲ以テ、一面ニハ之ニヨリ會社所得ト個人所得トニ併課スルノ二重課稅ヲ避ケ得ベキモ、會社ヨリ配當等ヲ受クルノ人々ト、土地、家屋、勤勞等ヨリ所得ヲ生ズル人々トヲ對比スルトキハ兩者間大ニ負擔ノ不均衡ヲ來スベク、個人ノ有スル總テノ資本ヲ會社事業ニ投入スルトキハ、ソレヨリ生ズル所得ニシテ如何ニ多大ナルモ何等本稅ノ賦課ヲ受ケザルノ不都合ヲ生ズルヲ以テ、大正九年ノ改正ハ大ニ此點ニ顧ル所アリテ、一面ニハ法人ニ對シ輕キ課稅ヲ爲スト同時ニ、個人ノ會社ヨリ受クル配當等ヲ個人所得ニ綜合シテ之ニ課稅シ、唯公債社債ノ利子及ビ定期預金利子ヲ綜合主義ノ除外例トナシタルモノトス。

會社ノ利得ト個人ノ配當トニ併課スルノ點ニ關スル獨逸各聯邦ノ規定ハ區々ニシテ、「ロツツ」ハ大體上之ヲ三種ニ區分シアリ。之ニヨレバ、

甲、營利會社ノ利得ニ本稅ヲ賦課スル以上、尙株主ニハ何等輕減等ノ事ナク、更ニソノ配當金等ニ

獨ニ於ケ
ル會社ト
個人トニ
對スル併
課問題

比例税ト
累進税ト

我所得税
中ニハ混
入税ヲ混

對シ本税ヲ課スルモノニシテ「サクソン」ノ如キ是ナリ。
乙、營利會社ノ利得ニ本税ヲ課シ、之ガ配當ヲ受クル株主ニ對シテハ一部本税ヲ免除スルモノニシテ、例ヘバ「ブレーメン」ニテハ株主ハソノ受クル三、五%以内ノ配當ニ對シテハ免除セラル。
丙、株主ハソノ受クル所得ニ對シ全部課税セラル。然シ會社ハ一定ノ資本金ニ對スル一定ノ配當金ニ該當スル分ニ對シテハ免税セラルルモノニシテ、例ヘバ會社ノ配當金ニ對シ普ニテハ二、五%迄「ババリア」ハ二%迄、「ウウルテンベルヒ」及ビ「バーデン」ハ三%迄ハ免除ス。但シ地方税トシテノ附加税ハ是等ノ聯邦ニテモ免除セザルヲ例トス。

第三、比例税ト累進税。以上述べ來リタル如ク、我ガ所得税法ハ個人所得ニ對シテハ累進税主義ヲ一貫シ來リタルモ、法人所得ニ對シテハ比例、累進ノ兩主義ヲ混用シ、又第二種、公債、社債ノ利子等ニ對シテハ絶對ニ比例税ヲ執ルモノニシテ、從ツテ第二種ハ納税力主義ニヨラズシテ課税スルモノトス。例ヘバ茲ニ甲乙アリ。甲ハ社債券ヨリ百萬圓ノ利子の所得ヲ有シ、乙ハ之ヨリ單ニ百圓ノ所得アルニ過ギザルモ、兩者何レモ現行法ニヨリ百分ノ五ノ比例税ヲ課セラルルヲ以テ、是則チ人ヲ見ズシテ利子ナル物ニ對シテ課税スルモノニシテ、純粹ナル收入税即チ利札税ナリトス。即チ我ガ所得税法ハ累進主義ヲ採ルノ點ニ於テ徹底セザルモノアルノミナラズ、一部ハ所得税ナラザル

申告問題

收入税ヲ混ズル如キハ學理上ノ非難ヲ免レザルモ、是レ畢竟課税ノ便宜上ヨリ斯ル變則的規定ヲ爲スニ至リタルモノトス。

第四、申告問題。我邦ニテハ所得税新設ノ當時ヨリ申告主義ヲ採リアリテ何等ノ問題ヲモ惹起セザリシガ、他ノ諸國ニテハ本税ノ實施上、此ノ點ハ最モ重大ナル意義ヲ有シ且ツ最モ立法者ノ苦心ヲ値スルモノトス。

普ニテハ一八五一年ニ三千馬克以上ノ年所得ニ對シ部分的所得税ヲ施行スルヤ、明文ヲ以テ申告ノ義務ヲ課セザルコトトナシ、政府ハ稅務當局ヲシテ直接、間接ニ之ヲ強制セシメザルベク、且ツ新設ノ稅務委員ヲシテ個人ノ財産及ビ所得ニ關シ一切煩サキ闖入、即チ臨檢搜查等ヲ爲サシメザルベキヲ宣言シタリ。

佛ニテ一八一六年愈々本税ヲ實施スルヤ、國民ニハ申告ノ義務ヲ課セザルコトトシ、本人ニシテ進ンデ申告スル場合ニモ所得ヲ生ズル源泉ヲ述ブルノ要ナク、唯稅務署ノ所得高決定ニ對シ抗議ヲナストキニハ、所得ノ源泉ヲ申告スルノ義務アリトシ、又政府ハ決シテ營業ニ關スル書類ヲ提出セシムル如キ要求ヲ爲サザルベシトナシタリ。

英ニテ申告問題ニ胚胎シテ源泉課税主義ヲ採ルニ至リタル後モ、尙第四類ノ商工業者ニシテ經濟

的利害關係等ソノ地方委員ニ申告スルヲ欲セザルトキハ、特ニ設ケアル中央委員ニ申告スルヲ得ベシトナシテ秘密嚴守ノ保障ヲ與ヘタリ。然ルニ課税ノ公正ヲ期スルニハ到底申告ヲ缺クヲ得ズシテ、英ニテ免税、輕減ノ特典ニ浴セントスル者、又ハ割増税ヲ賦課セラルル者ハ、當然綜合的申告ヲ爲スノ要アルヲ以テ、是等ノ關係ヨリ申告者及ビ申告ノ範圍ハ次第ニ増加擴張シ、源泉課税主義ノ部分の廢棄トナルノ實ヲ呈スルニ至リタリ。

免稅點

第五、免稅點。明治二十年本稅新設ノ當時ニハ免稅點ハ三百圓ナリシガ、次第ニ之ヲ四百圓ニ、ソレヨリ五百圓ニ高メ、現行稅法ニテハ八百圓ニシテ、即チ一年ノ所得高八百圓以内ナルトキハ一切之ニ本稅ヲ賦課セザルモノトス（但シ八百圓以上ノ所得ニ對シテハ八百圓以下ヲモ免除セズ）。

我が免稅點ヲ以テ列國ニ對比スルトキハ、所得稅法ノ尙試驗的時代ニアル米ノ約六千圓、佛ノ約二千圓ナルヲ除外スルトキハ、英ノ免稅點ノ約千六百圓（現戰爭破裂後ハ之ヲ千三百圓ニ低下セリ）ナル外ハ、戰前ニ於テハ我邦以上ノモノナク、普國ハ約四百五十圓ニシテ、是スラ獨ノ聯邦中最高位ヲ占メアリテ小聯邦中ニハ何等之ヲ設ケザルモノモアリ。元來最低生計費ニ對シ課税セザルハ、其ノ本人ノ左右シ得ルノ自由所得ナラズシテ、何等納稅力ヲ有セザルニヨルモノトス。然ルニ列國ハ英ノ外ハ、何レモ所謂細民稅、即チ必要ナル日用品ニモ消費稅ヲ課シアルヲ以テ、所得

列國ニテ免稅點ヲ設ケルノ理由

稅ニテ免稅點ヲ設ケル以上ハ、大ニ之ヲ高メザル限リハ最低生計費ニ課税スベカラズトノ理想ハ徹底的ニ達成セラレザルモノトス。而テ大ニ免稅點ヲ高ムルノ一事ハ、多クノ國ハ財政主義ヨリシテ之ヲ爲スヲ得ザルモノニシテ、列國ニテ免稅點ヲ設ケルノ理由ハ寧ロ最低生計費ニ課スベカラズトノ理論ニヨルニ非ズシテ、多クノ小所得者ハ申告ヲ爲スノ能力ヲ缺クノミナラズ、是等ノ人々ニ對スル徵稅上ノ煩雜ヲ避クルノ點ニ出ルモノアリトス。

所得稅ノ輕減

勤勞所得ニ輕課ス

普ノ補足稅

第六、本稅ノ輕減及ビ免除。我が現行稅法ハ第三種勤勞所得一萬二千圓以下ナルトキハ、之ガ十分ノ一ヲ、又六千圓以下ナルトキハ之ガ十分ノ二ヲ控除シタル金額ニ課シ、以テ資産所得ニ比シテ勤勞所得ニ輕課スルノ主義ヲ取リアリテ、英國ノ如キモ最近時ニ至リ次第ニ課稅法ヲ修正シテ、勤勞所得ニ輕課スルノ制ヲ採用スルニ至リタリ。然ルニ事實上資産所得ト勤勞所得トヲ區分スルハ容易ナラザルモノアリ、殊ニ資産、勤勞共働ノ所得ノ如キハ然ルモノニシテ、普通ノ商工業者ノ所得ノ如キハ多クハ此ノ種ニ屬スルモノトス。是ニ於テカ普國ハ此ノ兩者ヲ區分シテ勤勞所得ニ輕課スルノ點ニ於テ一ノ新機軸ヲ出シ、所得稅法ニテハ何等兩者ノ區分ヲ設ケズシテ、別ニ補足稅ナル名稱ノ下ニ、收益財産ノミニ對シテ極メテ輕微ナル課稅ヲ爲スノ財産稅ヲ設ケ、以テ兩者負擔ノ均衡ヲ圖ルノ計ニ出デタリ。

前ニ述ベタル如ク、我が現行税法ハ一面ニハ法人所得ニ課税シ、他面ニハ此ノ所得税ヲ課セラレタル法人ヨリ配當等ヲ受取ルノ個人所得ニモ課税スルモノニシテ、或ル程度迄ハ爲メニ二重課税ヲ爲シアリ。又理論上所得ノ課税法トシテハ、當然事業上ノ債務的負擔ヲ課税スベキ所得中ヨリ控除スベキニ拘ラズ、我が税法ニテハ之ヲ控除セザルヲ以テ、立法者ハ是等ノ點ニ顧慮スル所アリテ、法人ヨリ受クル所得ニハソノ十分ノ四ヲ控除シタル分ニノミ課スルコトトナシアリ、然シ十分ノ四ハ多キニ失スルモノノ如シ。

右二項即チ勤勞所得ト法人ヨリ受クル所得トニ對シ控除シタル上ニ、ソノ所得金額三千圓以下トナリ、戸主及ビ家族中十八歳未満、若クハ六十歳以上ノモノ、又ハ不具廢疾者アルトキハ所得ヲ有スル者ノ申請ニヨリ、

一、所得千圓以下ナルトキハ是等一人ニ付キ百圓、

一、所得二千圓以下ナルトキハ是等一人ニ付キ七十圓、

一、所得三千圓以下ナルトキハ是等一人ニ付キ五十圓

ヲ控除シテ課税シ、此ノ控除ニヨリ八百圓以下トナルトキハ、全部免税セララルモノトス。而テ是等ハ所謂社會政策的課税法ト稱セラルルモ、納税者ノ一身一家ノ關係ヲ顧慮スル所得税ノ性質上ヨ

所謂所得
稅ノ社會
的立法

リスレバ、何等他ノ政策ヲ加味セザルモ當然斯ル輕減免除ヲ爲スベキモノニシテ、列國ニ率先シテ此ノ種ノ規定ヲ設ケタル普國ハ、以上ノ外尙戸主及ビ家人ノ長キニ亘ル疾病、引キ續キタル一家ノ不幸、多クノ負債、ソノ他多大ノ不利ナル影響ヲ納税力ニ及ボス等ノ場合ニハ、或ル輕減ヲ爲ス等ノ特例ヲ設ケアリ。又税制上ニ於テモ保守的ナル英スラ既ニ普ニ倣ツテ我税法ニ類似スルノ規定ヲ爲シアリ。

次ギニ我が現行税法ニテ本税ヲ全免スルハ、營利事業ニ屬セザル所得、公共團體ノ所得、軍人從軍中ノ俸給手當、學資金、郵便貯金、産業組合貯金、及ビ銀行貯蓄預金ノ利子等ナリトス。

又勅令ヲ以テ指定シタル重要物品ノ製造ニ從事スル者ニハ、三年間ハソノ業務ヨリ生ズル所得ニ課税セザルノ規定アリテ、即チ鐵條、鐵管、鐵線、銅ノ合金ノ條、管、竿、板、汽罐、原動機、製紙用バルブ、板硝子、コンデンスミルク、石炭酸、苛性曹達、グリセリン等ノ化學工業品、絹、亞麻、毛ノ織物等ハ此ノ適用ヲ受クルモノトス。

第七、税率及ビ收入高。我が第三種即チ個人所得ノ税率ハ前ニ舉示シタルガ如ク、隨分高歩ナル累進率ニシテ、(戰前ニ於ケル列國ノ最高税率ハ多クハ六%以下ナリ)。ソノ四百萬圓ヲ最高ト爲ス如キハ、極端迄累進率ヲ押シ進メタルモノトス。又我が税法ハ何千圓何萬圓ヲ超過スル分ニ若干ノ

所得稅率
及收入高

稅率ヲ課ストアルヲ以テ、超過累進稅主義ヲ採リタルモノトス。普通ノ累進稅主義ニヨルトキハ、上級ニ屬スル最少所得者ト、次級ニ屬スル最高所得者トノ間ニ、大ニ負擔ノ不均衡ヲ來スモノニシテ、例ヘバ所得金額三千圓未滿ニハ百分ノ五ヲ課シ、三千圓以上一萬圓迄ニハ百分ノ十ヲ課スルモノトスレバ、普通ノ累進法ニヨレバ三千圓迄ハ百分ノ五ノ稅率ナルニ、多少ニテモ三千圓ヲ超過スルトキ、例ヘバ三千十圓ノ所得ナルトキハ、此ノ三千十圓ノ總額ニ對シ百分ノ十、即チ三千圓ノ所得者ニ對スル二倍ノ課稅ヲ爲スモノニシテ、爲メニ納稅者ハ成ルベク次級ニ止マラントスルノ極、虛偽ノ申告ヲ爲シ、事實ヲ隱蔽スル等ノ不都合ヲ生ズルモノニシテ、此ノ不均衡及ビ之ヨリ生ズル弊害ハ、所得階級ノ尠ク累進率ノ間隔多大トナルニ連レ益々太甚シキニ至ルヲ以テ、之ヲ矯正スルノ道ハ超過累進率ヲ採用スルニアルモノトス。而テ是ハ上級ハ次級ニ比シ所得高ノ超過シタル分丈ケニ對シ上級ノ累進稅ヲ適用スルモノニシテ、前例ニヨレバ三千十圓中ノ十圓ノミニ對シ百分ノ十ヲ課シ、残りノ三千圓ニハ次級ノ稅率ヲ適用スルモノナリトス。理論上超過累進率ハ無論普通ノ累進率ニ優ルモ、之ガ缺點ハ所得稅ヲ計算スルノ困難ナルニアリテ、所得階級數ノ多キ我が所得稅ノ如キハ殊ニ然リトス。

英國ハ奈翁戰爭ニ際シ一時的戰時稅トシテ本稅ヲ起シタルモノニシテ、今尙ソソ性質ヲ保有シア

英ノ戰時所得稅
一九一八年
約三億
磅

リテ、ソノ稅率ノ如キハ財政ノ緩急ニ應ジ、必要アレバ毎年ニテモ之ヲ變更上下スルモノトス。同國ニテハ本稅ノ賦課上通例一磅ヲ單位トシ、之ニ對シ若干片ヲ課スルモノニシテ、從來採用シタル稅率ノ一端ヲ例示スレバ、所得一磅ニ付キ一八四二年ニハ七片(三、九二%ニ當ル)ヲ課セシガ、一八五六―五七年ノ「クリミア」戰役中ハ一六片即チ六、六六%ニ高メタリ。之ニ反シ、一八七四―七六年間ニハ僅ニ二片即チ〇、八三%、一八七七―七八年ニハ三片ヲ課シ、ソレヨリ一九〇〇年迄ハ五―八片ノ間ヲ上下セシガ、同年四月ニハ一志、即チ五%ニ上リ、一九〇二年ニハ一志三片ニ高メタリシニ、一九〇三年ニハ既ニ之ヲ一片ニ低下シタリ。開戰當時ハ一志四片ナリシガ、夫レヨリ多大ノ増率ヲ爲シ、之ガ收入モ激増シ、一九一三年度ノ收入高ハ四千七百二十四萬七千磅ナリシニ、休戰トナリタル一九一八年度ニハ二億九千四十五萬磅ノ巨額ニ上リタリ。此ノ大負擔ニ對スル國民ノ痛苦ハ實ニ想像ニ餘リアルモ、兎ニ角稅率ヲ上下スルノ屈伸自在ナルハ到底他ノ企テ及バザル所ナリトス。要スルニ本稅ハ人々ノ納稅力ニ應ジテ課稅スルモノナルヲ以テ、稅率ノ高低ニヨリ國民全般ノ負擔ハ略ソレ丈ケノ増減ヲ爲スト同時ニ、人々ノ間ノ負擔ノ均衡ハ之ニヨリ爲メニ大ニ打破セラルルニ至ラザルモノニシテ、綜合課稅ニ非ズシテ變則的ナル源泉課稅ヲ爲ス英ノ所得稅スラ大體上然ルヲ得ルモノナリトス。

我が所得税ノ收入高ハ、

- 大正八年度豫算 一三一、〇四五、六四九圓
- 大正十年度豫算 二六八、〇九九、〇九三圓
- 大正十一年度豫算 二〇三、五七八、五三七圓

ニシテ、明治二十年度ニ於ケル本税採用當時ノ年收ハ百萬圓内外ニシテ、ソレヨリ明治三十年ニ至ルノ間ニ於テ漸クニ二百萬圓ニ達スルヲ得ルニ過ギザリシガ、今ヤソノ收入豫算額ハ二億圓ニ上リ、(大正十年度ノ豫算高ハ多大ニ失シタリ。)銀行定期預金利子ニ課スルノ收入ノミニテモ五百萬圓ニ上ルベシト謂フ。是レ畢竟税率ガ非常ニ高歩ナルト、國民經濟ノ進歩發展ト相俟ツテ、此ノ巨額ノ收入ヲ生ズルニ至リタルモノナルモ、兎ニ角之ヲ本税新設ノ當時ニ比スレバ實ニ隔世ノ感ナキヲ得ザルモノトス。

以上列舉説明シタル外、本税施行上極メテ重要ナル點ハ、收税吏ト調査委員ノ資格問題ニシテ、性質上調査ノ極メテ困難ナル各人ノ所得ニ對シテハ、是等ノ機關ハ殊ニ専門的知識ニ富ミ、事務ニ習熟スルヲ要スルト同時ニ、一切政黨政派ノ關係ヲ離レテ、公平無私ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムヲ必要トナスモノニシテ、北米合衆國ニテ一八七一年ニ本税ヲ廢止シタルノ一因ハ、適當ナル調査委員ト

所得税ノ重要問題トハ收税吏ノ調査委員ノ資格

收税吏員ヲ得ル能ハザルノ點ニアリタリ。而テ是ハ次章ニテ述ブル所ノ財産税ニ對シテモ亦然リトス。假リニ我邦ニシテ現行所得税、營業税ノ外ニ尙一般財産税ヲ課スルモノトセンカ、此ノ點ハ國民ノ利害上最モ重要問題トナルベキモノトス。

近代の國家中列國ニ率先シテ所得税ヲ採用シタルハ一七九九年ノ英國ニシテ、同國ノ名相若「ピット」ガ奈翁戰爭ニ於ケル戰時財政ヲ支持スルノ一手段トシテ、ソノ無比ナル精悍ト智略トヲ奮ツテ當時政治上社會上ニ優勢ヲ占メタル貴族的大農黨ノアラユル自我的反抗ヲ突破シ、遂ニ一時的戰時税トシテ本税ヲ採用スルニ至リタルモノニシテ、當時佛ニテハ大革命ノ新氣運ニ乘ジ根本的ニ税制ヲ釐革シ、重農學派ノ單一税論ニ基キ地租ヲ主税トナシ、之ニヨリ國費ノ大部分ヲ舉ゲントスルノ計畫ハ失敗ニ終リ、爲メニ次第ニ收入税主義ニ推移スルノ時代トナリシナリ。即チ奈翁戰爭ニ於テ我レ彼ヲ仆サズンバ彼ハ我ヲ滅ボスベシトノ大決心ヲ以テ相抗争シタル英ト佛トハ、税制ニ於テモ亦根本的ニソノ針路ヲ異ニシタルモノトス。

英國ニテハ新タニ採用セラレタル一時的戰時税ナル所得税(新設ノ當時ヨリ今ニ至ル迄 General Property and income taxト稱ス)ハ、一八〇二年ノ「アミアン」ノ平和條約後ハ直チニ撤廢セラレシガ、翌一八〇三年ニ再ビ戰爭ノ破裂シタルニヨリ更ニ之ヲ復興シ、奈翁戰爭ノ終リタル翌年即チ

列國ニ於ケル所得税ノ採用
英ノ所得税採用

一八一六年ニハ猛烈ニ本税ニ反對シタリシ廢止論者ノ勝利ニ歸シ、議會ニテハ單ニ之ヲ撤廢スルノミナラズ、永久ニ之ヲ再興セザル爲メ、本税賦課ニ關スル一切ノ書類ヲ燒棄スベシトノ案ヲモ通過セシメタリ。ソノ後二十餘年ヲ經過シ、本税ハ若「ピット」ニ次イデ有名ナル政治家ニシテ、苛察煩雜ナル税制ヲ革新シ、且ツ現行ノ銀行法ヲ制定シタル「サー、ロバート、ピール」ノ手ニヨリ、一八四二年ニ至リ更ニ復興セラレ、爾來三四十年間ハ絶ヘズ廢止論ヲ唱フル者アリタルモ、社會的財政の大勢上最早之ヲ動カス能ハズシテ、爾來曾テ一回モ之ガ實施ヲ停止シタルコトナク、一時的戰時税ノ儘ニテ今日ニ至リタリ。

普ノ所得
税採用

普國ハ奈翁戰爭中英ニ倣ツテ所得税ヲ採用セントシタル「フライヘア、フォン、スタイン」ノ鐵腕ヲ以テスルモ、遂ニ之ガ目的ヲ達スルヲ得ザリシガ、此ノ失敗者ガ本税ニ關スル普國人ニ對スル批評ニ依レバ、普國ニテハ輿論ハ毫モ重キヲ置クニ足ラズシテ、國民間ニハ根底深キ利己的觀念盛ニシテ、ソノ半開ニシテ放縱ナルコトト、北方人ノ無趣味、粗野、殺風景ト相混ジアリテ、斯ル亂暴ナル輿論ニ對シテハ、嚴重ナル刑罰的手段ヲ以テ之ヲ矯メ直スベクシテ、之ヲ愛惜シ之ニ讓歩スルトキハ益々之ヲ不都合ナル方面ニ導クニ至ルベシトナシ、又普ノ貴族連ノ所得税審査會ノ記録ノ如ク、惡意ト誤魔化シトノ大規模ニ結合セラルルコトハ、他ニ之ガ類例ヲ見出スニ困難ナリトナシタリ。

之ニヨリ此ノ官僚的政治家ト當時ニ於ケル「プロシヤ」貴族ノ面目ハ躍如タルモノアレド、如何ンセシ當時同國ハ所得税ヲ實施スルニハ政治上經濟上尙未熟ナリシナリ。是ニ於テカ同國ハ文明的租税ノ稱アル本税ノ實施ヲ思ヒ止マリテ、野蠻的租税ナル人頭税ヲ人税ナル名稱ノ下ニ採用スベク余儀ナクセラレ、ソレヨリ次第ニ階級税ニ移リ、一八四七年ニハ一般所得税法ヲ議會ニ提出セシモ成立ヲ見ルニ至ラズ、一八五一年憲法ヲ發布スルト同時ニ部分的所得税ヲ實施シ、遂ニ一八九一年ニ至リ全國ニ亘リテ一般所得税ヲ採用シタルコトハ既ニ階級税ノ部ニテ之ヲ述ベタリ。

英普兩國ニ於テ百二三十年前ニ於テ所得税實施ノ如何ニ難關ニ遭遇セシヤヲ見、更ニ我邦ニテ明治二十年ニ申告主義ニヨル累進的所得税法ノ容易ニ新設セラレタルノ蹟ニ徴スルトキハ、一種奇異ノ感ニ打タレザルヲ得ズシテ、此ノ歴史ハ如何ニ英、普ノ國民ガ今モ昔モ利己的精神(權利ノ觀念?)ニ充滿シアルヤヲ證スルト同時ニ、我ガ立法者ノ無謀、我ガ國民ノ無自覺ナルヲ示スモノニシテ、大正九年ニ於ケル所得税大改正ニ際シ、彼ノ大ニ國民ノ負擔ヲ加重スルト同時ニ、大ニ不完全ナル改正法案ニ對シ國民間ニ微温的反對運動アリタルノミニシテ、同年ニ於テ直チニ兩院ヲ通過シタル如キハ、今ニ至ルモ尙我ガ國民ノ財產權ニ對スル無自覺ヲ證スルモノニシテ、余ハ斯ル國民ガ果シテ誠實ニ新所得税法ヲ實施スルノ決心ト資格トヲ有スルヤヲ疑ハザルヲ得ズ。

其他ノ國
ノ所得税

英普ト我
邦トノ所
得税採用
ニ關スル
比較

英普以外
ノ所得稅
採用

獨ノ聯邦「ババリア」ハ他ニ率先シテ一八四八年ニ所得稅ヲ實施セシモ、一八五六年ニ之ヲ廢止セシガ、是ハ本稅ハ小農、商、工業者多數ヲ占メタル當時ノ同國ニハ尙早ニ失シタルニヨルモノナリ。然ルニ十九世紀中葉後ヨリ同世紀末ニ至ルノ間ニ於テ、獨ノ諸聯邦ハ次第ニ一般所得稅ヲ採用シ、ソノ尙之ガ採用ヲ躊躇シアリタルモノモ、本世紀ニ入りテヨリ他ノ羣ニ倣フニ至リ、現戰役前ニ於テハ二十五聯邦中二十三ハ一般所得稅ヲ實施シ、單ニ兩「メクレンブルヒ」ト外ニ政治上特別ノ關係ヲ有シタル「アルサス」「ローレン」ニ州ガ之ガ例外ヲ爲シタルノミナリシ。

日英及ビ獨諸聯邦ノ外尙戰前ニ於テ一般所得稅ヲ採用シアリタルハ奧國、洪牙利、瑞典、丁抹、挪威、瑞西ノ「バーゼルスタット」外三州ニシテ、ソノ他和蘭、伊國、瑞西ノ多クノ州及ビ英領印度ハ部分の所得稅ヲ實施シアリ。又數十年來絶エズ之ガ計畫アリテ容易ニ之ヲ採用スルニ至ラザリシ佛國、及ビ國內ノ事情殊ニ憲法問題ノ爲メ之ガ實施ヲ妨ゲラレタル米ノ華盛頓政府スラ現戰役破裂前後ニ於テ遂ニ之ヲ實施スルニ至リタリ。(米ノ諸州中本稅ヲ採用シタルハ十六州ナリシモ、現ニ之ヲ實施シアルハ少數ニシテ、之ガ收入モ亦少額ニシテ一般ニ重要視セラルルニ至ラズト云フ、而テ其ノ收入ノ少額ナルハ主トシテ納稅者ノ不德義ト收稅吏ノ不能ニシテ不熱心ナルニヨルモノトス)。

英國所得

源泉課稅主義ノ標本國ナル英國所得稅ノ開戰前ニ於ケル規定ノ大要ヲ見ルニ、免稅點ハ曾テ行ハ

稅法ノ概

レタル五十磅時代ヲ最低トシテ、開戰當時ニハ百六十磅、又定率ハ所得一磅ニ付キ一志四片ニシテ、勤勞所得ハ千五百磅迄ハ十片半、一五〇一—二〇〇〇磅迄ハ一志、二〇〇一—三〇〇〇磅迄ハ一志四片ナリシ、此ノ外資産所得ト勤勞所得トヲ問ハズ、一六〇—四〇〇磅ハ一六〇磅ヲ免除シテ、ソノ殘額ノミニ課稅シ、四〇〇—五〇〇磅ハ一五〇磅ヲ、又五〇〇—六〇〇磅ハ一二〇磅ヲ又六〇〇—七〇〇磅ハ七〇磅ヲ免除シソノ殘額ノミニ課稅シタリ。即チ七〇〇磅以下免稅點迄ハ累減法ヲ採リアルモノトス。

英ノ累減

英ノ大所
得ニ對ス
ル割増稅

又大所得ニ對シテハ、此ノ外ニ割増稅(Supertax)ヲ課シアリテ、三、〇〇〇磅ニハ此ノ中ノ五〇〇磅ニ對シ別ニ五片ヲ課シ、三、〇〇〇—四、〇〇〇磅ニハ三千磅ヲ超過スルノ分ニ對シ別ニ七片ヲ課シ、四、〇〇〇—五、〇〇〇磅ニハ四千磅ヲ超過スル分ニ對シ別ニ九片ヲ課シ、五、〇〇〇—六、〇〇〇磅ニハ五千磅ヲ超過スル分ニ對シ別ニ一志一片ヲ課シ、六、〇〇〇—七、〇〇〇磅ニハ六千磅ヲ超過スル分ニ對シ別ニ一志三片ヲ課シ、最後ニ七千磅以上ニハ以上ノ分ニ對シ別ニ一志四片ヲ課スルヲ以テ、之ニヨレバ五千磅ノ所得ニ對スル稅率ハ八・二%、六千磅ノ稅率ハ八・七%、八千磅ノ稅率ハ九・七%、一萬磅ノ稅率ハ一〇・四%、十萬磅ノ稅率ハ一三%トナルノ割合ナリトス。

英ニテ源

次ギニ英ニテ源泉課稅主義ヲ採ルニ至リタル理由ヲ見ルニ、同國ニテ始メテ本稅ヲ施行シタル當

時ニハ、絶對ニ申告主義ニ基クノ綜合課税主義ヲ採リ、英人(愛蘭ヲ除ク)ノ總所得ヲ年額一億二千萬
 磅トシ、本税ニヨリ之ガ約十分ノ一即チ千萬磅以上ノ收入ヲ得ベキヲ豫量シ、所得二百磅以上ニ一
 ○%ノ高率ヲ課シ、二百磅以下六十磅迄ハ税率ヲ輕減シ、六十磅以下ヲ免除セリ。然ルニ實施ノ結
 果ハ豫期ニ副ハズ、一八〇一年ニハ五、六二八、九〇三磅ヲ擧ゲタルニ過ギズシテ、「ピット」ハ前ニ
 述ベタル如ク、此ノ不成績ヲ以テ國民ノ恥ツベキ忌避、醜キ虚偽ノ致ス所トナシタレド、一面ニハ
 税率ノ高カリシガ納税者ヲシテ申告ヲ忌避シ若クハ虚偽ノ申告ヲ爲サシメタル一因ニシテ、之ニヨ
 ルモ所得税ノ如ク性質上隱匿シ易キモノニ對シテハ、税率ノ高キハ必シモ大收入ヲ擧グルノ道ニ
 非ザルヲ知ルニ足ルベシ。元來權利思想ニ富ミ經濟事業ノ競争ニ熱中シ、且虚榮心ノ熾ナル國民
 ハ、非常ニ財産所得ノ申告ヲ嫌厭スルモノニシテ、此ノ點ヲ看取シタル英ノ立法者ハ一八〇三年ニ
 於テ一旦廢止シタル本税ヲ復興スルニ方ツテヤ、一般申告法ニヨラズシテ所得ヲ生ズル各種ノ源泉
 ニ區分シテ申告セシメ、且ツ此ノ申告モ成ルベク本人ニ非ズシテ、俸給、利子等ヲ支拂フ官廳銀行
 等ナル第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルト同時ニ本人ニ代リテ納税セシムルノ方針ノ下ニ源泉課税法ヲ
 案出スルニ至リ、夫レヨリ今ニ至ル迄英ノ所得税法ハ人々ノ所得ヲ五類ニ(Schedules)區分シアリ
 テ、之ガ第一ハ所有土地、家屋ノ賃貸料ヨリノ所得、第二ハ土地ノ利用ヨリ生ズル所得ニシテ重ニ

小作人ガ賃借シタル土地ヲ耕作スルヨリ生ズル所得、第三ハ一定ノ利子ヲ附スルノ有價證券ヨリ生
 ズルノ所得、第四ハ商工業等ヨリノ所得、第五ハ給料年金的所得ニシテ、此ノ内第三ノ一定ノ利子
 所得、第五ノ給料年金的所得ハ何レモ之ガ支拂ノ義務者ヨリ申告セシムルコトトシ以テ源泉申告法
 ヲ採ルト同時ニ、之ヲシテ之ニ該當スルノ所得税ヲ支拂高ヨリ控除シテ納入セシムルノ源泉課税主
 義ヲ採ルモノトス。之ト同ジク第一類モ亦土地家屋ノ賃借者ヲシテ之ヲ納税セシメ、他日賃借料ヲ所
 有者ニ支拂フノ際ニ之ヲ控除セシム、但シ賃借料年額十磅以下ナルトキハ所有者ヲシテ自ラ納税セ
 シムルモノニシテ、是ハ徵收ノ便宜上ヨリ出ルノ變則ナリトス。又土地家屋ノ所有者ニシテ之ヲ擔
 保トシテ負債ヲ起シアルトキハ、債權者ノ此ノ利子ヨリ生ズル所得ハ債務者ナル土地家屋ノ所有者
 ヲシテ之ヲ納税シ、他日債權者ヘ利子ヲ支拂フトキソレ丈ケ控除セシム。(土地ノ所有者ガ自ラ農業
 ヲ營ミソレヨリ所得ヲ生ズルトキハ、例外トシテ第四類ニ加ヘ所有者ヲシテ自ラ申告シ且ツ自ラ納
 税セシム。)

第二類ノ土地賃借者ハ所有者ノ支拂フベキ所得税ヲ立テ替ヘ納入スル外、自己ノ耕作上ノ所得ニ
 對スル所得税ヲ支拂フモノニシテ是ニハ二法アリ、第一ハ借地人ニシテ帳簿ヲ備ヘテ商工業者ノ如
 ク收支ノ計算ヲ明カニスルトキハ、一八八七年來之ガ徵收上商工業者ト同様ニ見做シ第四類ニテ之

ヲ課ス。第二ハ農民ハ帳簿ヲ備ヘズトノ古來ヨリノ言ヒ慣ハシニヨリ且ツ借地耕作ノ收入ハ借地料ト一定ノ關係ヲ有ストノ前提ノ下ニ、借地料ニ該當スルノ一部ヲ借地人ノ所得ト見做シ、今日ニテハ之ヲ借地料ノ三分ノ一トナシアリ。是ハ課稅上借地人ニ對シテ恩惠的輕減の意味ヲ含ミアリト謂フ。而テ借地人ハ此ノ二法中擇一ノ權ヲ有シアリテ、園藝者ハ第一法ニヨルヲ原則トナセド、多クノ借地人ハ第二法ニヨルヲ以テ、例ヘバ一九一一年ニハ第一法ニヨリテ納稅シタル農民ハ僅カニ三六四人アリタルノミ。

第三類及第五類ハ前ニ述ベタル如クニシテ、此ノ兩者ノ納稅法ヲ Stoppage at the Source 即チ源泉ニ止マルト稱スルハ、利子俸給等ニシテ所得稅ニ該當スベキ分ハ、本人ノ手ニ入ラズシテ既ニ之ヲ支拂フ官廳銀行等、即チ之ヲ生ズル源泉ニテ控除シ去ルヲ以テナリ。

第四類ハ商業ナル源泉ヨリ生ズル所得ニシテ、尙ソノ以外之ガ使用人、私法人、自由職業者ノ所得、株式ノ利益配當ヨリスル所得及ビ他ノ部ニテ課稅セラレザルモノヲ含ミ、一九〇十年以來ハ所得稅總收入高ノ六〇%以上ヲ占ムル最重要ナル部門ニシテ、是亦使用人ノ所得、株式ノ配當等ハ出來ル丈ケハ源泉課稅ノ手段ニヨルモ、之ガ主要ナル商業ノ所得等ハ、多クハ本人ヲシテ自ラ申告シ自ラ納稅セシムルヲ要スルモノニシテ、第二類ト相並ンデ課稅上最モ困難ナルモノナリ。而テ

源泉課稅
法ニテハ
地方ノ附
加稅ヲ得
ズルヲ課
ス

申告ノ秘
密ノ保障
北米合衆
國所得稅
ノ沿革

第二類ハ納稅者ナル農民ハ善意ニ申告セントスルモ、事實上帳簿ヲ備ヘザル等、自ラソノ所得ヲ知ルヲ得ザルモノ多キ等ヨリ、前述ノ簡便法ニヨツテ農民ニ利益アルノ解決ヲ爲シ得タルモ、第四類ノ商業者ノ所得ニシテ自ラ申告シ自ラ納稅スルヲ要スルモノハ、故意ニ虛偽ノ申告ヲ爲ス等ノ事アルヲ以テ、ヤヤ完全ナル課稅ヲ爲スニハ國民ノ租稅道德ノ進展、課稅法ノ改良等ニ俟ツノ外ナキモノトス。

以上ハ英國ニ於ケル源泉申告法ノ大要ニシテ、此ノ主義ヲ採ル同國ノ所得稅ハ、全所得ヲ綜合統一シテ賦課スルモノニ非ルヲ以テ、地方團體ニテハ我邦、普國等ノ如ク所得稅ニ對スル附加稅ヲ課スルヲ得ズ。而テ是ハ一面ヨリスレバ、本人ガ所得ヲ申告スル場合ニハ、地方稅ノ附加ヲ顧慮シテ殊更ニ所得高ヲ低ク申告スルノ要ナキノ長所ヲ有スルモノトス。

又第一類及第二類ハ毎年ニ非ズシテ、三年毎ニ所得高ヲ調査ス。次ギニ現戰役開始ノ前後ニ於テ、漸クニシテ本稅ヲ實施スルニ至リタル北米合衆國及ビ佛國ノ稅制ノ大要ヲ述ブレバ、元來所得稅ハ最モ民衆的平民的租稅ニシテ、獨逸社會黨ノ如キハ所得單一稅論ヲ主張スルノ有様ナルニ、民衆的政體ヲ有スル二大共和國ニシテ、大ニ他ニ後レテ之ガ實施ヲ見タル如キハ、主トシテ富豪專制ノ致ス所ニシテ、此ノ點ヨリスレバ民衆國ノ必ズシモ民衆ニヨリテ

支配セラレザルヲ知ルニ足ルベシ。而テ米國ニテハ富豪專制ノ外、尙憲法問題ガ彼等ニ利用セラレテ之ガ實施ヲ妨グルアリタリ。同國憲法ニテハ「ワシントン」政府ニ與フル直稅賦課ノ權限ハ極メテ曖昧ナルモノアリテ、一面ニハ之ガ賦課ノ權能ヲ賦與スルト同時ニ、直稅ハ各州ノ人口ニ比例シテ平等ニ賦課セザルベカラズト爲シアルヲ以テ、嚴正ニ之ヲ解釋スルトキハ人頭稅以外ノ直稅ヲ課スルハ不可能ナリトス。而テ事實上中央政府ハ關稅收入ヲ以テ主要ナル財源トナシ之ニ加フルニ他ノ消費稅ヲ以テシ、直稅ハ各州及ビ地方稅トシテ賦課スルヲ原則トナシアルモ、是ハ絕對的ナラズシテ南北戰爭ニ際シテハ相續稅ヲ起シタルコトアリ。又一八一二—一八一四年ノ英米戰爭ノ際ニハ小規模ナル所得稅ヲ課シタルコトアリテ間モナク之ヲ廢止セシガ、南北戰爭ノ破裂スルニ及ビ、一八六一年ノ法律ヲ以テ本稅ヲ採用シ、一八七一年ニ至リ之ヲ廢シタリ。而テソノ理由ハ戰時中ニ高メラレタル保護的關稅收入ハ戰後モ依然トシテ繼續セラレ、之ヨリ多クノ收入ヲ生ズルヲ以テ、所得稅ヲ繼續スルノ要ナキニ至リタリト謂フニアレド、一面ニハ資本家ガ大規模ニ所得ヲ隱蔽シ、且ツ稅務吏ノ腐敗無能ニヨリ、本稅ノ本能ヲ發揮スルヲ得ザルニヨリタルモノトス。爾來學者、政論家間ニ本稅ノ復興ヲ主張スル者アリテ、ソノ潛勢力ハ次第ニ侮ルベカラザルニ至リシガ、自由主義ヲ標榜シ、保護的稅率ノ輕減ヲ主張シ、富豪專制ノ弊ヲ絶叫シタル「デモクラット」黨ガ政權ヲ握リ、

米ノ所得稅ト憲法問題

米ノ經濟立法大審院ヲモトス

「クリーブランド」ガ入ツテ大統領トナルニ及ビ、一八九四年ニ本稅ヲ起シ四千弗以上ノ所得ニ對シ二%ヲ課スルコトトナシタリ。然ルニ之ガ反對者ハ遂ニ大審院ヲ動カシ、本稅法ハ憲法違反ニシテ實施無効ナリトノ判決ヲ下サシメ、政府ハ已ムヲ得ズ一旦徵收シタル稅金ヲ拂ヒ戻シ、本稅ヲ撤廢シタリシガ、茲ニ一ノ奇妙ナルハ、英米戰爭ニ際シ本稅ヲ施行シタルトキニハ何等憲法問題ヲ惹起セズ、又南北戰爭當時ノ實施ニ付イテハ憲法問題トナリタルモ、同院ハ憲法違反ニ非ズトノ判決ヲ下シ、ソノ理由トシテ本稅ハ所得ニ課スルノ形式ヲ採ルモ、ソノ實ハ企業ニ對スル一種ノ免許料ニシテ、直稅ト謂フベカラズトナシタルノ事歷ナリトス。絶ヘズ正義ヲ口ニスル同國ニテハ、鐵道王、鋼鐵王、石油王ナド幾多ノ經濟王アリテ、自ラ法律ヲ制定セザルモ之ヲ制定スル者ヲ左右ストノコトナルガ、彼等ハ單ニ立法者ノミナラズ最高司直ノ府ナル大審院ヲモ左右スルナリ。而テ「ウイロン」大統領ノ「ベルサイユ」講和條約ニ對スル批准ヲ拒ミタルモ、所得稅問題ニ付キ大審院ヲ動カシタルモ、何レモ資本主義ノ代表者ナル「レバプリンカン」黨ナリシナリ。斯クテ本稅廢止後ハ關稅ノ輕減ト本稅ノ採用トハ相並ンデ朝野ノ間ニ於ケル有力ナル問題トナリ、本稅ノ實施ニ付イテハ「デモクラット」ト「レバプリカン」兩黨ノ意見次第ニ相接近スルニ至リタルヲ以テ、憲法上ノ疑點ヲ一掃スル爲メ一九〇九年憲法修正ノ議ヲ決シタリシガ、同國ニテハ憲法ノ修正ヲ爲スニハ議院ニ

テ之ニ協賛スル外、總ベテノ州ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ要スルヲ以テ、ソノ間幾多ノ時日ヲ要スルモノアリ。政府ハ此ノ日子ヲ空過スルヲ欲セズシテ此間ニ會社稅ヲ起シ、特許ヲ得タル會社ノ所得ニ對シ課稅スルコトトナセシガ、是ハ疑モナク部分的所得稅ナレド、一種ノ免許稅ニシテ憲法ノ條章ニ牴觸スルモノニ非ズトナシ大審院ハ之ヲ傍觀シアリテ、當時本稅ヲ以テ憲法違反トナシ之ヲ無効ナラシムルノ反對運動アリタルモソノ目的ヲ達セズシテ止ミタリ。一九一二年末ニ至リ多年政權ヲ離レタル「デモクラット」黨ハ大統領トシテ「ウイilson」ヲ迎フルニ及ビ、保護稅ノ輕減、所得稅採用ノ議ヲ決シタリシニ、一九一三年二月二十八日ニ至リ全州ノ四分ノ三以上ハ憲法修正ニ同意シタルヲ以テ、同年十月三日ヲ以テ新關稅法ト共ニ新所得稅法ノ公布ヲ見ルニ至リタリ。本稅ハ自然人ノ純所得三千弗以上ニ對シ之ガ一%ヲ課シ、二萬弗以上ニハ更ニ一%ノ附加稅ヲ、五萬弗以上ニハソノ上更ニ一%ノ附加稅ヲ課シ、斯クシテ最高五十萬弗以上ニハ六%ヲ課スルモノニシテ、此ノ外前ニ述ベタル會社稅之ガ一部トナシ、一九一五年ニハ一億五十萬弗ノ收入ヲ豫算セリ。其ノ後同國ノ自ラ進ンデ戰禍ニ投ズルニ及ビ、大ニ稅率ヲ增加シ之ガ收入モ從テ劇增シ、一九二〇年度ノ收入豫算ハ利得稅ヲ合シテ三十二億弗ニ上リ、一九二二年度分ハ大ニ減少シタレド尙二十六億二千五百萬弗ノ巨額ナリトス。

米國ノ一九一三年
新所得稅法

佛國ニテ
容易ニ所得稅ヲ
實施シ得ザル
理由

佛國ニテハ數十年來所得稅新設ノ議ハ絶ヘズ議會ノ問題トナリシモ、ソノ容ルル所トナラザリシハ、一ニハ富豪專制ニシテ彼等ハ本稅ノ採用ハ自ラ累進率ノ適用トナリ、ソノ極、高度ノ累進ニヨリ以テ部分的財產沒收ノ實ヲ呈スルニ至ルヲ恐ルルノ念太甚シク、且ツ同國民ハ大革命時代ノ制度ニ對スル執着心強靱ニシテ、此ノ當時ニ制定セラレタル收入稅主義ヲ撤廢スルヲ欲セズシテ、頑強ニ之ヲ支持セントスルノ狀アリ。「ロツツ」教授ノ如キハ、佛國ニテハ稅制ノ變更ヨリハ、政體ノ變更ハ寧ロヨリ大ニ容易ナリトノ言ヲ爲シアリ。右ノ外、同國ニテハ所得稅問題ハ常ニ政治的關係、議員ノ黨派問題、黨情ノ紛糾錯雜絶ヘザル内閣、殊ニ藏相ノ交迭ニヨリ妨害セラレアリテ、「ワグナー」ニヨレバ、奈翁三世沒落即チ一八七〇年九月四日ヨリ一九一〇年ノ始メ迄ニ、三十二人ノ藏相ヲ更ヘタリト謂フ（一人ニテ二回以上藏相トナリタルヲ省ク）從ツテ財務當局ハ藏相ノ送迎ニ日モ亦足ラザルノ有様ナリシナリ。

右ノ次第ナルヲ以テ「コンラード」ハ、佛ニハ戰爭事變等非常ナル場合ニ遭遇スルニ非ズンバ、所得稅ヲ採用スルヲ得ザルベシトノ言ヲ爲セシガ、佛獨ノ激烈ナル軍備競争ニヨリテ財政ハ大困難ニ陥リ、一九一三年陸軍三年兵役制ヲ實施シテ益々軍事費ヲ増加スルニ至リタルソノ翌一九二四年七月十八日ニ於テ、本稅法ハ多年懸案ノ後愈々成立公布セラレシガ、間モナク戰爭破裂ノ爲メ一時之

ガ實施ヲ見合セ、一九一六年四月一日ヨリ施行スルコトナリタリ。而テ新所得稅ハ主稅トシテ設
定セラレタルモノニ非ズシテ、單ニ收入稅ノ補足的租稅タルノ使命ヲ帶ブルニ過ギズシテ之ガ大要
ヲ述ブレバ、

本稅ハ綜合的課稅主義ヲ採リ、免稅點ハ五千法ニシテ種々ノ輕減法アリ、即チ第一、負債ソノ他
ノ負擔及ビ租稅ヲ控除シ、第二、結婚者ハ總所得中ヨリ二千法ヲ控除シ、第三、納稅者ハ係累者五
人迄ハ一人毎ニ一千法ヲ、又ソレ以上ノ係累者ニハ一人毎ニ千五百法ヲ控除スルノ權ヲ有ス、而テ
此ノ係累者ハ課稅セラルベキ所得ヲ有セズシテ、且ツ生計ヲ營ム能ハズ若クハ七十歳以上ノ尊屬
又ハ生計ヲ營ム能ハズ、若クハ二十一歳以下ノ卑屬ナリトス。以上ノ外尙種々ノ輕減法アリテ、家
長自身ノ所得ト妻及ビ同居者ノ所得ヲ合シタルモノヨリ、以上ノ控除ヲ爲シタル殘額五千法以上ニ
對シ本稅ヲ課スルモノニシテ、之ガ稅率ハ二%ナルモ、五千乃至一萬法ニハ此ノ定率ノ五分ノ一ヲ、
ソレヨリ一萬五千法迄ハ之ガ五分ノ二ヲ、ソレヨリ二萬法迄ハ之ガ五分ノ三ヲ、ソレヨリ二萬五千
法迄ハ之ガ五分ノ四ヲ課シ、二步率ハ二萬五千法以上ノ所得ニ對シテ始メテ適用セラルルモノニシ
テ、即チ二萬五千法以下ハ英國同様累減法ニヨルモノナリトス。

右ノ如ク免稅點ハ大ニ高ク且稅率ハ低下ナル外、納稅者ハ申告ノ義務ヲ有セズシテ所得ノ調査充

分ナラザルモノアルヲ以テ、之ガ收入高ハ僅少ニシテ眞ニ他ノ直稅ノ補足タルニ過ギザルモノト
ス。(爾來戰期ノ長ガ引クニツレ、免稅點ヲ低下シ且ツ大ニ稅率ヲ増加シタリ。)

「コンラード」年報ニヨレバ、白國ハ戰後財政ノ窮乏ニ充ツル爲メ、一九一九年新タニ所得稅法ヲ採
用セシガ、之ガ大要ハ、土地ノ所得ニハ臺帳ニヨル法定收入ノ一〇%、動的財產ノ所得ニハ是亦一
〇%、職業ヨリノ所得ニハ三千法迄ハ二%、ソレヨリ三千法ヲ増ス毎ニ〇、五%ヲ増率シ、最高一〇
%ニ至ル又公私ノ吏員ノ所得ハ唯一%ヲ課セラル。而テ以上ノ各所得ノ源泉ニ課スル外、各人ノ
總所得ニ對シ附加稅ヲ課ス此ノ附加稅ハ最低生計費ヲ免除シ、ソレヨリ以上ノ所得ニ對シ一一〇
%ノ累進率ヲ課シ、之ガ最高率ヲ負擔スルハ九萬五千法以上ノ所得ナリトス。同國ハ此ノ新所得稅
ヲ採用ニヨリ、從來ノ地租、家屋稅、牖戶稅、營業稅、動產稅等ヲ廢止スルノ機會ヲ作りタリ。

最後ニ一言スベキハ所得稅ト國民ノ政治思想トノ關係ナリトス。「ロツツ」教授ハ大ニ此ノ點ニ重
キヲ置キ、所得稅、財產稅ノ如キ人稅ハ、ソノ國ニ於ケル政治ト民心トガ相一致スルニヨリ、始メ
テ之ガ本能ヲ發揮スルヲ得ベキヲ説キアリテ、民衆的議院政治ノ國ニ非ズンバ此ノ極致ニ至ラザル
ベシトノ意ヲ寓シアルモノノ如クナルガ、果シテ然ラバ此ノ點ハ余ノ贊同スルヲ得ザル所ナレド、
大體上氏ノ所論ハ傾聽ニ値スルモノニシテ、現ニ獨逸ガ遂ニ「アルサス」「ローレン」ノ二州ニ所得稅

ヲ實施シ得ザリシハ、一八七〇—七一年ノ戰捷ノ結果佛ヨリ併合シタル二州民ガ、政治上獨ニ憚焉タルモノアルニ由ルモノニシテ、之ニ反シ獨ノ「ブレメン」市ノ資産階級ガ昔時ヨリ市ノ賦課徵收ヲ待タズシテ、納稅ハ市民當然ノ義務ナリトシ、自ラ宣誓シテ進ンデ各自ノ資力相當ノ税金ヲ納入シタルハ、市ト公民トガ抱合融和シタルノ致ス所ニシテ、租稅史上ノ一美談トシテ同市民ノ永久ニ誇リトナスニ足ルモノナルガ、近時ニ至リテ他ヨリノ移住民ヲ増加シ、市民共助ノ美風ヲ破壊シタルニヨリ、一八七六年遂ニ此ノ好習慣ヲ打チ切ルニ至リタルモノニシテ、我ガ日本橋區ノ公民ガ現ニ小學校建築等ノ臨時費ヲ負擔スルノ狀況モ略々之ニ類スルモノアリト謂フ。然シ是ハソノ負擔ガ過重ナラザルト同時ニ、人々ノ政治的觀念、社會的公德心ガ大ニ利己心ニ打チ勝チ、我利的觀念ヲ閉息セシムルニ於テ、始メテ納稅上ニソノ光輝ヲ放ツヲ得ルモノニシテ、必シモ民衆政治ノ致ス所ト言フベカラザルモノアリ、例ヘバ米ノ諸州ニテハ從來所得稅ヲ實施シタルモノ尠カラズシテ現ニ實施中ノモノモ無キニ非レド、ソノ成績ノ毫モ舉ラズシテ識者ヲ齷齪セシムルモノアルハ、一ニハ稅吏ガ無能ニシテ且ツ政黨政派ノ關係ヲ有スル等ニヨルモ、一ニハ納稅者ノ我利我慾ガ彼等ヲ驅ツテ所得ノ隱蔽、宣誓ノ無視、收稅吏ニ對スル威嚇、洞喝、贈賄等、アラユル不正手段ヲ講ゼシムルノ致ス所ナリトス。之ニ反シ戰前ニ於ケル普國ハ官僚政治ナルニ拘ラズ、又一般所得稅實施以來餘リ

多クノ年所ヲ經過セザルニ拘ラズ、本稅ハ或ル程度迄ハ識者ヲ満足セシムルニ足ルモノアリタリ。要スルニ文明的民衆のニシテ且ツ所得ノ總額ニ課稅スルノ理想的所得稅ニシテソノ本能ヲ發揮スルニハ、一面ニハ國民經濟ガ或ル程度以上ニ發展シアルト同時ニ、ソノ稅率ハ餘リ過重ナラズ、又收稅吏ハ誠實公正ニシテ且ソノ事務ニ練達シ、納稅者ハ政治上政府ヲ支持シ之ト共働スルノ觀念ヲ有シ、且ソノ租稅道德ノ大ニ發達スルヲ要スルモノニシテ、此ノ點ハ人稅ナル本稅ニ對シテ殊ニ立法者ノ大ナル注意ヲ要スル所ナリトス。

第十四章 財產稅

財產稅ノ
意義

實體的財
產稅

財產稅 (Verinogenssteuer, Property tax) トハ、財產ノ所有ニ課シ若クハ財產ヲ以テ課税ノ標準トナ
スモノニシテ、收入税、所得税ト相並ンデ所謂三大直税ノ一種ナリトス。而テ財產ノ所有ニ課スルヲ
實體的 (Realle) 財產稅トシ、財產ヲ以テ課税ノ標準トナスモノヲ名稱的 (Nominelle) 財產稅ト謂フ。
實體的財產稅トハ眞實ニ財產ソノ物ニ賦課スルモノ、即チ財產ノ一部ヲ國家ニ取り上グルモノニ
シテ、之ガ課税ノ源泉モ、課税ノ標準モ共ニ財產ソノ物ナリトス。此ノ課税法ハ專制時代ニハ屢
行ハレタルモノニシテ、我邦ニ於ケル幕府時代ノ御用金徵收ノ如キハ、ソノ額ニシテ過大ナルトキ
ハ實體的財產稅トナルモノニシテ、財政學上ヨリ之ヲ見レバ、國民財產一部ノ沒收ハソレ丈ケ租稅
ノ源泉ヲ涸渴セシムルモノニシテ、此ノ課税法ニシテ屢行ハルトキハ、遂ニハ黃金ノ玉ヲ産ミ出ス
ノ牝雞ヲ殺スト同様ノ結果ニ立チ至ルベシ、或ハ財產ノ一部ヲ國家ニ取り上グルモ、ソノ目的ニシ
テ國民間ニ於ケル貧富ノ不均衡ヲ矯正スルニ在ルトキハ、之ニヨリ個人經濟間ニ於ケル財產ノ所在
ヲ變更スルノミニシテ、國民經濟ハ全體トシテ何等不利ナル影響ヲ被ラザルノミナラズ、却ツテ社
會政策的目的ヲ達スルヲ得ベシトナス者アルモ、斯ル目的ヨリスルノ國民財產ノ取り立テハ、租稅

ノ定義ノ部ニテ述ベタル如ク、租稅ノ一種ニ非ズシテ、單ニ社會政策上ヨリスル個人財產ノ一部ノ
沒收ナリトス。

斯ノ如ク實體的財產稅ハ財政學上研究ノ價值ヲ有セザルモノナレド、戰時稅トシテ若クハ戰後ノ
經營上等一回限リ賦課スルモノハ、強迫的公債ト相並ンデ、多少學理的説明解釋ヲ下スノ餘地ヲ存
セザルニ非ズシテ、又相續稅及ビ遺產稅ハ一種ノ實體的財產稅ナレド、是ハ本稅ノ例外トシテ、當
然賦課スベキ理由ヲ有スルモノトス。

一九一三年ニハ獨ト露佛間ノ國際關係ハ刻々ニ惡化シ來リ、佛ハ陸軍三年兵役制ヲ復興シ、露ハ
佛ヨリ借入レタル國債ヲ以テ、日露戰爭ノ創痕未ダ全癒スルニ至ラザル陸軍ノ整備擴張ニ力メ、且
ツ獨塊ヘノ國境鐵道ヲ延長新設スルニ汲々タルノ有様ニシテ、一方獨ニテハ陸軍ノ大々的整備擴張
ヲ圖リ、之ガ爲メ一時經費トシテ約十億馬克ヲ要スルモノアリシニ、同國ハ現世紀ニ入りテヨリ
既ニ二回ノ大増稅ヲ爲シ、ソノ聯邦制度ハ此ノ上ノ大増稅計畫ヲ容レズ、又國債ハ年々増加シテ此
ノ上増募スルノ不可ナルモノアリシニヨリ、一回限リノ財產稅ヲ起スニ至リタルモノニシテ、是ハ實
體的財產稅即チ國民財產ノ一部ヲ取り上グルノ目的ヲ有シタリト謂フヲ得ベキモノトス。本稅ハ「一
回限リノ臨時軍事稅」ト稱シテ殊更ニ財產稅ナル名稱ヲ避ケタルモノニシテ、本稅ヲ負擔スルノ財

一九一三
年ノ獨
ノ一回限
リノ財
產稅

產ハ一馬克以上ナルヲ原則トナセド、若シ之ガ所有者ノ全所得ニシテ四千馬克以下ナルトキハ財產額三萬馬克迄、又年所得二千馬克以下ナルトキハ財產額五萬馬克迄ハ課稅ヲ免除セラルルモノトス。又稅率ハ財產額五萬馬克迄ハ〇、一五%、ソノ次ノ五萬馬克ニ對シテハ〇、三五%ヲ課シ、斯ク財產高ノ増加スルニツレ超過累進率ヲ高メ、遂ニ財產高ノ一、五%ニ達スルモノニシテ、即チ稅率ノ最低ハ一厘五毛、最高ハ一分五厘ナリトス。

獨ハ戰後財政整理ノ一手段トシテ、一九一九年再ビ此ノ種ノ財產稅ヲ起セシガ、是ハ一九一三年ノ分ニ比スレバ非常ノ重稅ニシテ、一萬馬克以上ノ財產ニ對シ、最低稅率ハ財產額ノ一割、最高ハ超過累進率ニヨルノ六割五分ナリトス。而テ之ヲ財產稅ト稱セズシテ「究厄ニ對スル犧牲」(Nothopfer)ト謂フ三文小説ノ標題然タル名稱ヲ附シタリ。戰敗ニ次ギタル革命後ノ同國民ノ租稅道德ハ、苛斂誅求ノ爲メ今ヤ全然地ヲ拂フニ至リ、窈カニ國外ニ財產ヲ搬出スル等ノ手段ニヨリ、大規模ノ脫稅ヲ爲スノ有様ニシテ、本稅ノ如キ突飛ナル重稅ガ、果シテ如何ナル程度迄ソノ目的ヲ達スベキヤハ、世人ノ始メヨリ疑問トナシタルモノナリシガ、今ヤ之ガ實施困難ナリトテ、大ニ之ガ負擔ヲ緩和輕減スルノ手段ヲ講ジアリ。

次ギニ名稱的財產稅ニハ二種類アリテ、兩者共眞實財產ニ課スルニ非ズシテ、單ニ之ヲ以テ課稅

ノ標準トナシ、之ニヨリ人々ノ納稅力ヲ測定スルニ過ギザルモノニシテ、即チ租稅ノ源泉ハ所得ニアリテ、之ヲ一種ノ財產稅の所得稅ト稱スルヲ得ベキモノトス。而テ之ガ第二種ハ主稅ナル所得稅ノ副稅トシテ賦稅シ、所得稅ニ於テ資產所得ガ勤勞所得ニ對シ偏輕ナルノ點ヲ、本稅ニヨリテ補足スルヲ目的トナスモノニシテ、是レ普國ニテ本稅ヲ補足稅(Erganzungsteuer)ト稱スル所以ナリトス、且ツ一面ニハ實體的財產稅ハ言フ迄モナク、第二種ニ屬スル米國式財產稅モ、大ニ國民間ニ不評判不人望ナルヲ以テ、殊更ニ財產稅ナル名稱ヲ避ケタルモノトス。

普國ノ所得稅法ニテハ資產所得ト勤勞所得トヲ區分セズ、兩者ニ對シ同一ノ稅率ヲ賦課シアリテ、勢ヒ資產所得ハ勤勞所得ニ比シ輕課セララルルノ不均衡ヲ生ズルヲ以テ、此ノ稅法ノ足ラザルヲ補フ爲メ、財產ニ對シ極メテ輕微ナル課稅ヲ爲スヲ目的トシ、財產價格ノ測定等モ成ルベク、之ヲ簡便ナラシムルノ主義方針ヲ採リアリ。而テ獨ノ他ノ諸聯邦ノ如キ、又瑞西諸州ノ如キモ、次第ニ普國ニ倣ツテ本稅ヲ新設シ、若クハ從來主稅ナリシ財產稅ヲ本稅ノ主義ニヨリ修正シアリ。

普ノ補足稅ノ大要ヲ述ブレバ、同稅ハ一八九五年四月一日ヨリ實施セラレ、第一、課稅ノ主體ハ同國ノ所得稅法ニテ納稅者ト爲ス總ベテノ自然人ニシテ(普ノ補足稅法ハ同國ノ所得稅ヲ基礎トナスモノナリ)法人ニハ賦課セズ、而テソノ自然人ノミニ課稅スルノ理由ハ、所得ノ偏輕偏重問題ハ

自然人ノ間、即チ個人ノ所得ノミニ限ラルルヲ以テナリ。第二、課税ノ客體及ビ目的物ハ、總テノ動産及ビ不動産ニテ收益ノ用ニ供セラレ、若クハ供セラルベキモノニシテ、之ガ總價格ヨリ事業上ノ負債ヲ控除シタルモノニシテ、使用財産ニハ一切課税セズ、是レ使用財産ヨリハ何等所得ヲ生ゼズシテ、勤勞所得ニ對スル輕重問題トハ沒交渉ナルニ由ルナリ、一八九二年來財產稅ヲ實施シアル和蘭ハ使用財産ニモ課税ス。第三、税率ハ比例的ニシテ收益財產價格ノ一萬分ノ五ナリトス。即チ課税セラルベキ財產ハ年四分ノ利益ヲ生ズルモノトスレバ、一萬分ノ五ノ税率ハ此ノ收益ノ一、二五%ニシテ極メテ輕税ナリトス。和蘭ノ財產稅ハ輕微ナル累進主義ヲ採リ、最低ハ一萬三千—一萬四千「グルデン」ニ對スルニ「グ」、最高率ハ二十萬「グ」ニ對スル千分ノ一、一八七五ニシテ、此ノ上尙財產價格二十萬「グ」以上ニ對シテハ千分ノ二ノ割増稅ヲ課ス。第四、免稅點ハ收益財產價格六千馬克ナリトス。但シ二萬馬克以下ノ財產ニシテ總所得年額九百馬克即チ同國所得稅ノ免稅點ヲ超過セザルモノハ免除セラル。和蘭ノ免稅點ハ一萬三千「グ」ニシテ、之ニ比スルモ普ノ六千馬克ハ低キニ失ストノ非難アレド、或ル程度迄ハ但書ノ規定ニヨリ之ヲ補フヲ得ルモノトス。第五、財產所有者ニ對シ之ガ價格ヲ申告スルノ義務ヲ課セズ、是ハ普ノ政府案ハ申告主義ナリシモ、議會ト妥協ノ結果之ヲ撤廢シタルモノナリ、和蘭ハ申告主義ヲ取ル。第六、本稅ニハ附加稅ヲ課セズ、是レ附加稅

ヲ課スルニヨリ資産所得ニ偏重ナルニ至ルノ恐レアルト、且ツ地方稅ハ必シモ納稅力主義ニヨルモノニ非ルヲ以テナリ。第七、財產價格ハ年々ニ非ズシテ毎三年ニ調査ス、是ハ成ルベク民業ヲ煩累セザルノ方針ニ出ヅルモノナリ。

以上述べ來リタル所ニヨリ、且ツ和蘭ノ財產稅法ト對比スルトキハ、後者ハ主要ナル點ニ於テ普ニ異ルモノアリ、而テソノ累進率ヲ課シ、申告主義ヲ採ル如キハ、同國ハ單ニ勤勞所得ニ對スル部分の所得稅ヲ有スルヲ以テ、財產稅ハ之ガ補足稅ニ非ズシテ、寧ロ次ギニ述ブル所ノ米國式財產稅ノ系統ニ屬スルニヨルモノトス。之ニ反シ普ハ單一直稅主義ヲ採リ、所得稅ヲ以テ之ニ充テ、單ニ同稅ニ於ケル資産勤勞兩所得間ノ負擔ノ不均衡ヲ匡正スル唯一無二ノ目的ニテ財產稅ヲ課スルヲ以テ、此ノ目的ヲ達スルニ於テ能事「レリトナスモノニシテ、若シソレ以上ニ財產稅ヲ賦課スルトキハ、形勢ハ一變シテ財產所得ニ偏重スルニ至ルベキナリ。而テ同國ガ何故ニ我邦ノ如ク所得稅法ニテ財產所得ニ重課セザルヤハ、是レ前章ニテモ述べタル如ク、所得殊ニ小商工業者等立法者ノ大ニ考慮ヲ拂フ所ノ中小所得ニハ、到底兩分スルヲ得ザル勤勞ト資産トノ共働所得多キヲ以テ、立法者ハ深ク調査研究ヲ遂ゲテ所得稅以外別ニ補足稅ヲ課スルニ至リタルモノニシテ、我が稅法ニ比スレバ一日ノ長アリト謂フベシ。

米國の式
名稱的財
產稅

米ノ財
產稅
ハ人
財
產
稅
ニ
ヨ
リ
推
移
シ
タ
ル
ニ
由
リ
米
ノ
財
產
稅
ハ
人
財
產
稅
ニ
ヨ
リ
推
移
シ
タ
ル
ニ
由
リ

同國ニテ本稅新設ノ當時ニハ之ニヨリ三千五百萬馬克ヲ得ルノ豫定ナリシガ、爾來官吏增俸ノ資
源トシテ之ニ附加稅ヲ課スルニ至リタル等收入ハ次第ニ増加シ、一九一四年度收入豫算ハ六千六百
萬馬克ニ上リタリ。

名稱的財產稅ノ第二類ハ、之ヲ以テ他ノ補足稅トナスニ非ズシテ租稅系統中ノ主稅トナスモノニ
シテ、北米合衆國ノ諸州及ビ以前ニ於ケル瑞西ノ諸州ハ多クハ此ノ種ノ財產稅ヲ有ス。

米ノ諸州ニテハ名稱的財產稅ハ建國ノ始メヨリ採用セラレタル舊稅ニシテ、一般公衆ハ租稅トシ
謂ヘバ財產稅ヲ意味スルモノト爲ス程ニ根底深キモノニシテ、ソノ始メハ人々ノ身分地位ト、ソノ
有スル土地ト家畜ノ數トニヨリ、是等ヲ目標トシテ極メテ大雜把、ニ納稅力ヲ測定シテ課稅シタル
モノニシテ、當時ノ財產稅ハ人稅ニ屬スル階級稅ニ類似シ、納稅者ノ身分地位等ニ重キヲ置キタル
モノトス。然ルニ各種ノ動產的財產増加シ個人ノ富力ハ激増シ、一人ニテアチコチノ州、アチコチ
ノ市町村ニ土地家屋ヲ有シ、若クハ資本ヲ投下スルニ至リ、是等ノ州若クハ市町村ハ各々獨立シテ
本稅ヲ賦課スルニヨリ、財產所有者ソノ人ヲ見ズ又見ル能ハズシテ、單ニソノ地方、ソノ行政區劃
内ニアル財產ニ對シ賦課スルニ至リテ、人稅ノ性質ヲ有シタル本稅ハ次第ニ物稅的色彩ヲ帶ビ、此
ノ色彩ハコノ趨勢ノ増進スルニツレ益々濃厚トナリタルモノトス。同國ニテハ以前ニハ家畜ノ類ヲ

財產稅ハ
一種ノ惡
稅ナリ

除キテハ、殆ンド不動產ノミニテ本稅ヲ負擔シ、動的財產ノ非常ニ増加シタル今日ニテモ、之ガ課
稅法ハ多大ノ缺陷ヲ有シ、本稅ノ負擔ハ依然トシテ不動產所有者、即チ地方農業家ニ偏重ニシテ、
識者ハ之ガ改良ノ急要ナルヲ鳴ラシテ止マザルモノトス。元來財產稅ハ人稅ニ伴フ課稅ノ困難ヲ以
テシ、又後段述ブルガ如ク財產ソノモノガ課稅ノ標準トシテ不適當ナル上ニ、之ニ加フルニ米國ノ
利己的納稅者ト、無能ナル收稅吏ヲ以テスレバ、ソノ負擔ノ加重スルニツレ非難苦情ノ百出スルニ
至ルハ當然ナリトス。米ノ「ブレイン」教授ガ一九一一年獨ノ「シヤンツ」ノ財政叢書ニ掲載シタル「北
米合衆國ノ財產稅ト之ガ改良」ナル一論文ニヨレバ、同國財產稅ハソノ課稅法モ徵收機關モ次第ニ
改良ノ運ニ向ヒツツアルモノノ如クナルモ、本稅ノ根本的缺陷ハ到底之ヲ除去スルヲ得ザルモノト
ス。

以上ハ財產稅ニ關スル要點ニシテ、要スルニ財產稅ハソノ性質ヨリスルモ一種ノ惡稅ナリト謂フ
ヲ得ルモノトス。元來財產ナルモノハ國民經濟ガ進歩スレバスル丈ケソノ種類ヲ増加スルモノニシ
テ、雜多ナル各種ノ財產價格ハ均シク何萬、何十萬圓ト稱スルモ、ソノ種類ニヨリテ各納稅力ヲ異ニ
スルノミナラズ、同一種類ニシテ略々價格ヲ等シウスルノ財產ニテモ、之ヲ運用スルソノ人ノ如何
ニヨリ、大ニ之ガ收入所得ヲ異ニスルヲ以テ、單ニ財產價格ヲ標準トシテ納稅者間ノ負擔ノ均衡ヲ

保ツニ足ルノ課税ヲ爲スハ殆ンド不可能ナリトス。又容易ニ隱匿シ脱税シ得ルノ財産ノ如キ、又ハ價格調査ノ基礎ヲ缺クノ或ル種ノ使用財産ノ如キハ、國民富力ノ増進ニツレテ益々増加シ、是等ノ財産ト比較的容易ニ財産價格ヲ見出シ得ルノ不動産等トノ間ニ於テ、益々負擔ノ不均衡ヲ甚大ナラシムルモノニシテ、唯普國式ノ毒ニモ藥ニモナラザル極メテ輕微ナル課税主義ヲ嚴守スルニ於テ始メテ弊害ナキニ近カラシムカ、殊ニ我邦ノ如ク既ニ所得税ニ於テ資産ト勤勞所得トヲ區分スル上ニ、尙別ニ財産税ヲ新設スル如キハ、大ニ此ノ點ニ留意スベキモノトス。

第十五章 直税ノ整理統一

單一税ノ學理上實行上多クノ缺陷ヲ有シ、之ガ白眉トモ謂フベキ所得單一税スラ、尠クトモ之ヲ現代ノ大國家ニ實行スルヲ得ザルハ、既ニ單一税論ノ部ニテ述ベタル如クナルモ、租税ハ成ルベク税種ノ少數ニシテ、賦課徵收法ノ簡單ナルヲ期スベキヲ以テ、補足税ノ性質作用ヲ有スル交通税、消費税ハ之ヲ別トシ、列國ニテ主税トシテ採用シアル直税ヲ整理統一シテ、從來無機的分立の二相駢列シタルモノヲ、出來得ベクンバ之ヲ一種ニ綜合スルカ、然ラズンバ尠クトモ之ヲ有機的結合的組織トナシ、各税間ニ一道ノ氣息氣脈ヲ通ゼシメントスルノ點ハ、從來學者財政家ノ大ニ考慮ヲ費シタル所ニシテ、戰前ニ於ケル獨ノ聯邦、瑞西ノ諸州等ハ、著々此ノ方針ニ向ツテ進行シアリテ、之ガ先鞭ヲ着ケタルハ普國ナリトス。

同國ハ既ニ屢々述ベタル如ク、一八九三年ニ從來國稅タリシ地租、家屋稅、營業稅ナル三大收入税ノ徵收ヲ停止シ(Ausser Hebung gesetzt)總テ之ヲ地方稅ニ移シ、又從來種々ナル苦情アリタル鑛業稅ヲモ廢止シ、是等ノ諸稅ニ代ユルニ一般所得稅ヲ以テシ、之ニヨリ以テ單一直税ノ理想ヲ實現シタルモノニシテ、若シ同國ニシテ我邦ノ如ク所得稅中ニテ資産勤勞兩所得ヲ區分スルノ主義ニ出

直税ノ整理統一

普國ノ單一直税主義

デシナラバ、理想上モ形式上モ、全然單一直接主義ヲ實現シ得タルベキモ、名稱的財產稅即チ部分的所得稅ナル補足稅ヲ以テ、兩者ヲ區別シタルニヨリ、形體上ハ主稅ナル一般所得稅ニ加フルニ副稅ナル補足稅ヲ以テスルコトトナリタリ。本改革ハ餘リニ突飛ナリトノ非難ヲ爲ス者アリ、「ワグナ」ノ如キモ地租ノ全部ヲ地方ヘ委讓シタルコトニ付イテハ異言アル如キモ、兎ニ角議會ノ異議、姑息論者ノ反對等百難ヲ排シテ之ヲ決行シタルハ、當時名藏相ノ名アリタル「フォン、ミクエル」ノ一大英斷ナリト謂フベシ。而テ之ト殆ンド同時ニ即チ一八九二年和蘭ニテ、從來略々佛ノ收入稅主義ニ倣ヒタル稅制ヲ釐革シ、新タニ一般財產稅ヲ採用シ、之ニ勤勞勞力ヨリスル所得ニ課スルノ特別所得稅ト、住家ヲ標準ト爲スノ人稅トヲ配合シタリ、即チ未ダ普ノ如ク徹底的ナルニ至ラズト雖モ、途上ニ横ハルノ石塊ノ如ク轉々ト相對立シタル從來ノ收入稅系統ヲ廢シ、一般財產稅ヲ中心ト爲スノ人稅系統ニ移リ、以テ三稅間ニ一脈ノ生氣ヲ貫通セシメタリ。而テ之ト同時ニ例外トシテ地租ヲ存置シタルモ、是レ同國ニテハ地租ハ背進的轉嫁ニヨリ既ニ土地ノ負擔トナリアルヲ以テ、之ヲ廢止スルハ徒ラニ現在ノ地主ヲ利益スルニ過ギズトノ理ニヨルモノトス。又「ロツツ」教授ニヨレバ十九世紀末ヨリ一九一五年ニ至ルノ間ニ於テ、普ニ倣ツテ一般所得稅ヲ主稅トシ、財產稅ヲ之ガ補足稅トナスニ至リタル獨逸ノ諸聯邦ハ、「サクセン」「ウユルテンベルヒ」「バーデン」「ヘッセン」等

十四ノ多キニ及ビ、是等ハソノ國勢政情ノ關係上ヨリ、ソノ財產稅トシテ規定スル所ハ必ズシモ普ニ同ジカラザルモノアリテ、例ヘバ「サクセン」等ノ如ク普ニ倣フト同時ニ、從來採用シアリアル總テノ收入稅ヲ廢シ、單ニ地租ノミヲ從來ノ半額若クハソレ以下ノ稅率トナシテ存置スルモノアリ。又「ウユルテンベルヒ」ノ如キハ當分ハ收入稅ヲ輕減シテ之ヲ存置スルコトトナシアリ。又納稅者ノ申告義務ニ付イテハ、各聯邦ノ規定極メテ區々ニシテ、申告主義ヲ採ルト然ラザルモノトノ外ニ、不動産ノミハ申告セザルコトトナスモノアリ、又ハ第一回ノ財產調査ノミニ申告ヲ要スト爲スモノアリ、又免稅點ヲ超ユルコト若干額以上ノ財產ナルトキハ申告ヲ要スト爲スモノアリ、又「バーデン」ノ如キハ申告ノ義務ナキヲ原則トナスモ、第一回目及ビ財產ガ或ル程度以上ニ増加シタル場合、又ハ負債ガアル程度以下ニ減少シタル場合ニ限り申告ヲ要スト爲スモノアリ。又財產價格調査ノ時期ニ付イテハ、普ニ倣ツテ毎三年ト爲スアリ、又ハ年々調査又ハ四年目調査ノ制ヲ採ルアリ、又「オルデンブルヒ」ノ如ク、始メハ一年目、次ハ二年目、ソレヨリ三年目毎ニ調査スト爲スモノアリ。又地方附加稅ハ多クハ普ニ倣ツテ賦課セザルノ制ヲ採ルモ、或ハ賦課スルモノアリ、或ハ地方稅ニ對シ報酬主義ヲ採ルヨリシテ、地方附加稅トシテ資本的財產ハ他ノ不動産等ノ半額ヲ課スル等ノ聯邦モアリ。又稅率ハ普ニ倣ツテ比例稅トシテ一萬分ノ五ヲ課スルモノアレド、輕微ナル累進稅

「ババ
ヤレ等
テ容易
ザルハ
由ニハ
理ハ

若クハ累減税ヲ課スルモアリ、又比例税率ノ最低ナルハ一萬分ノ二、五即チ普ノ半額ニシテ最モ高キモ一萬分ノ六ニ過ギズ。又課税ノ範圍ニ付イテハ多クハ收益財産ノミニ課シ、又法人ニ課スルモノモアレド多クハ自然人ノミニ課ス。又免稅點ハ區々ニシテ、最高ハ「ザクセン」ノ一萬二千馬克ナリ。是等諸州以外未ダ普ニ做フニ至ラザル「ババリヤ」等ハ、主義トシテ普ニ反對スルモノニ非ザルモ、之ガ實行ヲ躊躇シアルハ現ニ租稅殊ニ直稅ニ對シ各種ノ修正改良ヲ試ミアルノ際ニ於テ、此ノ上更ニ新タニ補足税ヲ採用スル爲メ困難ナル財産調査ヲ爲ス如キハ、餘リニ多クテ徵稅機關ニ望ムモノナリトノ點ニ出ヅルモノニシテ、一應ノ理由ヲ有スルモノトス。而テ是ハ徵稅機關ニ對スルノ用意ナルモ、立法者ハ一面納稅者ニ對シテモ亦此ノ種ノ用意ナルベカラズシテ、假リニ我邦ニテ現ニ過重ナル所得稅ト、徵收法ニ於テ殆ンド所得稅ニ異ラザルノ營業稅ヲ課シアル外、尙人稅ノ一種ナル財産稅ヲ新設スル如キハ、他ノ點ハ別トシ餘リニ納稅者ヲ煩累スルノ點ヨリスルモ、大ニ考慮ニ値スルモノトス。

瑞西諸州
ノ趨向

瑞西ノ諸州ハ米ノ各州同様以前ニハ多クハ主稅トシテ米國式ノ財産稅ヲ賦課セシガ、米同様ノ缺點ヲ有スルヨリシテ、今ヤ所得稅ヲ以テ之ニ代ヘ、若クハ普ニ做ツテ財産稅ヲ所得稅ノ補足稅トナスノ主義ヲ採ルニ至リタルモノアリ。

丁抹モ普
ニ做フ

丁抹ハ一八九三年ノ稅制改革ニヨリ、主稅トシテ一般所得稅ヲ採用シ、財産稅ヲ以テ之ガ補足稅トナスノ主義ヲ採リ、外ニ地價稅ヲ課シ十年毎ニ地價調査ヲ爲スコトトナシタリ。

白ト佛ト
ノ趨向

以上ノ外白國ハ前ニ述ベタル如ク、最近ニ至リ新タニ一般所得稅ヲ採用シ、從來ノ收入稅主義ヨリ次第ニ人稅主義ニ推移スルノ機會ヲ作ルニ至リ、又佛國ニテハ一九一六年ニ一般所得稅ヲ實施スルト同時ニ、從來ノ收入稅系統ヲ部分的所得稅然タルモノトナシ、以テ一般所得稅ト是等ノ不動産稅、動產稅、營業稅及ビ給料、年金稅トノ間ニ一道ノ氣脈ヲ通ゼシムルノ制ヲ採ルニ至リタリ。

北米合衆
國

北米合衆國ニテハ諸州ニ於ケル財産稅ノ缺點ニ鑑ミ、財政學者及ビ負擔ノ不均衡ヲ鳴ラスノ納稅者間ニ之ガ改良ノ一大運動ヲ起シ、是等ノ中ニハ所得稅ヲ以テ之ニ代ユベシトノ說ヲ主張スル者アリ、「エリー」教授ノ如キハ之ガ有力ナル一人ナルモ、各州ニ行ハルル所得稅ノ不成績ヲ以テシテハ同國ニ根底深キ財産稅ノ基礎ヲ撼搖スルニ足ラズ。且ツ學者中ニハ次第ニ所得稅熱ノ冷却シタル者ヲ生ズルニ至リ、又各州民ハ一般所得稅ハ非米國式ナリトナシテ之ヲ排斥スルノ間ニ於テ、華盛頓政府ハ前ニ述ベタル如ク、一九一三年ニ憲法ヲ修正シテ一般所得稅ヲ採用シタリ。

財產增價
稅ノ意義

第十六章 財產增價稅

財產增價稅 (Wertzuwachssteuer) トハ、從來ノ財產價格ニ對シ一定ノ期間經過後、若クハ或ル出來事ノ發生シタル時ニ於テ、ソノ價格ノ増加シタル分ニ對シテ課稅スルモノニシテ、特別財產稅若クハ部分的財產稅ト稱スルヲ得ベキモノトス。而テ本稅ハ國家社會ノ進運ニヨリ自然ニ增價シタル分ニ課スルモノト、ソノ自然ナルト勞資ヲ加ヘタル結果ナルトヲ問ハズ、增價シタル總テノ財產ニ課スルモノトノ二種アリテ、前者ヲ自然增價稅、後者ヲ一般增價稅ト云フ。

第一節 自然增價稅

從來列國ニテ賦課シタル自然增價稅ハ、土地自然增價稅ト、戰時利得稅ナリトス。

第一目 土地自然增價稅

土地ハ日光空氣ト共ニ吾人ガ自然ヨリ享受スル所ニシテ、無盡藏ナル日光空氣ニ對シ何人ガ勝手ニ之ヲ利用スルモ、學理上並ビニ實際上何等ノ問題ヲ生ゼザルモノナルモ、土地ニハ限リアルヲ

自然增價
稅
土地自然
增價稅

土地ノ自
然增價ニ
對スル由
ノ課稅

以テ、個人ニシテ之ヲ私有スルトキハ、獨占的地價若クハ地代ヲ生ズル等種々ナル難問題ヲ惹起シ、延イテ土地私有制ノ廢止、即チ土地ノ國有若クハ社會有論等ヲ生ズルモノトス。而テ茲ニハ一切此ノ種ノ議論ニ接觸セザルコトトナスモ、人々ガ何等ノ勞資ヲ加ヘズシテ、單ニ國家社會ノ進運ニヨリ、土地價格ノ自然ニ增價スル分ニ對シ之ニ課稅スベシトノ主張ハ、ソノ所有者ノ納稅力増加ノ點ヨリスルモ、將又國家社會ニ對スル特別ナル報酬ヲ爲スベシトノ報酬主義ヨリスルモ、大ニ條理ノ存スルモノアリテ、此ノ正理的論據ヲ有スルモノハ即チ土地自然增價稅ナリトス。

英國ノ例ヲ假リテ本稅賦課ノ大要ヲ述ブレバ、同國ニテハ土地ノ價格調査上一九〇九年四月ヲ基準トシ、此ノ時ニ於ケル土地ノ露キ出シノ價格、即チ勞資ヲ注入シタルヨリ增價シタル價格ヲ控除シタルモノ、即チ天然のナル赤裸々ノ價格ヲ見出シ、是ヨリ土地所有者ノ死亡シタルトキ、又ハ之ヲ賣却シタルトキ、又ハ賃貸十四ヶ年ニ達シタルトキニ、更ニ土地ヲ評價シテ再ビ天然の赤裸々ノ價格ヲ見、此ノ前後ノ天然の價格ヲ比較シテ、ソノ增價シタル分ニ對シ之ガ二割ヲ徵收スルモノニシテ、之ヲ土地自然增價ニ課スルニ割稅 (unearned increment duty of 20% on increase of value) ト謂フ。

本稅ハ地方稅トシテハ十九世紀ノ末葉以降大ニ獨國ニ普及シタリシガ、大國ノ國稅トシテハ、獨

本國稅モ亦
ハ地方稅
ニ適ス

ニテ膠州灣占領租借後、一九〇三年ニ同地方ニ本税ヲ施行シタル外ハ、英ニテ一九〇九年ニ、獨本國ニテ一九一二年ニ之ヲ實施シタルノミナルガ、獨ニテハ一九一三年ニ至リ、本章第二節ニ述ブル所ノ一般増價税ヲ施行スルニ至リタル爲メ之ヲ廢止シタリ。我邦ニテハ國税トシテ本税ヲ實施スベキヲ主張スル者アル如キモ、要スルニ土地税ハ地租ノ部ニテ述べタル如ク、國税ヨリハ寧ロ地方税ニ適スルモノトス。

第二目 戰時利得税

戰時利得税ハ我邦ニテ俗ニ成金税ト稱スルモノニシテ、個人ノ得テ左右スベカラザル戰爭ナル大ニ事變ニ原由シテ利得スル者ニ對シ、ソノ平時ニ超過スルノ利得ニ賦課スルモノナルヲ以テ自然増價税ノ一種ナリトス。

本税ハ斯クノ如ク戰爭ニ原由スルノ超過利得ニ賦課スルモノナルヲ以テ、純理上戰時利得税ト稱スルハ妥當ヲ缺クモノニシテ、寧ロ戰益税ト稱スルヲ適當ナリトス。ソノ理由ハ戰時ニ於ケル利得中ニハ何等戰爭ニ關係ナキモノモ尠カラザルニヨルモノトス。然シ實際上ヨリ之ヲ見レバ、現世界戰役ノ如キ大戰爭ニアツテハ、何事モ直接間接ニ之ニ關係ヲ有セザルモノナシト謂フヲ得ベク、又ソノ果シテ戰爭ニ關係スルノ利得ナリヤ否ヤヲ調査スル等ノ間ニ於テ、一時的臨時的ナル本税賦課ノ

戰時利得
税モ自然
増價税ナ

戰時利得
税ハ戰益
税ナリ

機會ハ既ニ經過シ去ルノ奇蹟ヲ殘ス場合ナキニ非ザルヲ以テ、列國ノ多クハ戰時利得税ナル名稱ノ下ニ、平時ニ比シ戰時中ニ増加シタル利得ヲ以テ戰爭ニ因ルモノト見做シ一率ニ之ニ課税スルモノナルガ、獨逸ノ如キハソノ明カニ戰爭ニ關係ナキ利得、即チ生命保險契約ニヨリ受領スル保險金ノ如キヲ本税法ニ列記シテ之ヲ除外スルコトトナシアリ。

戰爭ハ謂フ迄モナク最大ノ建設者ナルト同時ニ絶大ノ破壊者ニシテ、交戰國ハ勿論中立國ニ至ル迄、多クノ方面ニ於テ不利ナル影響ヲ受ケ多大ノ犠牲ヲ拂フモノトス。然ルニ此ノ戰禍擾々ノ間ニ立ツテ經濟的利得ヲ生ジ納税力ヲ増加スル者ニ對シテ、之ニ相當スルノ課税ヲナシ以テ一面ニハ戰費ノ支辨ニ充テ、一面ニハ國民間ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ維持スルハ極メテ當然ナルノミナラズ、寧ロ國家ガ一般國民ニ對スル義務ナリト謂フベシ。

本税ノ賦課法ニ付イテハ、煩ヲ避クル爲メ我邦ノ戰時利得税法ヲ假リテ之ヲ説明スレバ、我邦ニテハ多クノ交戰國及ビ中立國ニテ、既ニ一年若クハ二年間本税ヲ實施シタルノ後ニ於テ、最モ後レ走セニ大正七年三月ニ至リ漸クニ本税法ヲ發布タリ。而テ之ガ課税法ハ、個人ノ分ハ大正二年以前二ケ年ノ平均所得金額ヲ超過スルコト百分ノ二十以上ヲ超過利得金額トシ、(法人ニ對スル規定モ之ニ類ス)此ノ利得金額ニ對シ個人ニハ之ガ百分ノ十五、法人ニハ百分ノ二十ノ比例税ヲ課スルモノ

戰時利得
税ノ課税
理由ス

我邦ノ戰
時利得税
法

ニシテ、超過利得金額三千圓未滿ニハ本稅ヲ課セズ。又所得稅法ニヨル第三種ノ俸給、給料、手當、歲費、年金、恩給、退隱料ニ賦課セザル如キハ、課稅ノ簡捷主義ヨリ出デタルモノトス。又本稅ノ賦課上比例稅ヲ取リタルハ我邦及ビ英國等二三ニ過ギズシテ、ソノ他ハ何レモ累進率ヲ賦課スルモノトス。

我邦ノ戰時利得稅法ノ制定發布ハ、斯クノ如ク大ニ時機ヲ失シタルノミナラズ、之ガ稅率ハ外國ニ比スレバ極メテ輕微ニシテ、我政府及ビ立法府ガ如何ニモ成金輩ニ遠慮スルガ如キ形跡ノ存スルモノアリ、從ツテ現戰役ヲ通ジテ本稅總收入ハ僅カニ一億千七百八十餘萬圓ニ過ギザルニ、英國ハ我邦同様比例稅ナルモ、始メニハ超過利得ノ五割ヲ課シ、ソレヨリ之ヲ六割ニ高メ、遂ニ之ヲ八割トスニ至リ、一九一八年度一ケ年ノ收入豫算ノミニテ三十億圓ノ多額ニ上リタリ。

第二節 一般增價稅

一般增價稅ハ、ソノ自然的ニ增價シタルト勞資ヲ投ジタルノ結果ナルトヲ問ハズ、財產ニシテ增價スレバソノ增價ノ分ニ對シ賦課スルモノニシテ、戰前ニ在ツテハ獨逸ガ一九一三年ニ於テ之ヲ實施シタルノミナリトス。然シ既ニ普通ノ財產稅ヲ施行シアルノ國ニテハ、之ニヨリ自ラ財產ノ增價

日英ノ戰
時利得稅
稅率及稅
收入比較

一般增價
稅

獨一
三九
年ノ財
產增價
稅

ニモ賦課シ得ルヲ以テ別ニ之ヲ設クルノ要ナキモ、然ラザルノ國ニテハ、寧ロ一面ニハ無資產者ヲ苦シムルノ鹽稅、石油稅等所謂細民稅ナルモノヲ廢シ、此ノ種ノ租稅ヲ以テ之ニ代ユベク、又普國ノ如ク補足的財產稅ヲ輕課スル國ニテモ本稅ヲ併課スルヲ妨ゲザルモノトス。

獨ニテハ實體的財產稅ノ部ニテ述ベタル如ク、一九一三年ニ於テ「一時的臨時軍事稅」ナル名稱ノ下ニ一回限リノ財產稅ヲ課セシガ、之ト同時ニ大増師ニ要スル年々ノ維持費ニ充ツル爲メ恒久的財源トシテ本稅ヲ新設シタリ。而テ一回限リノ財產稅ハ一九一三年十二月三十一日現在ノ財產價格ニヨリ賦課スルヲ以テ、本稅モ亦此ノ年月日ヲ基準トシ、ソレヨリ三年目即チ一九一六年十二月三十一日ヲ以テ第一回ノ測定ヲナシテ之ヲ徵收シ、爾來三年毎ニ徵收ヲ繰リ返ヘスモノニシテ、之ガ課稅法ノ大要ハ二萬馬克以下ノ財產、及ビ三年間ノ財產增價一萬馬克以下ヲ免除シ、又財產增價ノ大小ト財產高ノ多少ニヨリ異リタル二重ノ累進稅率ヲ課スルモノニシテ、即チ第一、財產ノ增價ニ對シテ、三年間ノ總增價額一萬乃至五萬馬克ニハ最低稅率〇、七五%ヲ課シ、ソレヨリ次第ニ累進率ヲ高メテ、最高百萬馬克以上ノ增價ニハ之ガ一、五%ヲ課スルモノトス。第二ハ第一ノ外尙財產ノ多額ナル丈ケ更ニ累進率ニヨリ別ニ增價稅ヲ課スルモノニシテ、例ヘバ十萬乃至二十萬馬克ノ財產ニ對シテハ最低稅率トシテ財產增價ノ〇、一%ヲ課シ、千萬馬克以上ノ財產ニ對シテハ最高稅率トシテ

一%ヲ課スルモノニシテ本税ノ平均年收ヲ九千五百萬馬克ト豫量シタリ。

（以下は非常に薄い文字で書かれた、ほとんど読めない文章が続く）

相續税ノ
意義

相續税ハ
課税法ヨリ
交通税ノ
一種ナリ

相續税ノ
有力ナル
主張點

第十七章 相續税

相續税 (Erbchaftsteuer) トハ、死者ノ遺産ヲ相續スル者ニ對シ賦課スルノ租税ニシテ、相續財産ノ一部ヲ國家ニ取リ上グルモノナルヲ以テ實體的財産税ノ一種ナリトス。

如上ノ性質ヲ有スル本税ハ、死亡及相續ナル出來事ノ發生ニ際シ、被相續者ノ財産ガ相續者ニ移轉スルノ機會ニ於テ賦課スルヲ以テ、此ノ點ヨリスレバ本税ハ交通税ノ一種ナリト謂フヲ得ベク、學者ノ本税ヲ稱シテ財産税ト交通税ノ中間的租税ナリトナスハ此ノ理ニヨルモノナルモ、本税ノ實質上ヨリスレバ疑モナク財産税ノ一種ナリトス、唯列國ノ稅務行政ノ多クハ右ノ理由ニ依リ之ヲ直税中ニ編入セズ。

實體的財産税ハ前ニ述ベタル如ク專制時代ノ遺物ニ非ズンバ、非常例外ノ際ニ處スルノ一時的臨時的租税ニシテ、財政學上殆ンド之ヲ研究スルノ價值ナキモ、本税ハ之ガ例外ニシテ、課税ノ正理公平ナル點ヨリスルモ、國民經濟ヲ煩累スルコト尠ク、且ツ國家ニ大收入ヲ擧ゲ得ル點、即チ經濟財政的見地ヨリスルモ、殆ンド理想的租税ナリト謂フヲ得ルモノトス。租税ニシテ既ニ人々ノ粒々辛苦ノ結果ヨリ成ルノ收入所得ニ賦課セラルル以上ハ、或ル人ガ死亡スル其ノ出來事ニ際シ、事實

相續税ハ
他ノ直税
ナリ

上又ハ時機ノ點ニ於テ、偶然ニ財産ヲ相續シタル者ニ對シテ、ソノ急ニ之ニヨリ増加シタル納税力ニ賦課スルハ當然ナルノミナラズ、國家トシテハ寧ロ他ノ納税者ニ對スル負擔ノ均衡上、之ニ賦課スルノ義務ヲ有スルモノトス。且ツ本税ハ一ノ補足税ニシテ、直税トシテノ收入税、所得税、財産税ハソノ税法不備ナル爲メ、又ハ脱税ノ巧妙ニ行ハルル爲メ、尙課税スベクシテ課税シ得ザルモノモ尠カラズンテ、此ノ缺漏ハ本税ニヨリ、ソノ死亡相續ノ機會ニ於テ之ヲ追加補足スルヲ得ルモノトス。又本税ハ或ル財産ガ、或ル人ノ處分權ヨリ他ノ處分權ニ移ルトキニ課税スルヲ以テ、容易ニ之ガ目的ヲ達スルヲ得ベク、又本税ハ容易ニ之ヲ他ニ轉嫁スルヲ得ズ、且ツ負税者ハ大ナル痛苦ヲ感ゼズシテ納税スル等ノ長所ヲ有スルモノトス。

我相續税
法

本税ニ關スル列國ノ規定ハ親族等級ノ如何ト、相續財産ノ大小トニヨリ税率ヲ異ニスルモノニシテ、明治三十八年以降實施シ來リタル我が相續税法ニヨレバ、相續ヲ家督相續ト遺産相續トニ區分シ、更ニ親族等級ト相續財産高ノ大小ニヨリ税率ヲ高低シ、家督相續者中ニテハ被相續者ノ家族タル直系卑屬ナル相續人ニ對シテハ最モ輕率ヲ課スルモノニシテ、之ガ相續財産ニ對シテハ課税價格五千圓以下ノ金額ニハ千分ノ五ヲ課シ、ソレヨリ次第ニ超過累進率ヲ高メ百萬圓ヲ超ユル金額ニ對シテハ千分ノ七十ヲ課ス。又遺産相續ハ家督者以外ニ被相續者ノ遺産ヲ相續スル親族及ビ非親族ノ

人々ニ課スルモノニシテ、之ガ税率ハ家督相續ニ比スレバ稍高率ナリトス。又家督相續ニ對シテハ課税價格三千圓以下ナルトキハ一千圓ヲ控除シ、又五千圓乃至三千圓ナルトキハ五百圓ヲ控除シ殘額ニノミ課税ス。又我が相續税法ニヨレバ相續税ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ再ビ相續ヲ爲ストキハ、前ノ相續額ニ對スル相續税ニ相當スル分ヲ免除シ、又税額百圓以上ナルトキハ相續税ニ相當スル擔保ヲ提供シテ、五年以内ニ年賦延納ヲ爲スヲ得、又公課、被相續人ノ葬式費用及ビ債務等ヲ相續財産ヨリ控除シテ殘額ニノミ課税スルモノトス。

家督相續
者ニ對ス
ル課税問
題

本税ニ關スル一ノ重大問題ハ家督相續者ニ本税ヲ課スルノ可否ニシテ、家族主義ノ國ニ於テハ此ノ問題ハ殊ニ重要ナル意義ヲ有スルモノトス。家督相續ニヨツテソノ家族ハ何等納税力ヲ増加セザルノミナラズ、手腕經驗ヲ有スル家長ガ死亡シ幼年者ガ之ヲ相續スル等ノ場合ニハ、一家ハ非常ナル不利ニ陥リ爲メニ家産ノ傾覆ヲモ招徠スルコトアリテ、或ハ之ニ本税ヲ賦課スルヲ以テ家族主義ヲ破壊スルモノト爲ス者アリ。戰前ノ獨逸ノ如キハ、此點ヨリシテ死亡者ノ相續人ガ相續スル場合ニハ之ニ課税セザルノ主義ヲ固執シアリテ、右ノ主張ハ一面ノ眞理ヲ有セザルニ非ザルモ、然シ家督相續者ニ輕微ナル課税ヲナセバトテ、爲メニ家族主義ノ破壊ナリトナスハ餘リニ誇張ニ失スルモノトス。從ツテ我邦及ビ英國等ニテ家督相續者ニモ課税スルト同時ニ、之ヲ他ノ相續者ニ比シテ

國家ハ遠
族若クハ
非親族ニ
代リテ相
續スベシ
トノ税

遺產税

贈與税

最輕率ヲ課シアルハソノ當ヲ得タルモノトス、斯クノ如ク家督相續者ニ對シ非課稅說ヲ唱フル者ノアル其ノ半面ニハ、國家ハ死亡者ノ遠族又ハ非親族ノ相續ヲ全廢若クハ制限シ、自ラ之ニ代ツテ相續スベシトノ說ヲ高唱スル者モアリテ、是ハ國家ハ個人ト共ニ若クハ個人ノ上ニ所有權ヲ有シ、且ツ國家ノ最高領得權ニヨリ相續權ヲ有スル親族ノ相續ヲ制限スルヲ得ベシトノ法理論ニ胚胎スルノ學說ニシテ一顧ノ價値ヲ有スルモノナリ。

以上普通ノ相續税ノ外ニ、尙之ガ一種トシテ遺產税 (Nachlasssteuer) ナルモノアリテ、英國ニ於テ大ニ發達シタリ、是ハ被相續人ノ遺產ガ各相續者ノ手ニ移ル前ニ、ソノ遺產全體ニ付キノ大小ニ應ジテ累進率ヲ課スルモノニシテ、相續者ソノ人ヲ無視スル物稅ノ性質ヲ有スルモノナルモ、普通ノ相續税ト共ニ本稅ヲ賦課スルニヨリ、始メテ大收入ヲ舉グルヲ得ルモノトス。(英國ノ所得稅ハ源泉課稅主義ヲ取り、充分ニ累進率ヲ適用スルヲ得ザルヲ以テ、本稅ニ適度ノ累進率ヲ課シ所得稅ト本稅ト相待ツテ始メテ人々ノ納稅力ニ適應スルノ目的ヲ達セントシアリテ、同國ニテハ此兩稅ハ不可分のナリトス。) 又被相續者ニシテ自ラ死期ノ近ヅキタルヲ覺知スルトキハ、既ニソノ生存中一於テ其ノ財產ヲ親族知人若クハ多年左右ニ奉仕シアル人々等ニ分配スルノ形式ヲ取り、以テ合法的脫稅ヲ計ルノ徒尠カラザルヨリ、立法者ハ贈與稅即チ寄贈稅ナルモノヲ設ケ以テ之ガ對策ニ出

デ、被相續者ガ死亡前若干年月間ニ贈與シタルモノハ、總テ相續財產ト見做シテ本稅ヲ賦課スルニ至リタルハ當然ニシテ、普通ノ相續稅、遺產稅及ビ本稅ノ三者相俟ツテ、始メテ學理上完全ナル相續稅ヲ構成スルモノトス。而テ英國ハ此ノ期間ヲ三年トシ我邦ハ之ヲ一ケ年ニ限定シアレド、一ケ年ハ短キニ失スルモノトス。我邦ノ相續稅收入ヲ見ルニ

明治四十四年度決算	四、〇六一、五九六圓
大正九年度豫算	四、一一七、八七四圓
大正十年度豫算	五、〇三一、三四四圓
大正十一年度豫算	七、一五八、六六五圓

ニシテ、最近年度ニテハ物價ノ騰貴、貨幣購買力ノ減少ニヨリ、比較的大ニ收入ヲ増加シタルモ、之ヲ英國等ニ比スレバ極メテ少額ニシテ、本稅ノ最モ發達シタル英國一九一二年度決算ニヨレバ、本稅收入ハ二五、二四八、〇〇〇磅ノ巨額ニ達シ、租稅總收入ノ一六%ヲ占ムルニ反シ、我が相續稅十一年度豫算ハ我が租稅總收入ノ一%以下ナルニ過ギズシテ、是ハ稅法ノ不備ナル爲メ脫稅多キト、且ハ英國流ノ遺產稅ヲ缺ク等ノ致ス所ニシテ、我が相續稅ハ尙大ニ改良ノ餘地ヲ存スルモノトス。

日英相續
稅收入ノ
比較

第十八章 免役税

免役税ノ
意義

免役税 (Wehr Steuer, Taxemilitaire) ハ即チ兵役免除税ニシテ、國民皆兵主義ノ國ニ於テ始メテ實施シ得ルノ租税ナリトス、何トナレバ兵役ノ義務ヲ有セザル國民ハ、服役セザルノ代償トシテ免役税ヲ賦課セラルベキ理ナケレバナリ。而テ本税ヲ賦課スルノ國ニテハ之ヲ租税ト稱スルモ、ソノ實ハ一種ノ納付金トナスヲ適當ナリトス。

本税ノ主
張點

本税ノ主ナル主張點ハ、壯丁中兵役ナル勤務ヲ國家ニ提供スル上、尙一身一家ニ於ケル經濟的不利益ヲ被ル者ニ對シ、之ガ免役者ニ財産上ノ義務ヲ負ハシメ、以テ壯丁間ノ負擔ノ均衡ヲ圖ルハ國家トシテ當然執ルベキノ手段ナリ。又個人側ヨリ之ヲ見レバ、體力軟弱等ノ爲メ國民ニ大義務ノ一ナル兵役ニ服スル能ハズ、若クハ抽籤等ニヨリ免役セラレ、ソノ期間自己ノ産業ヲ營ミ得ルノ利益ヲ享受スル者ハ、國家ニ對シ之ガ補償報酬ヲナスハ當然ナリトナシ、論據ヲ正義公平ノ點ニ置キ、本税ハ國民ガ分業協力シテ共同生活ヲ爲スノ根本義ニ合致スルモノナリト謂フニアリテ、且ツ財政的見地ヨリ、本税ハ國家ニ取ツテ一ノ倔強ナル財源ナリトナスモノニシテ、一見誠ニ人心ニ投ジ易キモ、深ク本税ノ性質等ヲ研究スルニ從ヒ、益々之ニ反對スルノ論據ヲ強ムルニ至ルモノトス。

本税ノ反
對理由

先ヅ本税ノ沿革ニ溯リテ之ヲ見ルニ、昔時ニハ租税ノ一種ナル夫役トテ、各家ハ年々若干日間人夫ヲ國家ニ提供スルノ義務ヲ有シ、家事上ノ都合ニテ之ヲ供給シ得ザルトキハ、物品ヲ以テ代納シタルモノニシテ、兵役ノ義務モ次第二此ノ夫役ノ一種ト見做サルニ至リ、家庭ノ都合等ニヨリ免役セラルル者ハ之ニ代ユルニ他ノ納税ノ義務ヲ以テシタリ。然ルニ多クノ立憲國家ニテハ、兵役ト納税トハ國民ノ二大義務トシテ相對立シ、彼是相混一スベキニ非ズシテ、今日ニ於テ尙兵役ニ服スル代リニ納税スベシトナスハ、恰モ貧困者ニ對シ納税スル代リニ兵役ニ服セヨトナスノ類ニシテ非理モ亦太甚シキモノナリトス。第二ハ本税ノ主體ガ不確定不明瞭ナルノ點ニアリテ、免役セラルル壯丁ノ殆ンド全部ハ、一家ノ係累者ニシテ納税スベキ實力ヲ有セザルヲ以テ、本税ノ主體ハ多クノ場合ニハ之ガ扶養者ナラザルベカラズ、而テ扶養者ニシテ免役者ノ父兄又ハ近親ナルトキハ、課税上尙多少ノ意義ヲ有ストモ謂フヲ得ベク、殊ニ家族主義ノ國ニ於テ然ルモノアルモ、何等親族的關係ヲ有セザルトキハ、ソノ人ハ好意的若クハ義侠的ニ之ヲ扶養シ、之ガ生活費教育費等ヲ支出スル上、尙本税ヲ賦課セラルモノトスレバ、之ヲシテ果シテ正理公平ニ適スルモノト謂フヲ得ベキヤ。第三、本税ハ兵役義務ニ對スル代納ニ非ズンバ、兵役ニ服セザルノ賠償ナリトス、元來軍隊ナルモノハ名譽ナル觀念ニヨリ支持セレ、軍隊ニシテ此ノ觀念ヲ失墜スル時ハ則チ其ノ崩壞スルノ時ナリトス。

且兵役ハ國民ノ二大義務ノ一ナルト同時ニ、吾人ノ一大權利ナリト謂フヲ得ベク、彼ノ納税ノ義務ヲ有スル新附ノ民ノ如キ、若クハ我が法權ノ下ニ立ツノ外人ノ如キハ兵役ニ服セントスルモ能ハザルモノトス。從ツテ兵役ニ服スルコトト、無事ニ之ガ義務ヲ完了スルコトハ、吾人ノ一ノ誇リナリト謂フヲ得ルモノナルニ、此ノ兵役ノ義務ニシテ金錢ニテ之ヲ代納シ得ルニ至ルトキハ、此ノ名譽デアリ一種ノ權利ナリトナス軍隊ノ根本的觀念ハ果シテ之ヲ維持スルヲ得ベキヤ。彼ノ「トライチケ」博士ノ「勤メザレバ金ヲ出セ」トノ事ハ、「金ヲ出セバ勤ムルニ及バズ」トノ觀念ヲ直チニ國民間ニ助成扶植スルモノナリトノ一言ハ、極メテ本問題ニ適實ナルモノニシテ、殊ニ免役者ニ賠償的若クハ之ニ類スルノ義務ヲ課スルノ不當ナルハ多言ヲ要セザルモノトス。第四、國民皆兵主義ノ國ニ於ケル免役ハ、身體精神ニ缺陷アルニ非ズンバ抽籤ニヨルモノニシテ、國家ガ不用ナリトシ抽籤ニヨリ免役シタル者ニ對シ、「兵役ヲ差シ許シタル代リニ納税セヨ」トナスハ餘リニ勝手千萬ナリトス。殊ニ不具癱疾者ノ如キハ、サナギダニ其ノ一生間ハ一家ノ累ヲ爲スモノナルニ、之ニ加フルニ其ノ家人ニ納税ノ義務ヲ課スル如キハ苛酷ニ失スルノミナラズ、不具癱疾者ヲシテ一生精神のニ苦悶セシムルモノニシテ、是レ本税ガ跛者ヲ苦ムルノ虐税ナリトノ稱アル所以ナリトス。第五、本税ハ免役セラルルノ賠償ニ非ズト爲スモ、尠クトモ之ガ御禮トシテ報酬主義ニヨリ賦課スルヲ以テ、

納税力主義ニヨルノ累進率ヲ課スルヲ得ズシテ比例税ニヨルモノトス。而テ比例税ハ最モ納税力ニ乏シキ者ヲ基準トシテ賦課スルヲ要スルヲ以テ、本税ヨリシテ多大ノ收入ヲ舉グルハ不可能ナリトス、サレバ本税ヲ賦課シタル埃洪、瑞西等ニ於ケル收入ハ少額ニシテ、又本税ヲ賦課シタリシモ既に現戰役前ニ於テ之ヲ廢止シタル佛ノ收入モ遂ニ巨額ニ上ルヲ得ザリシ。從ツテ本税ハ財政上ヨリモ之ヲ重視スルノ價值ナキノミナラズ、本税ノ賦課ニハ課税ノ技術上種々困難ナルモノアリテ、例ヘバ現役ト豫備役、後備役トニ該當スルノ年間ニ於テ夫々税率ヲ區分シ、且ツ免役者中身體ノ強壯ナル等充分服役ノ資格ヲ具備スルモ抽籤ニヨリ免役トナリタル者、不具癱疾者、又ハ身長不足、色盲、近視眼等ニヨリ免役セラレタル者、服役中病氣若クハ他ノ事由ニヨリ免役セラレタルモノ、或ハ服役期間ノ四分ノ三若クハ三分ノ一ヲ服役シタル等ノ後ニ於テ免役セラレタル者等ニ對シ、各々異リタル税率ヲ課スルノ極メテ困難ナルモノアル等、決シテ單純ナル課税法ニヨルヲ得ザルモノトス。

以上述べ來リタル所ニヨレバ、本税ハ決シテ推獎スルニ足ルノ價值ヲ有スルモノニ非ズシテ、本税ヲ課スベシトナスノ論據ハ極メテ薄弱ニシテ、且ツ近代的課税ノ原則ニ適合セザルニ拘ラズ、國民皆兵主義ノ國ニテハ、何レモ本税ノ採用ヲ主張スルノ徒アリテ、我帝國議會ニテモ、之ガ採用問

題ハ十數年來ノ懸案ナルモ、畢竟是ハ人々ノ單純ナル心理狀態ニヨルニ外ナラズシテ、例ヘバ茲ニ甲乙兩家ノ相隣スルアリテ、甲家ニ於ケル二人若クハ三人ノ子弟ハ何レモ兵役ニ服シアリテ、一家ハ働キ盛リノ壯丁ニ離レ流離困頓ノ悲境ニ沈淪シアルニ反シテ、乙家ノ子弟ハ或ハ抽籤ノ結果ニヨリ、若クハ精神身體上何等ノ大欠陥アルニ非ズシテ、單ニ身長不足等ノ理由ノ下ニ何レモ現役ヲ免ゼラレ、一家ハ團樂ノ樂ヲ受ケ、且ツ安ンジテ其ノ産業ヲ營ムヲ得ルモノトスレバ、稠人ニ超越スルノ惻隱心ヲ有スル者ニ非ザルモ、尙且ツ兩家負擔ノ餘リニ懸隔アルヲ嗟嘆シテ止マザルベク、斯ル心理狀態ガ免役稅主張ノ動機トナルベキモノナルモ、然シ是ハ國民皆兵主義殊ニ國家ガ此ノ主義ヲ採ルト同時ニ、自己ノ都合ニヨリ壯丁ノ一部ノミヲ採用スルヨル生ズル避クベカラザルノ弊害ニシテ、國家、社會ハ他ノ方法ヲ以テ斯ル弊害ヲ除去輕減スルニ努ムベキハ別問題ナルモ、之ガ爲メ何等與リ知ラザル抽籤ニヨルノ免役者、又ハ不合格者ノ父兄等ニ課稅スル如キハ、何等據ルベキノ理由ヲ有セザルモノトス。

尙本稅ニ付キ一言スベキハ、本稅ヲ採用スルノ國ノ多クハ之ヨリ生ズル收入ヲ以テ服役者家族ノ救濟資金等ニ充ツルモノニシテ、本稅ハ之ニヨリ所謂目的稅トナルモノトス。然ルニ此ノ目的稅ハ「租稅ノ分類」ノ部ニテ述ベタル如ク、舊式財政法ノ遺物ニテ種々ノ弊害ガ其ノ間ニ伏藏スルモノナ

リテ、殊ニ豫算ノ統一金庫ノ統一ヲ財政上ノ二大要義トナス、現代的立憲國家ノ制度ニ副ハザルモノナルヲ以テ、成ルベク之ガ賦課ヲ避ケ、現役者家族ノ扶養等ニ必要ナル經費ハ之ヲ一般國庫ニ仰ギ、且ハ社會ノ共助ニ俟ツベキモノトス。

戰前ニ於テ本稅ヲ賦課シタル國ハ、瑞西奧洪、「セルビヤ」、「ブルガリヤ」及ビ「ルーマニヤ」ノ五國ノミナリシ。佛國ハ一八八九年來之ヲ實施シ他ノ模範トナリタルモノアリシガ、軍備競争ノ極次第ニ免役者ノ數ヲ減ジ、且ツ本稅ノ賦課ハ苛酷ニ失ストノ國論ニ鑑ミ、次第ニ免稅者ノ範圍ヲ擴メシガ、一九〇五年、二年兵役制ヲ採ルニ及ビ遂ニ之ヲ全廢シタリ。ソノ他ノ諸國中ニハ、獨ノ一二聯邦ノ僅カニ二三年間ノ實施ニ止リタルモノアリ、又ハ露、土ノ如ク極メテ變則的若クハ一部の課稅ヲ爲シタルモノアリ、又ハ獨、伊ノ如キ屢々本稅ノ實施ヲ試ミテ屢々成ラザルモノアリ、而テ戰前ニ於ケル本稅ノ收入ハ、列國中最モ多額ヲ舉ゲタル瑞西ノ四百五十萬法ヲ首位トシ、奧ハ年收約二百萬「クローン」、佛ハ本稅廢止ノ當時ニハ年收約二百萬法ヲ舉ゲタルニ過ギザリシ。

本稅施行
ノ國及本
稅收入

第十九章 交通税總論

交通税ノ
意義

交通税 (Verkehrssteuer) トハ、或ル物 (權利ヲモ含ム) ガ移轉交通スルノ機會ニ於テ賦課スルノ租税ニシテ、課税ノ源泉ハ所得若クハ財産ニシテ、之ガ目的物ハ移轉交通ナル事實ナリトス。例ヘバ土地家屋ノ賣買又ハ小切手ノ振り出しニ際シテ課スルノ登録税又ハ小切手税ノ如キハ何レモ交通税ニシテ、即チ或ル物ノ賣買讓渡財産權ノ移轉等ヲ目標トシテ課税スルモノナルヲ以テ、消費税ガ或ル物ノ消費使用ニヨリ、間接ニソノ人ノ納税力ヲ見テ課賦セラルル如ク、本税ハ或ル物ノ移轉交通ニヨリ、間接ニ之ガ納税力ヲ測定シテ課税セラルル一種ノ間接税ナリトス。

廣義ノ意味ニ於ケル交通税ハ、收入税所得税及ビ或ル財産税ノ外ハ殆ンド總ベテノ租税ヲ網羅スルモノナリト謂フヲ得ベク、即チ相續財産ニ課スルノ相續税モ、土地ノ自然増價ニ對シ之ガ賣買讓渡ノ際ニ課スルノ土地増價税モ、將又使用消費ノ目的ヲ以テ貨物ヲ賣買シ、出入セシムルノ際ニ課スルノ消費税關稅ノ如キハ、何レモ相續シ賣買移轉シ、國境ヲ出入スルノ際即チ交通ノ行ハルル際ニ課スルノ一種ノ交通税ナリトス、然シ是等ハソノ實質上ヨリスレバ、或ハ財産税トナリ、或ハ消費税トナルヲ以テ、以下本章ニテ論ズル所ハ、是等ノ諸税ヲ除キタル狹義ノ意味ニ於ケルノ交通税

廣義ノ交
通税

ナリトス。

交通税ノ
特點

交通税ノ源泉ハ前ニ述ベタル如ク所得若クハ財産ナルモ、事ノ實際ニ付キ之ヲ見レバ本税ハ或ル物ノ賣買讓渡等ノ事實ニヨリ、ソノ人ノ所得財産ヲ見テ、ソレヨリ之ガ納税力ヲ測定スルト謂フモ、ソノ實ハ之ニヨリ其ノ人々ノ所得等ヲ眞實測定スルノ程度ニ達スルニ非ズシテ、ソノ經濟交通ニヨリ之ガ主體タル人々ノ納税力ヲ測定スト爲ス如キハ、極メテ茫漠トシテ殆ンド捕捉スル所ヲ知ラザルノ觀アリテ、恰モ人頭税ガ人々ノ生存スル事實ニヨリテ、ソノ人ハ多少ノ納税力ヲ有ストナス如ク、或ル物ガ移轉交通スルノ事實ニヨリテ、之ガ當事者ハ財産或ハ所得ヲ有ストノ推定ヲ爲スニ過ギズシテ、ソノ茫漠ナル程度ハ消費税ガ人々ガ貨物ヲ消費スルニヨリ、ソノ納税力ヲ測定スルニ比シテ一層太甚シキモノアリ。唯ダ本税ヲ課シタル結果ニ付キ之ヲ見レバ、之ヲ課セラレタル財産ニシテ或ル收入ヲ生ズルトキハ、本税ハ恰モ特別收入税ノ觀ヲ爲シ、又賦課セラレタル財産ニシテ娛樂消費ノ用ニ供セラルルトキハ、本税ハ消費税ノ働キヲ爲スモノニシテ、又本税ヲ課セラレタルモノニシテ、娛樂消費ニ供セラルルニ非ズシテ尙且ツ之ヨリ生ズル所得無ク又ハ却ツテ損失ヲ生ズルトキハ、本税ハ恰モ所得稅若クハ收入税ニ割掛ケヲ爲スノ實ヲ呈シ、又ハ部分的財産税ノ働キヲ爲スモノトス。

右ノ如キヲ以テ交通税ハ正理ニ適スルノ租税ナリトノ點ニ付イテハ、學者中種々ナル說ヲ爲ス者アルハ怪シムニ足ラザルモノトス。元來本税ハ學理ノ指導ニヨリ實際ノ税制上ニ採用セラレタルニ非ズシテ財政主義ヨリシテ、多少ニテモ國庫ノ收入ヲ補フヲ得レバ足レリトノ點ヨリ之ヲ課スルニ至リタルモノニシテ、從ツテ負税者ニ對スル納税力ノ測定法ノ如キハ極メテ粗雑ナルノミナラズ、國家ハ始メヨリ財産ノ移轉交通ニ參加スル甲若クハ乙ノ何レヲ以テ負税者タラシムベキヤニ付イテハ確的ナル意志ヲ有スルニ非ズ、即チ租税ノ主體ニ對スル立法者ノ意志ハ極メテ曖昧ナルモノニシテ、唯課税スルヲ得レバ足ルモノトシ、殆ンド其ノ負税者ノ甲タルト乙タルトヲ問ハザル場合モ尠カラズ。交通税ハ斯ノ如ク其ノ成立チ及ビ性質上、直税及ビ消費税ノ如ク整然タル組織一貫シタル學理ノ基礎ヲ有セザルモノナルガ、ソレニモ拘ラズ、ソノ租税系統中ニ於ケル存在ヲ維持スルノミナラズ、經濟財政ノ益々複雑トナルニ連レ、直税、消費税以外ニ於テ益々多種異様ナル交通税トシテノ税種税目ヲ有シ、直税消費税ト相伍シテ雄ヲ一方ニ張ルヲ得ルハ、一ニ他ノ缺漏ヲ補足補充スルノ任務ヲ有スルニヨルモノニシテ、個人財産關係ノ益々縹密複雜トナリ、債權債務ノ關係、無形ノ權利義務ハ、有形の財産以外ニ益々ソノ分量勢力ヲ増加シ、又個人ノ經濟行爲ハ人々ノ手腕力量ニヨリ之ガ結果ニ大差違ヲ生ズルニ至リタル文明列國ノ現狀ニ在ツテハ、收入税ガ單ニ外形の徵

交通税ハ一貫シタル學理ノ基礎ヲ有セズ

交通税ノ任務

表ニヨリ、以テ人々ノ納税力ヲ測定スルニ過ギザル如キハ言フ迄モナク、ヨク人の關係ニ立チ入り、精細ニ個人ノ納税力ヲ測定スルヲ期スルノ所得税スラ、尙未ダ總ベテノ利得收益ヲ網羅シ之ニ公平ナル課税ヲ爲シ得ルニ至ラズシテ、所謂合法的、背法的脱税ハ頻々ソノ間ニ行ハレ、殊ニ有價證券ヲ有シ、貸付ケヲ爲スノ大資本家ノ如キハ、他ノ收入の源泉ヲ有スル者ニ比シ、比較的輕課セララルハ爭フベカラザルノ事實ナリトス。而テ此ノ缺漏ヲ補足スルノ任務ヲ有スルノ消費税アルモ、是ノミニテハ不充分ナルヲ免レズシテ、尙之ニ加フルニ交通税ヲ以テスルニヨリ、始メテ或ル程度迄之ガ補足補充ノ目的ヲ達成スルヲ得ベク、之ニヨリ始メテ從來課税ヲ免レタル或ル所得ニ對シ、又ハ機械的射伴的利得等ニシテ未ダ課税ノ目的物トナラザルモノニ對シ課税スルヲ得ベク、從ツテ人事ノ複雜、經濟關係ノ多岐多端トナルニツレ、本税ハ中心の機能ヲ有セザルニ拘ラズ、列國現時ノ税制上益々之ガ四肢五管ヲ伸張シアルモノトス。「ワグナー」ガ交通税ハ他ノ收益税(收入税及ビ所得税ヲ謂フ)ノ性質上及ビ組織上、或ル經濟交通若クハ法律的行爲ニヨリ生ズル收益ニ課シ得ザルモノアリ、若クハ事實上課税セラレズ、又ハ極メテ不確ニ且ツ不充分ニ賦課セラルルモノアルニヨリ、之ガ主張點ヲ有ストナシタルハ、以上述べ來リタル理由ニヨルモノトス。

交通税ノ分類

或ル價格ヲ受ケ取ルノ主體ハ何等ノ勞資ヲ要セズ若クハ著シキ勤勞努力ヲ爲サズシテ、他働的ニ或ル價格ヲ生ズルモノニ課スルモノニシテ、即チ相續稅、贈與稅及ビ增價稅ハ之ニ屬シ、是等ハ何レモ補足的財產稅、即チ交通稅的財產稅ナリトス。又後者ハ或ル價格ヲ受取ルノ主體ハ殊更ニ之ヲ獲得セントシ、自働的ニ勤勞努力スルノ結果ニ課スルモノニシテ、之ヲ二種ニ區分スルヲ得ベク、即チ第一ハ更ニ之ヲ甲乙ニ區分シ、甲ハ或ル不動產ノ交通ニ課スルモノ、即チ狹義ノ意味ニ於ケル登錄稅、乙ハ動產交通ニ課スルノ賣買稅、銀行券又ハ債券等ノ發行ニ課スルノ發行稅及ヒ富籤稅ニシテ、又第二モ之ヲ二分シ、甲ハ價格ノ交通及ビ受取り等ノ書類ニ課スルモノ即チ爲替證券、受取書、勘定書、計算書等ニ課スルノ印紙稅ニシテ、乙ハ或ル種ノ運送稅ナリトナセシガ、此ノ中他働的的交通稅ハ何レモ余ノ財產稅ノ一種トシテ既ニ研究ヲ遂ゲタルモノナルヲ以テ之ヲ除外シ、以下「ヘツケル」ノ所謂自働的交通稅ニ付キ觀察スルコトトシ、主トシテ我邦ノ現制度ヲ研究ノ中心點トナスモノトス。

不動產及ビ動產交通稅ニ付キ之ヲ見ルニ、稅制ノ沿革上不動產交通稅先ヅ起リ、ソレヨリ動產ガ次第ニ價值ヲ増スニ連レテ經濟上重要ナル地歩ヲ占ムルニ至リ、立法者ハ遂ニ之ガ或ル種類ニ對シ本稅ヲ賦課スルニ至リタルモノトス。言フ迄モナク、不動產ト動產トハ密接ナル關係ヲ有スルヲ以

交通稅ノ沿革

テ、既ニ不動產交通稅ニシテ存在スル以上ハ、是ト均衡ヲ保ツ爲メ當然動產交通稅ヲモ賦課スルヲ要スルモノトス。

然ルニ實際ノ關係ヲ見ルニ、動產交通ノ或ル種類ニハ不同等ニ課稅セラレ獨ノ「エーベルヒ」ノ言ノ如ク、立法者ハ今モ昔モ財政主義ニ重キヲ置キ、課稅スベキ貨物交通ノ選擇ヨリハ、寧ロ課稅ノ容易ナルト收入ノ多キヲ目的ト爲スヲ以テ、正理の原則ハ殆ンド無視セララルノ氣味ナキニ非ズシテ、例ヘバ多クノ國ニ行ハル保險稅、運送狀稅、受取稅ノ如キハ殆ンド學理上ノ論據ヲ見出スニ苦ムモノトス。元來交通稅ハ前ニ述ベタル如ク、事實上單ニ或ル物ノ移轉交通ニヨリ之ガ收入所得ニ溯ラズシテ、漫然之ガ納稅力ヲ量定スルモノ多キヲ以テ、充分人々ノ納稅力ニ適應スルノ課稅ヲ爲スヲ得ズシテ、此ノ點ハ如何ニ本稅ヲ辯護セントスルモ之ヲ爲スノ餘地ヲ見出スニ苦シムモノトス。

交通稅ハ昔時ニ於ケル特權的手數料ニソノ端ヲ發シ、今日ニテモ印紙ヲ以テ之ヲ徵收スル等、外見上ハ殆ンド手數料ト區分スル所ナク、我邦ノ如キハ之ヲ以テ印紙收入ノ一部トシテ手數料收入ト混一シ他ノ租稅ト區分シアリ。然シ本稅ト手數料トハ全然ソノ性質ヲ異ニシ、手數料ハ租稅ノ定義ノ部ニテ述ベタル如キ性質ヲ有スルモノニシテ、從ツテ兩者ノ異ル要點ハ、第一、手數料ハ官廳ガ個

動產交通稅ハ公正の原則ニ反ス

交通稅ト手數料トノ別

人ノ要求ニ對シ或ル行爲ヲ爲シタル結果ナルモ、本税ハ物ノ移轉交通ニヨリ賦課シ、第二、手数料ハ官廳ノアル特別ノ行爲手数料ヨリ生ジタル費用ノ補償ナルモ、本税ハ始メヨリ財政ノ需要ニ充ツルノ目的ヲ以テ國家ガ進ンデ國民ニ賦課スルモノトス。而テ第三ハ兩者各々賦課スルノ主義ヲ異ニスルモノニシテ、即チ手数料ハ報酬主義ニヨルモ、交通税ハ後章述ブル所ノ噸税ノ如ク或ハ報酬主義ヲ加味セザルニ非ザルモ、大體上納税力主義ニヨルモノトス。斯ノ如ク兩者ノ區分ハ學理上明瞭ニ爲シ得ル如キモ、實際上ハ現ニ國家ノ徵收シアル手数料ハ、何レモ官廳ニテ要シタル實費以上ノ金額ヲ含ミアリテ、此レ以上ノ分ハ或ハ交通税ノ性質ヲ有スルモノアリ。

以上ハ交通税ノ本質ニ關スル説明ノ概要ニシテ、要スルニ本税ハ他税ノ缺陷缺漏ヲ補填スルノ補足的補充的租税ニシテ、他税ノ缺陷ニシテ存在スル限リハ、本税ハ永久ニ之ガ生存ヲ維持スルモノナリトス。然シ學理上ヨリ之ヲ觀レバ人々ノ納税力ニ適應スベキ納税力主義ヲ取り乍ラ、多クハ之ニ適應スルヲ得ザル粗笨ナル税種ニシテ、ソノ殆ンド課税ノ主體ヲ無視スルノ點、又ハ納税力ノ測定上多クハヨルベキ外形的徵表ヲスラ缺クノ點ハ、所得税、收入税ノ何レニモ劣ルモノニシテ、唯ソノ課税ノ比較的容易ニシテ、且ツ相當ノ收入ヲ擧ゲ得ル財政上ノ點ヲ別ニスルトキハ、課税ノ正理上及ビ經濟政策上殆ンド見ルベキモノナシト謂フヲ得ルモノトス。然ルニ「ワグナー」ハ本税ヲ以

「ワグナー」
ノ論及
交通税
之批評

テ、「學理上正當ニシテ、或ル範圍迄ハ必要ニシテ、且ツ實行上重要ナル租税ナリ、ソノ手数料ト相混ジタル特別ナル徵收法ヲ有スルヨリシテ、學理上今日ニ至ル迄多クハ正鵠ヲ失シタル解釋判斷ヲ受ケアリ、又各交通税ニ付キ之ヲ見レバ、不當ナル課税ノ行ハルルモノモアレド、大體上之ニヨリ近代的租税系統中、正當ニ且ツ重要ナル一成分タルノ點ヲ動カスヲ得ズシテ、十七世紀以來商業國ナル和蘭ニ於テ最先キニ且ツ最モ廣ク行ハレ、ソレヨリ近時ニ至ル迄多クハ英國ノ如キ商業的、信用的交通ノ殊ニ發達シタル國ニ於テ、本税ノ益々發達シタルハ殊ニ吾人ノ注意ヲ值スベク、今ヤ輿論ハ之ガ賦課ヲ當然ナリトナシ、更ニ之ヲ擴張シテ取引所ノ取引税ニ及ボスノ要求ヲ見ルニ至リタルハ、畢竟本税ニヨルニ非ズンバ租税ノ全體ノ組織ニ於テ不都合ナル缺陷ヲ補フニ由ナキヲ以テナリ」トナシ、本税ノ改良策トシテハ、課税スベキ税目及ビ課税ノ範圍ヲ制限シ、且ツ税率ヲ低下ナラシメ、且ツ交通スル價格ヲ以テ課税ノ標準トナズシテ、交通ヨリ生ズル増價即チ收益ヲ標準トナスベシトノ意見ナルモノノ如シ。然シ彼ガ學理上正當ナリトナスモノハ、他税ハ何レモ缺陷アルヲ免レザルヲ以テ、此ノ缺陷ヲ或ル程度迄補填シ、以テ成ルベク負擔ノ均衡ヲ計リ、眞實ナル納税力ニ應ジテ課税セントスルノ理想ハ正當ナリトナスモノナレバ、何人モ之ニ對シテ異議ヲ挾ムベキノ理ナキモノナレド、試ミニ具體的ニ現ニ列國ニ行ハルル各種ノ交通税、即チ登録税、爲替税、小切手

税、運送狀税、保險税等ヲ捕ヘ來リテ、之ヲ學理的解剖臺ニ上ストキハ、財政的收入ヲ擧ゲ得ルノ一事ヲ除キテハ、如何ナル點ニ於テ學理上正當ナリトナスヲ得ベキヤ、又彼ハ課税スベキ範圍ヲ縮少シ、且之ガ増價ノミニ課税セントスルモ、之ガ結果トシテ狹義ノ交通税ハ殆ンド税制上ヨリ影ヲ潜ムルニ至ルベクシテ、是レ本税ノ改良ニ非ズシテ、寧ロ本税ノ大部分ヲ消滅セシムルモノトス。

第二十章 交通税各論

第一節 登録税

登録税

本税ハ人々ガ所有權殊ニ不動産ニ對スル所有權ノ移轉創設ヲ官簿ニ登録スルノ機會ニ於テ課税スルモノニシテ、一面ニハ殊ニ官廳ニテ登記ニ要スル勞費ノ報酬ナル眞實ノ手数料ヲ含ムモ、他面ニハ租税ノ性質ヲ有スルモノニシテ、或ル權利ノ移轉創設ヲ登録スルノ機會ニ於テ課スルモノナルヲ以テ一種ノ交通税ナリトス。

登録税ノ性質ハ斯克ノ如キモ、列國ニテ本税ヲ賦課スル範圍ノ大小廣狹ハ各同ジカラザルモノアリ。我が登録税法ハ、明治十四年ノ制定ニ係リ、現行法ノ大要ハ、不動産、船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキ。鐵道、輕便鐵道及ビ軌道抵當原簿、工場財團、鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキ。船簿ノ登録ヲ受クルトキ。土地臺帳ニ地價修正開拓等ノ事項ヲ登記スルトキ。商事會社ソノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキ。商號ノ新設又ハ取得、支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅等ニツキ登記ヲ受クルトキ。著作權、意匠、特許、商標、實用新案ニ關スル登記ヲ受クルトキ。鑛業

我登録税

權、砂鑛權漁業權ニ關シ登記ヲ受クルトキ、及ビ辯護士名簿ニ又ハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工、船長、運轉士、機關長、機關士等ヲ官簿ニ登録スル等ノ場合ニ於テ本稅ヲ課スルモノトス。而テ稅額ハ登録スベキ物件ノ價格ニ應ジテ賦課スルノモノアリテ、例ヘバ法定ノ家督相續ニヨル所有權ノ所得ニハ不動産價格千分ノ五、華族世襲財產ノ創設ニハ不動産價格千分ノ二十五、質權抵當權ノ所得ニハ債權金額千分ノ六ヲ課スルモノニシテ、又定額課稅アリテ、例ヘバ辯護士名簿、醫師名簿ニ登録スルトキハ二十圓、船長ナルトキハ十五圓ヲ課シ、鑛山試掘權ノ設定一件ニ付キ百圓ヲ課シ、實用新案ノ使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存ニハ一件ニ付キ二圓ヲ課スルノ類ナリトス。又本稅ハ印紙ヲ以テ納付スルヲ原則トナスモ、勅令ノ定ムル所ニヨリ現金ニテ納入スルヲ得ベシ。

大正十一年度登錄稅收入豫算ハ四九、〇〇三、七四一圓ニシテ外ニ現金收入四、三七三圓アリ。

本稅收入中主要部分ヲ占ムルハ不動産登錄稅ニシテ、例ヘバ、大正八年度本稅收入豫算六千九百餘萬圓中、不動産登錄稅收入ハ四千九百八十四萬圓ニ上リタリ。而テ本稅ノ賦課殊ニ不動産登錄稅ニ付イテハ學者間ニ是非ノ議論ナキニ非レド、要スルニ本稅ハ財產ノ一部ヲ不規律ニ且ツ偶然ニ取リ上グルモノニシテ、之ニヨリ偶々補足補充稅タルノ任務ヲ充タスコトアルベキモ、必シモ然リト謂フヲ得ズシテ、單ニ歴史的發展ノ點及ビ課稅ノ容易ナル點ヨリ、之ヲ辯護スルヲ得ルニ過ギザルモノトス。

我登錄稅ノ課稅法

登錄稅ノ批評

第二節 印紙稅

印紙稅

印紙稅ハ財產權ノ移轉移動ヲ證明スベキ書類ノ作成ニ對シ課稅セララルノ交通稅ニシテ、ソノ網羅スル權利及ビ證書類ノ範圍ハ國ニヨリ大ニ異ルモノアリ。

我印紙稅法

我が印紙稅法ハ明治六年證券印紙稅ナル名稱ノ下ニ制定セラレ、ソレヨリ種々ノ沿革ヲ經テ今日ニ至リタリ。現行法ニヨレバ財產權ノ創設、移轉、變更若クハ消滅ヲ證明スベキ證書、帳簿、及財產權ニ關スル追認若クハ承認ヲ證明スベキ證書ヲ作成スルモノニ本稅ヲ課ス、即チ金錢借用證、爲替手形、約束手形、船荷證券、銀行預金證券、保險證券、株券、債券、物品切手、賣買仕切書、受取書、通帳、判取帳、權利ノ變更ニ關スル證書、定款及ビ組合契約書、追認承認ニ關スル證書、地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書等ハ、何レモ本稅ヲ賦課セラル。

本稅賦課ノ方法ハ定額稅、比例稅及其ノ他ノ混同ニシテ、例ヘバ委任狀ハ何レモ一通二錢、爲替手形ハ何レモ一通三錢ヲ課スル如キハ定額稅ニシテ、又金錢借用證書ニ對シテハ、一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ、之ガ一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納入スベシト爲ス如キハ比例稅ヲ課スルモノナリ。其ノ他約束手形ニ對シテ一通ノ金高二百圓以下ニハ三錢、夫レヨリ千圓以下

我印紙稅ノ賦課法

ニハ五錢、五千圓以下ニハ十錢、一萬圓以下ニハ二十錢等ヲ課シ、最高十萬圓以上ニ七圓ヲ課スル如キ累減稅ナリ。

或ル證書類、例ヘバ小切手、金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形、金高一圓未滿ノ物品手形俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及ビ救恤金ノ受取書、手形ノ引受ケ保證、手形及ビ證券ノ複本謄本等ニハ本稅ヲ賦課セズ。

以上課稅ヲ免ゼラルルモノノ内、小切手ハ明治十一年布告證券印紙稅規則制定以來、一通ニ付キ五厘ノ印紙稅ヲ課シ三十二年印紙稅法制定ニ際シ、小切手ノ流通ヲ獎勵スルノ目的ヲ以テ之ヲ免除セシガ、日露戰役ニ於ケル第二次非常特別稅法ニ於テ、更ニ小切手一通ニ付キ一錢ヲ課スルコトナシタリ。然ルニ小切手ノ課稅ハ之ガ流通ヲ阻害シ、現金ノ受授ヲ獎メ、通貨ノ膨脹ヲ促シ、現ニ課稅後ハ小切手ニテ職工ノ給料ヲ仕拂フヲ廢シ、之ヲ現金支拂ヒト爲シタル會社等多ク、又月末勘定モ同様ニシテ、斯クテ從來數多ノ小切手ヲ振り出シタル者モ、課稅ノ實施以來ハ一枚ノ小切手ニテ預金ヲ受ケ取り、之ヲ分割シテ支拂フノ風ヲ生ジタル等、課稅ノ結果非難スベキモノ多ク今ヤ再ビ之ヲ廢止スルニ至リタリ。

各種ノ運送狀ニ本稅ヲ課スル如キハ、此ノ小切手課稅同様、産業ヲ發展セシメントスル經濟政策

印紙稅ノ缺點

ト相矛盾シ、又或ル國ニテ保險料ニ課稅スル如キハ、國民ノ節約貯蓄ヲ勸獎スルノ主義目的ト相背馳スルモノニシテ、取引稅、銀行券發行稅ヲ除キタル交通稅ノ多クハ、經濟政策、産業政策ト相容レザルモノアリ。

又我邦ニテハ約束手形ニ對シ、以前ニハ一通二錢ナル輕キ定額稅ヲ課セシガ、斯ク稅額ノ輕微ナルト、約束手形ハ普通ノ借用證書ト異ナリテ證書作成ノ便利ナルト、手形法ノ規定ニヨリ債權實行ノ確實容易ナルトニヨリ、之ヲ借用證書ニ代用スルノ風大ニ行ハルルニ至リタルヲ以テ、遂ニ前述ノ如ク三錢乃至七圓ヲ課スルニ至リタリ。

右ノ外印紙稅ハ證書帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納入スルヲ原則トナスモ、印紙稅額ニ相當スルノ現金ヲ政府ニ納付シテ、稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代ユルヲ得ルモノトス。

大正十一年度印紙稅收入豫算ハ左ノ數項並ビニ金額ヨリ成ルモノトス。

登錄稅	四九、〇〇三、七四一圓
賣藥印紙稅	七、三一二、四八三圓
印紙稅	五、二一七、五九九圓
狩獵免許稅	二、四七五、七一九圓

骨牌稅	三〇一、九八七圓
關稅法第四十三條ニヨル關稅	三、〇三八、七一二圓
關稅雜收入	四、七六六、三三七圓
訴訟用印紙料	二、一八七、二二七圓
罰金過料及科料	二、七八七、〇五五圓
鑛業及ビ砂鑛業ニ關スル手數料	五九七、五九四圓
ソノ他	五、四四九、一五五圓
計	八三、一三七、六〇九圓

外ニ現金收入トシテ登錄稅四、三七三圓、印紙稅五一六、一四一圓、計五二〇、五一四圓アリ。

本稅收入ノ大部分ヲ占ムルハ登錄稅ニシテ、ソノ他狹義ノ印紙收入ノ外ハ、何レモ交通稅ノ性質ヲ有セザルモノニシテ、即チ賣藥印紙稅ハ一種ノ消費稅ニシテ、狩獵免許稅ハ特別營業稅ノ部ニ述ベタル如ク、一部ハ特別營業稅ニシテ一部ハ奢侈稅ナリ。又大正十一年度同稅收入豫算ガ同十年度ノ百六萬餘圓ナルニ比シ約二倍半ノ増加ナルハ、本年度ヨリ稅法ヲ改正シテ大ニ增稅シタル結果ニヨル、ソノ他骨牌稅モ亦一種ノ奢侈稅ニシテ、又關稅雜收入ハ説明スル迄モナク、訴訟用印紙料及

ビ鑛業砂鑛業ノ手數料ハ或ル點迄ハ眞實ナル手數料ニシテ、又罰金、科料及ビ過料ハ雜收入ニ屬スベキモノトス。

第三節 取引稅

取引稅

交通稅トシテノ取引稅ハ、取引所ニテ取引ノ行ハルル機會ニ賦課セララルモノニシテ、之ガ納稅者ハ通例取引ヲ爲ス當事者ノ一方若クハ双方ニシテ、課稅ノ目的物ハ有價證券及ビ商品ノ取引ナル一種ノ經濟交通ナリトス。

我取引稅

我が取引稅ハ明治七年布告第七號株式取引所條例及ビ同八年布告第八十八號米商會所稅ニ淵源シ、爾來幾多ノ變遷ヲ經テ兩者ハ稅制上統一セラレ、大正三年法律第二十三號ヲ以テ從來ノ取引所稅法ヲ改正シ、取引所稅ヲ取引所營業稅ト取引稅トニ區分シ、取引所營業稅ハ取引所ヲ以テ、取引稅ハ會員又ハ仲買人ヲ以テ納稅者トス。此ノ内取引所營業稅ハ一種ノ特別營業稅ニシテ、取引所ニ於ケル賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニテ課稅シ、又取引稅ハ取引所ニ於ケル定期取引ニ對シ其ノ賣買各約定金額ニヨリ、第一種、地方債證券、社債券ニハ之ガ一萬分ノ二、第二種、有價證券及ビ第三種、商品ニハ各々一萬分ノ五ヲ課シ、國債證券ニハ課稅セズ。大正十一年度取引所稅收

入豫算ハ一〇、八七六、三五八圓ニシテ、内、取引所營業稅二、〇〇九、八三五圓、取引稅八、八六六、五二三圓ニシテ、此ノ内、有價證券ニ課スルモノ三、八〇三、四九九圓、商品ニ課スルモノ五、〇六三、〇二四圓ナリトス。

取引稅ノ性質

取引稅ハ補足補充稅トシテハ最モ適當ナル租稅ニシテ、取引ヨリ生ズル利得ノ如キハ、射倖的利益ト同ジク課稅上殊ニ捕捉スルニ苦シムモノニシテ、本稅ニヨリ始メテ課稅ノ缺陷ヲ補フヲ得ベシ。以前ニハ國民道德上ノ見地ヨリ本稅ヲ賦課スベシトノ說行ハレシモ、是ハ取引所ヲ以テ一種ノ賭博場ト見做スモノニシテ、此ノ主張ハ尠クトモ極端ニ失スルモノトス。取引所ニテ取引セラルル一部分ハ疑モナク投機ノ目的ヲ有スルモ、多クハ投資ノ目的ヲ以テ株式商品ヲ賣買シ、實際之ヲ使用スルノ目的ヲ以テ貨物ノ取引ヲナスモノニシテ、之ニ對シ警察的眼光ヲ以テ課稅ヲ主張スルハ穩當ヲ缺クモノナルノミナラズ、今日ノ經濟界ニハ投機モ亦缺クベカラズシテ、唯不正手段ヲ以テスルノ投機ハ極力排斥セザルベカラザルモ、是ハ課稅ニヨリ制裁ノ目的ヲ達シ得ルモノニ非ズ。

第四節 銀行券發行稅

銀行券發

本稅ハ銀行券發行銀行ニ賦課シ以テ之ヨリ生ズル利益ノ一部ヲ國家ニ取り上グルモノニシテ、銀

行稅

行ニテ銀行券發行ナル經濟交通ヲ爲スノ機會ニ於テ之ニ課スルモノナルヲ以テ、是亦一種ノ交通稅ナリトス。

我發行稅

我邦ニテハ現ニ内地ニテ銀行券發行ノ特權ヲ有スルハ中央銀行ナル日本銀行ノミニシテ、外ニ朝鮮銀行及ビ臺灣銀行アリテ、各朝鮮若クハ臺灣ノ中央銀行トシテ發行權ヲ有スルモ、之ニ對スル本稅賦課法ハ大體日本銀行ニ類スルモノアルヲ以テ、茲ニハ單ニ日本銀行ニ於ケル銀行券發行稅ノ要領ヲ説明スルモノトス。

明治十七年布告第十八號ヲ以テ兌換銀行券條例制定セラレ、爾來部分的修正ヲ經テ今日ニ至リタルモノニシテ、發行稅問題ニ關スル要點ハ左ノ如シ。

第一、日本銀行ハ兌換銀行券發行高ト同額ナル金銀貨及ビ地金銀ヲ置キ引換ヘ準備ニ充ツルモノニシテ、同行ハ銀行券ノ發行貸付ケニヨリ利子ヲ取立テテ利益ヲ得ルモ、一面ニハ其レダケ正金ヲ死藏スルノ損失ヲ受クルヲ以テ、之ニ對シテハ本稅ヲ賦課セザルモノトス。

第二、同行ハ右ノ外一億二千萬圓ヲ限リ、國債證券、大藏證券ソノ他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシテ兌換券ヲ發行スルヲ得ルモノニシテ、是ハ一面ニハ保證準備ニ充テタル公債證書ソノ他ノ證券ヨリ利子ヲ生ジ、一面ニハ銀行券發行ノ利益ニ浴スルヲ以テ、每一ヶ月ノ平均發行高ニ對

シ、一ケ年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ本税ヲ納付セシムルモノニシテ、是レ則チ銀行券發行税ナリトス、但シ政府ノ特命ニヨリ、一ケ年千分ノ十若クハソノ以内ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府ソノ他ノ貸付ケニ對シテハ納税ノ義務ヲ負ハザルモノトス。

第三、右第二ノ外同行ハ市場ノ狀況ニヨリ通貨ノ増加ヲ必要トナストキハ、大藏大臣ノ許可ヲ得テ、更ニ國債證券、大藏證券、確實ナル證券、若クハ商業手形ヲ保證トシ、兌換銀行券ヲ發行スルヲ得ルモノニシテ之ヲ制限外發行ト謂フ、此ノ場合ニハ發行額ニ對シ一ケ年百分ノ五ヲ下ラザル割合ヲ以テ發行税ヲ納ムベク、ソノ割合ハ時々大藏大臣ノ定ムル所ニヨルモノニシテ、此ノ第三ノ制限外發行ハ獨逸ノ制度ニ倣ヒタルモノナリ。而テソノ何故ニ第三ハ第二ニ比シ高キ課税ヲナスヤヲ見ルニ、是ハ一ニハ銀行ガ私利私益ヲ圖リテ、全國ノ金融上左程ノ必要モナキニ銀行券ヲ増發スルノ弊ヲ防ギ、一面ニハ經濟市場ガ制限外發行ヲ要求スル如キ場合ニハ金利ハ大ニ騰貴シ、銀行券發行ヨリ生ズル發行銀行ノ利益ハ平時ニ比シ著シク多大ナルモノアルニヨリ、此ノ納税力ノ増加ニ應ジテ高歩ノ課税ヲ爲スモノニシテ、然ラズンバ徒ラニ發行銀行ヲ利益スルノ弊ニ陥ルモノトス、唯五分以上ノ發行税ヲ課スベク、ソノ割合ハ時々大藏大臣之ヲ定ムトノ規定アルニ拘ラズ、イツモ五分税ヲ課シアルハ不都合ナリト謂フベシ。大正十一年度兌換銀行券發行税收入豫算一三、七八

二圓ノ内、兌換銀行券發行税三〇、二九八圓、兌換銀行券制限外發行税八三、四八四圓ニシテ、之ヲ大正八年度現計八、二四三、五三〇圓、大正九年度實行豫算一、四三四、六一三圓、大正十年度豫算一、六二四、一一一圓ニ比スレバ餘リニ少額ナルモ、是ハ經濟界ノ不振ニ連レ兌換券ガ自然ニ收縮セラレタルノ結果ナリトス。

第五節 噸 税

噸税

噸税トハ外國貿易ヲ營ムノ船舶ガ開港ニ入港スルノ機會ニ於テ、ソノ船舶ノ噸數ニ應ジテ賦課スルノ交通税ニシテ、是ハ船舶ガ港灣ノ設備ヲ利用スルノ利益ニ對シ報酬主義ニヨリ賦課スルモノナルモ、一面ヨリ之ヲ見レバ、外國貿易ヲ營ムノ會社船舶ハ概シテ大規模ナル運送業ヲ爲シ、大ナル納税力ヲ有スルモノトシテ、納税力主義ニヨリ之ヲ賦課スルヲ得ベク、又本税ハソノ性質上大ニ關税ノ一種ナル國境通過税ニ類スルモノアリ。

我邦ノ噸税法ハ明治三十二年法律第八十八號ニテ制定セラレ、外國貿易ヲ營ムノ船舶ガ開港ニ入港スル都度、登簿噸數一噸又ハ積載量十石ニ付キ五錢ノ割合ヲ以テ納税セシム、但シ登簿噸數一噸又ハ十石ニ付キ十五錢ノ割合ヲ以テ一時ニ納税スルトキハ、滿一ケ年間ハ更ニ本税ヲ納ムルヲ要セ

ザルモノトス。

噸稅ハ外國貿易ヲ營ム爲メ外國ニ往來スルノ船舶ガ開場ニ入港スルニヨリ納稅ノ義務ヲ生ズル
ノナルヲ以テ沿岸貿易ヲ爲スノ船舶ニハ本稅ヲ課セズ。又海難ソノ他ノ事故ニヨリ不開港ニ入港
ル場合モ同様納稅ノ義務ナシ。我大正十一年度本稅收入豫算ハ八五二、〇七四圓ニシテ獨ノ漢堡一
ノ一九一一年ノ噸稅收入三、八〇三、四〇〇馬克ナルニ比スレバ著シク少額ナリトス。

消費稅ノ
意義

消費稅ハ
一般所得
ノ補足得
稅

第二十一章 消費稅總論

消費稅トハ人々ガ或ル貨物ヲ消費使用スルニヨリ、間接ニ之ガ納稅力ヲ測定シテ課稅スルモノニ
シテ、課稅ノ目的物ハ消費使用セラルル貨物、之ガ源泉ハ所得ナリトス。從ツテ本稅ハ消費使用ス
ル人々ノ所得ニ課スル間接所得稅ナリト謂フヲ得ヘシ。

消費稅ハ間接所得稅ノ性質ヲ有スルト同時ニ所得稅ノ補足的租稅ナリトス。所得稅ハソノ性質上
又ハ稅法ノ不備ナル爲メ、理論上須ラク賦課セラレザルベカラズシテ、事實上課稅ヲ免ルルノ所得尠
カラズ。且ツ小所得者ヨリハ多クノ不納者滯納者ヲ出ス爲メ、課稅ノ技術上ヨリ是等多クノ費用ト
手數トヲ要スル者ニハ始メヨリ課稅セザルノ方針ヲ執ル等、課稅上幾多ノ遺漏アルヲ免レズシテ、
消費稅ハ是等ノ缺漏ヲ補足スルノ任務ヲ有スルモノトス。唯ソノ均シク補足稅ナルモ補足的財產稅
ト異ルハ、同稅ハ單ニ資産所得ト勤勞所得トノ負擔ノ均衡ヲ保ツノ目的ヲ有スルヲ以テ、極メテ輕
微ナル課稅ニ限定スベクシテ、然ラズンバ補足的財產稅ノ性質ヲ失墜スルモノナルモ、本稅ハ以下
述ブル所ノ理由ニヨリ多大ノ收入ヲ擧ゲ得ルノ點ニアリトス。

消費稅ハ此ノ如ク人々ノ消費使用ニヨリ之ガ收入所得ヲ量定シ、ソレヨリ間接ニソノ納稅力ヲ見

社會的見地ヨリ直税ノ見分ヲ爲スハ時代ノ思想

消費税ノ賦課ニ關スル原則

テ課税スルモノナルヲ以テ、所謂間税ノ一種ニシテ且ツ之ガ主要ナル部分ヲ占ムルモノトス。學者中ニハ社會的見地ヨリシテ直税間税ノ區分ヲ爲サントシ、直税ハ多ク中産以上資産階級ノ負擔スルモノナルニ反シ、間税收入ノ大部分ヲ占ムルノ消費税ハ、下層階級ニ屬スル大多數者ノ小所得ヨリ絞り出サルルヲ以テ、成ルベク直税ヲ重課シ間税ヲ輕課スベシトナシ、列國ノ社會黨ノ如キハ主義トシテ勞働階級ノ一般ニ消費スル消費物ノ課税ニ反對スルモノナルモ、是ハ既ニ大ニ時代後レノ舊説トナリタルモノトス。前世紀ノ中葉以降七八十年代ニ至ルノ間ニハ、勞働階級ノ如キハ何時如何ナル時代ニ至ルモ浮ブ瀬モナク、絶ヘズ辛ウジテ生存ヲ維持スルニ過ギザル惑ムベキ境遇ニ在ルモノナリトノ學說行ハレ、彼ノ「マルクス」ノ如キハ此ノ種論者ノ巨魁ナルガ、是ハ彼等ノ大ナル誤想ニシテ、爾來幾十年ノ間ニ於テ勞働階級ノ境遇ハ著シク進歩改善セラレ、彼等ノ經濟狀態ハソノ次第二贏チ得タル政治上ノ權力ト相待ツテ、今ヤ優ニ或ル程度ノ納税力ヲ有スルニ至リタルモノトス。勿論彼等ノ境遇ハ尙大ニ改善ノ餘地アレド、納税力ヲ有セザル憐ムベキ貧困者ヲ以テ現在ノ彼等ヲ待ツ如キハ、寧ロ社會ノ救恤ニ依頼スル無告ノ窮民ト同一視スルモノニシテ彼等ヲ侮辱スルノ太甚シキモノトス。而テ消費税ノ賦課ニ對スル現在ノ學說ハ、人々ノ社會上ノ地位若クハ身分階級等ニヨルニ非ズシテ、消費物ノ種類ニヨリソノ賦課スベキモノト然ラザルモノト又ハ大ニ課税スベ

スル原則
消費物ノ區分

キト或ル程度ニ止ムベキモノトノ區分ニ重キヲ置クモノトス。

消費物ハ大體上之ヲ奢侈品、有用品及必需品ノ三種ニ區別ス、而テ此ノ三者ハ彼レ是レ流通的、移動的ニシテ、分割的、固定的ニ非ズシテ、文化ト經濟トノ進運ニ連レ、先キノ奢侈品モ今ヤ有要品若クハ必需品トナルモノ尠ラズ、例ヘバ我邦ニテ始メテ醬油ヲ發明シタル當時ニ在リテハ、鹽ノミ嘗メアリタル人々ハ、之ヲ以テ一種ノ奢侈品トナシタリシナランモ、ソレヨリ次第ニ嗜好品トシテノ有用品トナリ、我ガ國民現在ノ狀態ニテハ、寧ロ之ヲ必需品ト稱スルヲ適當ナリトス。又萬年筆ノ如キハ始メテ之ヲ輸入シタル當時ニハ一種ノ贅澤品視セラレシガ、今ヤ尠クモ學生事務員等ノ必需品トナリタリ。從ツテ或ル消費物ノ以上三種ノ何レニ屬スルヤハ、或ル時代或ル國民ニ付キ之ヲ決スベキモノナルモ、國民間ニ於ケル必需品ニハ消費税ヲ賦課セザルヲ原則トナスベク、我邦ニ付キ之ヲ言ヘバ、鹽、石油、木綿織物、醬油ノ如キハ必需品トシテ之ニ課税セザルヲ要シ、又我邦穀物ノ大宗ナル米ニハ、之ニ財政的輸入關稅ヲ課スルノ必要アルモ、爲メニ内地米ノ自然的相場ヲ騰貴セシメザルノ範圍内ニ於テ之ヲ爲スベキモノトス。然ルニ列國ノ稅制ヲ見ルニ、英國ヲ除クノ外ハ多クハ是等ノ必需品ニモ課税シアルハ、財政ノ必要上已ムヲ得ザルモノアルベキモ、一ニハ財政學理ガ未ダ列國ヲシテ是等ノ惡稅ヲ廢棄セシムルノ權威ヲ有セザルニ由ルモノトス。

必需品ニハ課税スヘカラス

奢侈品ハ
多クノ收
入ヲ擧ク
ルニ足ラ
ス

之ニ反シ奢侈品ニ對シテハ大々的ニ課税スベキモ、然シ是ハ課税ノ技術上ヨリスルモ列國ニ於ケル歴史經驗ノ示ス所ニヨルモ大ナル收入ヲ擧ゲ得ザルモノニシテ、是レ畢竟奢侈品ニハ脱税多キノミナラズ、之ガ評價等課税ノ技術上極メテ困難ナルモノアルニ由ルモノトス。我が富豪者間ニハ千ノ利久ガ愛玩シタリト稱セラルル、茶ヲ搔キ廻スノ竹筴一本何萬圓ナリトノ呼聲アリトノ事ナルガ、ソノ果シテ千ノ利久ノ愛玩シタルモノナリヤ否ヤ等ヲ見テ之ガ評價ヲ爲スハ大ニ困難ナルモノアルベシ。又地方素封家ノ所有スル金屏風ノ如キ、多クハ似テ非ナルモノナリトノコトナルガ、實際是等ノ舊家ニシテ家政改革等ノ爲メ祖先傳來ノ珍藏品ヲ賣リ出ストキハ、殆ンド豫定ノ十分一ノ賣上金ヲモ得ル能ハザルヲ常トシ、折角秘藏品ト稱セラルルモノモ二束三文ニ價セザルモノモ尠カラズシテ、是等ニ對シ收税吏ハ如何ナル評價ヲ爲シ得ベキヤ、所有者ガ評價ニ甘ンゼズシテ之ヲ投ゲ出ストキハ國家ハ如何ニ之ヲ處分スベキヤ、之ヲ高價ニテ國家ヨリ買ヒ受クレバ直チニ之ニ重税ヲ課セラルルヲ以テ國家トシテ斯ル貨物ノ需要者ヲ見出スノ大ニ困難ナルベキヲ想像スルヲ得ルモノトス。

奢侈品ニ對スル課税ハ、素人政論家又ハ富豪征伐論者ノ殊ニ之ヲ主張シ歡迎スルモノナレド、前述ノ理由ニヨリ、ソノ收入ハ概シテ微々タルモノトス。

消費税ヨ
リ大收入
ヲ生スル
ハ有用品
ノミ

既ニ理論上必需品ニハ課税スベカラズ、又奢侈税ハ一般世人ノ期待ヲ裏切ルモノトスレバ、消費税トシテ大收入ヲ擧ゲ得ルハ有用品ニ課税スルノ一事ナリトス。而テ有用品ニハ二種アリテ、一ハ廣ク國民間ニ嗜好セラルルト同時ニ多クノ營養分ニ富ミ、個人ノ衛生上ニ多大ノ效果ヲ及ボスモノニシテ砂糖ハ之ガ適例ナリトス。第二種ハ之ニ反シ酒、煙草ノ如ク、有害ナル成分ヲ含有スルノ嗜好品ナリトス。此ノ内第一種ハ成ルベク廣ク國民ノ需要消費ヲ増スノ要アルヲ以テ、之ガ課税ハ成ルベク輕微ナルヲ旨トスベキモ、列國ハ財政主義ヨリシテ必シモ然ルヲ得ザルモノアリ。之ニ反シ煙草、酒類ノ如キハ、課税ノ爲メ消費減ヲ來サザル範圍内ニ於テ成ルベク大收入ヲ上グルノ目的ヲ以テ課税スベキモノトス。或ハ是等ノ有害の嗜好品ニ對シ大ニ重税ヲ課シ之ガ消費ノ減退ヲ促シ、ヨツテ以テ衛生風紀上ノ目的ニ資セントスル者ナキニ非ザレド、是ハ租税ノ本質ヲ解セザルノ謬見ナリトス。租税ハ主トシテ財政的見地ヨリ國家生存ニ必要ナル收入ヲ得ルノ目的ヲ有スルモノニシテ、大藏大臣ハ衛生局長、警視總監ノ代理ニ非ズ。唯國庫收入ノ目的ヲ達スルト同時ニ如上ノ希望ヲモ合セ達スルヲ得バ極メテ好都合ナルモ、是ハ殆ンド不可能ニテ、重税ノ爲メ有害の嗜好品ニ對スル消費ノ減退ヲ來ストキハ、之ガ當然ノ結果ハ租税收入ノ減少トナリ、之ガ本來ノ目的ヲ達スルヲ得ザルニ至ルベシ。

消費税ハ前述ノ如ク、人々ガ貨物ヲ消費使用スルニ對シ之ニ課スルモノナルモ、ソノ消費使用ノ都度一々之ニ課スルハ課税ノ技術上不可能ナルノミナラズ、大ニ國民ノ經濟交通ヲ妨グ、租税ニ對スル人々ノ反感ヲ招致スル等、極メテ不都合ナル惡税トナルベキヲ以テ、本税ハ概シテ便宜上消費物ノ原料ヲ生産シ、又ハ消費物ヲ製造シ、販賣シ、運搬スル人々ヲシテ之ヲ納税セシメ、一面ニハ之ニ相當スル金額ヲ物品代價中ニ附加計算シテ、之ヲ消費者ヨリ物品代金ノ一部トシテ取立テシムルモノニシテ、即チ生産製造、販賣、運搬者ハ納税者ニシテ、消費者ハ通例負税者ナリトス。

此ノ如ク本税ハ便宜上生産、製造、販賣、運送業者ヲ以テ納税者トナスヲ以テ、之ガ課税法モ亦此ノ納税者ノ種類ニヨリ生産税及ビ製品税ニ大別セラル、此ノ外尙一種變體ナル課税法即チ財政的獨占制度ナルモノアリテ我邦ノ專賣法ハ之ガ一種ナリトス。先ヅ普通ノ課税法ヨリ之ヲ述ブレバ、

生産税ハ普通之ヲ原料税ト稱スルモ原料税ニテハ意味狹隘ニ失ス、而テ本税ハ或ル貨物ノ生産手續中ニシテ未ダ製品トナルニ至ラザルノ間ニ於テ、種々ナル方法ニテ課税スルモノニシテ、即チ或ハ原料税トシテ、消費物ヲ製造スルノ原料、例ヘバ砂糖ノ原料ナル甜菜、若クハ煙草ノ原料ナル葉煙草ソノ物等ニ課税スルモノアリ、或ハ面積税トテ、例ヘバ煙草耕作地ノ面積ニヨリソノ肥瘦ノ程度ニ應ジ課税スルノ法アリ。或ハ半作品例ヘバ麥酒ノ諸味ニ課スル半作品税アリ、或ハアル消費物ノ

製造ニ要スル容器ノ容量ニヨリ賦課スルノ容器税等アリテ、本税ハ或ハ課税ノ方法簡單ニシテ、多クノ手数ヲ要セズ、又ハ煙草ノ面積税ノ如キハ土地ノ肥瘦ニヨリ、同一面積ニテモ夫々税額ヲ異ニシテ、各土地ニ適應スルノ課税ヲ爲シ得ル等ノ長所アリ。又獨逸ガ曾テ砂糖原料税トシテ甜菜ニ課税シ、ヨツテ以テ大ニ甜菜ノ耕作法及ビ砂糖ノ製造法ヲ進歩改良セシメタルノ實例等アレド、概シテ粗雜ナル課税法ナルヲ免レズシテ、之ガ主ナル短所ハ、第一、課税ノ期日早キニ失スル爲メ、納税者ハ製造販賣ニ至ル迄ノ長キ期間ニ於テ、先キニ納税シタル金額ニ對スル利子ヲ貨物ノ代價中ニ附加計算スルヲ要シ、ソレ丈ケ物價ハ昇騰シ、消費者ノ負擔ハソレ丈ケ増加スルモノトス。第二、此ノ課税法ハ實際出來上ルベキ製品ノ品質數量ヲ豫想シ得ルニ過ギズシテ、此ノ豫想ハ事實ニ適中セザルモノ多ク、從ツテ同一分量ノ原料、同一容積ノ容器ヲ以テスルモ、甲ハ乙ニ比シテヨリ多クヲ製出シ、若クハヨリ優良ナル品種ヲ製出スル等ニヨリ、各人間負擔ノ不均衡ヲ生ズルモノトス。第三ハ第二ニテ述ベタル如ク、本課税法ニテハ的確ニ製造高及ビ製品ノ性質ヲ量定スルヲ得ザルヲ以テ、製品ニ對シ輸出ノ際ニ於ケル戻税ヲ支拂フニ困難ニシテ、爲メニ或ハ餘計ナル支拂ヒヲ爲シテ徒ラニ國庫ヲ損セシメ、或ハ之ニ反スル場合ニハ輸出業者ヲ不利ノ地位ニ陥ラシメ、延イテ外國トノ競争ヲ妨グルニ至ルモノトス。元來消費税ハ國內ノ消費ニ對シテ賦課スルモノナルヲ以テ、一旦

製品税

課税セラレタル消費物ヲ國外ニ輸出スルトキハ課税シタル丈ケノ金額ヲ輸出業者ニ拂ヒ返スベキモノニシテ是レ則チ戻税ナリトス。然ルニ生産税ノ賦課法ニテハ、此ノ場合如何ニ多クノ戻税ヲ支拂フベキヤヲ知ルニ困難ナルヲ以テ、右ノ如キ不都合ヲ生ズルモノトス。

製品税ハ既ニ出來上リタル消費物ニ賦課スルモノニシテ、今ヤ列國ノ多クハ主トシテ本税ヲ採用シアリテ、殊ニ我邦及ビ北米合衆國ノ如キハ總ベテノ消費税ニ對シ、此ノ課税法ヲ適用シアルモノトス。本税ハ或ハ製造ヲ終リテソノ製品ヲ工場ヨリ倉庫ニ移スノ時等ニ於テ賦課スルモノニシテ、此場合製造業者ハ即チ納税者ナリトス。或ハ卸賣商若クハ運送業者ガ、倉庫ヨリ製品ヲ出ス時ニ課税スル交通的製品税アリテ、此ノ場合ニ於ケル納税者ハ卸賣商若クハ運送業者ナリトス、而テ此ノ課税法ハ監督上多大ノ費用ト手數ヲ要スルノ缺點ヲ有スルモノニシテ、多數ノ倉庫ガ各處ニ散在スル場合ニ於テ殊ニ然リトス。以上ノ外小賣商ニ課税スル小賣税アリテ、是ハ徵收上煩雜ナル手數ヲ要シ、又日常ノ營業ノ妨ゲヲ爲ス等、概シテ惡税ナルヲ免レザルモノトス。

小賣税

受負課税法

又例外トシテ受負課税法ナルモノアリテ、是ハ例ヘバ農家ガ火酒製造ヲ副業トシ、小規模ナル産業ヲ爲スノ場合等ニ於テ、一タソノ製品高等ヲ調査スルノ煩ヲ避クル爲メ、多年ノ經驗上ヨリスル收税吏ノ見込ミニヨリ、是等ノ農家等ヲシテ年額若干ノ納税ヲ受負ハシムルモノニシテ、多クハ納税

國民經濟ノ程度ニヨリ課税ニ異ニス

者ニ都合好キ輕税ナルヲ常トス。又特別營業税ノ部ニテ述ベタル營業免許税ハ、一面ニハ本税ノ補足税ニシテ、本税ニヨリ尙課税シ足ラザルモノヲ、營業免許税ニヨリ補足シ完成スルモノトス。以上ハ生産税ト製品税及ソノ他ニ關スル大要ニシテ、國民經濟尙未ダ幼稚ニシテ農工商業ノ多クハ小規模ニシテ、且ツ小工業者中ニハ自家消費ノ目的ヲ以テ製造スル者多キ等ノ國柄ニ於テハ、生産税ヲ採ルヲ要スルノ場合多キモノトス、例ヘバ國民ノ多クガ刻々煙草ヲ消費シ、之ガ製造ハ全國ニ亘リテ極メテ多數ノ手ニ成リ、ソノ多クハ小規模ナル販賣ト同時ニ自家ノ消費ヲ目的トナス如キ状態ニ在ツテハ、未ダ製品税ヲ課スルノ程度ニ達セズシテ、寧ロ單純ナル面積税ヲ課スルヲ適當ト爲スコトアリテ、概シテ生産税ハ國民經濟ノ尙未ダ開發セザルノ時代ニ行ハルルモノトス。製品税ハ之ニ反シ現時ノ文明國ニ於ケル課税法ナリト謂フヲ得ベク、學理上消費税ハ成ル可クソノ貨物ガ事實消費セラルルノ時期ニ接近シテ之ヲ賦課スルヲ以テ最ニ適當ト爲スモノトス、然シ製品ガ市場ニ出ヅルトキ、即チ卸賣商、運搬業者ニ賦課スル方法ノ如キ、又小賣税ノ如キハ徵收ノ技術上大ナル缺點ヲ有スルヲ以テ、製品税トシテハ主トシテ出來上リタル製品ニ對シテ、製造業者ニ課税スルノ方法ヲ採ルベキモノトス。

奢侈品ニ

以上生産税及ビ製品税等ノ外、普通ノ課税法トシテ、消費ノ種類ニヨリテハ、直接ニ消費者ヲ以

テ納稅者トシテ之ニ賦課スルモノアリテ、是ハ奢侈品ノ或ル種類、例ヘバ自働車、馬車、乘馬、一ターボート(何レモ自用ノ分)、男女ノ召使等ニ對スルモノニシテ、此ノ課稅法ニヨルトキハ、納稅者モ負稅者モ自家用トシテ自働車等ヲ所有シ使用スルノ人々ニシテ、此ノ如ク負稅者ガ直接ニ納稅者ナルノ點ヨリシテ、或ル學者ハ生産稅ト製品稅等ヲ間接消費稅トシ、之ニ對シ此ノ種ノ奢侈品ヲ以テ直接消費稅トナスモノアレド、消費稅トハ人々ノ收入所得財產ニヨルニ非ズシテ、ソノ貨物ノ消費使用ニヨリ間接ニ之ガ納稅力ヲ測定スルモノナリトノ定義ヨリスレバ、均シク消費物ニ課スルノ租稅ニ對シ斯ル不自然ナル區分ヲ爲スノ要アルヲ見ズ。

以上述べ來リタル消費稅トシテノ普通ノ課稅法以外、尙一種特別ナル財政的獨占制度ハ列國ノ間ニ行ハレアリテ、此ノ課稅法ハ或ル課稅セラルベキ貨物ノ製造若クハ販賣權ヲ國家ノ手ニ收メ、一切個人ガ此ノ事業ニ從事スルヲ禁ジ、此ノ手段ニヨリ以テ出來得ル丈ケ多クノ收入ヲ擧ゲ、且ツ一面ニハ之ニヨリ普通ノ課稅法ノ缺點ヲ、尠クトモ或ル程度迄ハ除キ去ラントスルモノナルガ、此ノ問題ハ專賣的消費稅ノ部ニ於テ論究スルヲ便宜トナスヲ以テ、茲ニハ以上ノ一言一止メ置クモノトス。

次ギニ消費稅ノ長短ヲ略說スレバ、ソノ長所ノ第一ハ、納稅者ハ概シテ大商工業者等國內少數ノ

人々ニ限ラレ、課稅ノ爲メニ一般國民ヲ煩累セザルノ點ニシテ、第二ハ本稅ノ負擔ハ分割的ニシテ負稅者ノ多クハ、ソノ時々ノ需要額ダケヲ購入スル等、自家ノ都合次第本稅ヲ負擔シ得ルノ點ナリトス。第三ハ本稅ヲ負擔スルト否トハ或ル程度迄ハ、各自ノ自由意思ニヨリ決定シ得ルモノニシテ、増稅ノ場合若クハ家政上ノ都合等ニヨリテハ、一時的若クハ永久的ニ或ル貨物ノ消費ヲ廢止シ、又ハ之ヲ制限シ、以テ負擔ノ全部若クハ一部ヲ排却シ得ルモノトス。第四ハ人々ハ不知不識ノ間ニ納稅スルノ利益ヲ有スルニアリ。元來租稅賦課ノ一要義ハ、人々ガ之ニ對シ嫌厭ノ念ヲ生ジ反感ヲ起サザルニアリテ、或ル租稅ガ國民間ニ於テ惡稅ト稱セラルルハ必シモソノ稅率稅額ノ高キガ故ニ非ズシテ、多クハソノ課稅法徵收手續ノ苛細ナル等ニ由ルモノナルモ、多クノ消費稅ハ此ノ缺點ヲ有セザルモノトス、勿論不知不識ノ間ニ納稅スルトノ事ハ、國民ヲ誤魔化シ隱約ノ間ニ納稅セシムルノ意味ニ非ズ、第五ハ國民富力ノ増進ニツレ稅率稅額ヲ高メズシテ自然ニ收入ヲ増加スルノ點ナリトス。國家モ個人同様ソノ發展スルニツレ、自ラ歳出ノ増加ヲ來スモノニシ、從ツテ一面ニハ之ト同時ニ自ラ歳入ヲ増加スル稅種ノ選擇ヲ要スルモノニシテ本稅ハ此ノ長所ヲ有ス。

以上ノ長所ニ對スル楯ノ半面ハ、第一ハ脫稅多キノ點ナリトス。大商工業者ハ脫稅ノ手段ヲ廻ラヌニ於テ殊ニ巧妙ナルモノアリテ、收稅吏ノ隙ニ付ケ込ム等、苟モ乘ズベキノ機會アレバ大規模ナ

ル脱税ヲ圖ルヲ以テ、之ニ對應スル爲メ絶ヘズ嚴重ナル監督監視ヲ爲シ、多クノ手數ト費用トヲ以テスルノミナラズ、納税者ト收税吏トノ間ニ種々ナル紛争ヲ生ズルモノトス。第二ハ收入ノ不確實ナル點ニ在リテ、長所第五點ニ於テ、本稅ガ國連ノ進展ニツレ自然增收ヲ生ズルノ利益ヲ述ベタリシガ、之ガ反面トシテハ、世間ノ景況ニツレ忽チニ收入ノ増減ヲ來シ、豫算ノ基礎ヲ動搖セシメ之ガ編成ヲ困難ナラシメ、殊ニ國歩艱難ニシテ國家ガ大經費ヲ要スルノ際ニ於テハ本稅收入ノ減退ハルヲ常トス、第三ハ本稅ノ爲メ國民ハ有用品ノ消費ヲ制限スベク余儀ナクセラルルノ點ニシテ、前ニ述ベタル如ク本稅ハ專ラ有用品ニ對シ賦課セラルルヲ以テ、營養物ニ富ムノ生活品ノ如キハ、殊ニ國民ヲシテ充分ニ之ヲ消費セシムベキニ拘ラズ、本稅ニシテ重ケレバ重キ丈ケ國民ノ消費ハ爲メニ減退スルモノトス。

本稅ノ賦課法トシテ尙一ノ重要ナル點ハ從價稅ト從量稅トノ區別ナリ。從價稅ハ貨物ノ品質價格ニヨリ課スルノ價格稅ニシテ、從量稅ハ貨物ノ分量、數量、容量等價格以外ノ基準ニヨリ課稅スルモノトス、例ヘバ馬匹一頭、石炭一噸、羅紗地「ヤード」ニ付キ若干圓ヲ課スル如キハ從量稅ニシテ、何レモノノ品質價格ノ如何ヲ顧ミザルヲ以テ、此ノ點ヨリスレバ如何ニモ粗雜ナル課稅法ノ如キモ、然シ簡單敏速ニ課稅シ得テ、ソノ間何等ノ苦情問題ヲ生ゼザルノ點ハソノ一大長所ニシテ、

租稅ノ賦課ハ簡捷ナルヲ要ストノ主義原則ニ適應スルモノトス。之ニ反シ從價稅ハ貨物ノ品質ニ依リソノ價格ニ相應スルノ課稅ヲ爲スモノニシテ、例ヘバ、我邦ノ織物消費稅ニテハ、各織物ニ對シソノ價格ノ十分ノ一ヲ課スルノ制ニシテ、即チ一反十圓ノ反物ハ一圓ヲ、百圓ノ反物ハ十圓ヲ賦課セラルベク、單純ナル理論ヨリスレバ此ノ課稅法ハ無論正理公平ニシテ、學者中ニハ貨物ノ價格ニ應ジテ課稅シ得ルノ點ヲ、消費稅ノ長所ノ一二數ヘ舉グル者モアレド、然シ或ル貨物ノ幾多異リル品種ニ對シ、彼レ是レ相比較シテソノ價格ヲ量定スルハ決シテ容易ノ業ニ非ズシテ、價格稅ヲ課スルノ前提トシテハ、納税者ガ誠實坦懷ナルヲ要スト同時ニ、收税吏ハ多大ナル専門的智識ヲ有スル上ニ、極メテ公平誠實ナルヲ前提トナスモ、納税者ハ多クハ錙銖ノ利ヲ争フ商工業者ニシテ、又下級官吏タル收税吏等ニ對スル期待ノ實現ハ容易ナラザルモノアリ。而テ假リニ彼等ニシテ、此ノ資格ヲ具備スルモ、又納税者ニシテ誠意ヲ以テ之ニ望ムモ、價格量定ノ一事ハ極メテ困難ニシテ、殊ニ我邦ノ織物ノ如キハ此ノ點ニ於テ絶ヘズ收税吏ト納税者トノ間ニ種々ナル論争ヲ醸シ徵稅上多クノ手數ト費用トヲ免レザルモノニシテ、我ガ織物消費稅ガ惡稅ナリトノ稱アリタル如キハ畢竟ノ從價稅ナルニ由ルモノトス。要スルニ價格稅ハ恰モ所得稅ノ如ク、一面ヨリ之ヲ見レバ如何ニも理想的ナルニ反シ、從量稅ハ收入稅ニ類シ、學理上粗野不公平ナルヲ免レザルモ、徵稅上ハ却テ

ナル長所ヲ有スルモノニシテ、列國ニ於ケル消費稅、殊ニ關稅賦課法ノ次第ニ從量主義ニ傾キ來リタルハ決シテ偶然ナラザルモノアリ。然シ我が織物ノ如ク、同ジク一反ノ絹織物ニシテソノ價格ノ非常ニ懸隔アルモノニ對シテモ尙從量稅ヲ課スルハ、餘リニ負擔ノ均衡問題ヲ無視スルモノニシテ、是レ列國ニ於テ今尙或ル消費物ニ對シテハ從價稅ヲ課シアル所以ナリトス。

第二十二章 消費稅各論

消費稅ニ關スル理論ハ前章ニ於テ略之ヲ盡シ、其ノ以外ハ多クハ列國ノ稅制及課稅技術上ノ問題ニシテ、本書ハ之ヲ詳說スルノ余地ヲ有セザルヲ以テ、以下我邦ニ於ケル各種ノ消費稅ヲ研究ノ中心點トシテ之ガ概要ヲ述ブルモノトス。

第一節 飲料稅

茲ニ飲料ト謂フハ火酒、清酒、果酒、葡萄酒、麥酒等、酒精ヲ含有スルノ飲料ヲ指稱スルモノニシテ、之ニ對シ何等酒精分ヲ含有セザルモノヲ清涼飲料ト稱ス。

飲料ハ煙草ト共ニ最モ適當ナル課稅ノ目的物ニシテ、之ガ消費ハ一般的ニシテ、而モソノ一般消費スルハ多クハ納稅力ヲ有シ又之ヲ有スルノ能力ヲ具フル成年以上ノ男子ニシテ、婦人小兒ハ概シテ之ヲ飲用セザルモノトス。又飲料ハ一面ニハ自由ナル嗜好品ニシテ、ソノ嗜好ハ必シモ攝シ得ザルニ非ズシテ、各人ハ自己ノ經濟狀態ノ如何ニヨリ、之ガ消費量ヲ伸縮スルヲ得ベク、飲料稅ハ是等ノ點ヨリシテ、飲料ガ有害ナル點ヲ除クモ、尙且ツ大ニ歡迎スベキノ消費稅ナリトス。

飲料ト最モ適當ナル消費ノ目的物

飲料稅

收入豫算ハ左ノ如シ。

酒 税 一八八、八三八、八七三圓

内

酒 造 税 一七四、四四五、六七七圓

麥 酒 税 一一、六六九、九五二圓

酒精及酒精含有飲料税 二、七二三、五三四圓

ニシテ酒造税中、清酒一五四、八二九、六七五圓、濁酒五七九、八二〇圓、白酒三四二、三四二圓、啤
淋三、〇〇六、三一七圓、焼酎一五、七八七、五三三圓ナリ。又酒税總額大正元年度決算ハ九三、八
六一、七五七圓、同六年度決算ハ一〇六、七三八、四九六圓ナリトス。

酒造税ハ明治維新前ヨリ種々ノ方法ニ於テ課税セラレ、鎌倉幕府以前ニ於テ、既ニ一種ノ形式ノ
下ニ徴收セラレタルノ跡ヲ示シアリ、明治八年以降ハ酒價ノ十分ノ一ヲ課スルノ從價税主義ヲ取リ
シモ、各種ノ清酒ニ對スル價格ノ評定困難ニシテ、實施上種々ノ不都合ヲ生ジ、明治十一年ヨリハ
斷然從價税ヲ廢シ、造石高ニヨリ課税シ品質ノ如何ヲ問ハザルノ從量税主義ニ改メシガ、ソノ

酒造税ハ從價税トシテ從量税トナス

由トスル所ハ左ノ如シ。

「先キニ酒類税發布以來實地ニ付キヨク利害得失ノアル所ヲ考察スルニ、酒價ノ平均ヲ以テ收税
額ヲ定ムルノ法タルヤ、管内ヲ數部ニ分チ各々之ニ組合ヲ設ケ、ソノ組合中ノ各醸造者中ヨリ毎
月申告スル所ノ價格ヲ平均シ、之ヲ以テ納税額ヲ定ムルニヨリ、甲乙醸造人ノ間ニ値段ニ高低ア
ルハ必然ニシテ、豫メ税額ヲ知ル能ハズ。且税額確定ノ日ハ既ニ造酒賣却ノ後ナルヲ以テ、酒類
賣却ノ際一朝ソノ目的ヲ誤ルトキハ、税額確定ノ日ニ至リ、甲ハ不測ノ利益ヲ僥倖シ、乙ハ不慮
ノ損失ヲ被リ、遂ニ脱税ノ念ヲ起シ、種々ノ奸計ヲ爲ス者アリ、依ツテ之ヲ改正シ石毎ニ若干ノ
定額ヲ課セバ官ハ之ヲ收ムルニ易ク、醸造者ハ豫メ税額ヲ知り得テ、始メテソノ弊害ヲ見ザルニ
至ラン。」

此ノ理由ニヨリ從來ノ從價税ヲ廢シ、造石税ナル從量税ノ採用ヲ斷行シタルモノニシテ、是ハ我
ガ酒造税徴收上ニ於ケル一大進歩ナリト謂フベシ。一見スレバ上等酒下等酒ノ如何ヲ問ハズ品質ノ
如何ヲ顧ミズシテ同一ノ税額税率ヲ課スルハ、公正ノ點ニ於テ缺クル所アル如キモ、實際上從量税
ハ徴收ノ手續簡易ニシテ、官民共非常ナル利益ヲ得收入モ亦増加シタリ。而テ之ガ税額ハ明治十
一年以來釀造高一石ニ付キ清酒ニハ一圓、濁酒ニハ三十錢、酒精ハ一圓五十錢ソノ他ノ酒類ニハ二圓

清酒造石
税ハ一石
三圓ヨリ
三十三圓
ニ増稅セ
ラル

若クハ三圓ヲ課セシガ、爾來次第ニ之ヲ高メ、清酒ニ付キ之ヲ言ヘバ、明治十三年ニハ之ヲ二圓トナシ、ソレヨリ十五年ニハ四圓、二十九年ニハ七圓、三十一年ニハ十三圓、三十四年ニハ十五圓、三十七八年ノ非常特別稅ニテハ十七圓、四十一年ニハ二十圓、大正七年ニハ二十三圓トナシ、同九年ニハ一躍シテ之ヲ三十三圓ニ高メ、他ノ酒類モ亦之ニ準ジテ増稅セラレタリ。

麥酒稅ハ我邦ニテハ三十四年以降始メテ之ヲ實施シ當時ハ一石十圓ナリシガ、數次増稅ノ結果今ヤ十八圓トナリタリ。以上ノ外我邦ニテハ尙未ダ葡萄酒及果酒ニ課稅スルノ程度ニ達セザルモノトス。

本稅ハ製品稅ニシテ酒類ガ出來上リタル時ニ釀造者ニ課スルモノトス。又明治二十一年ヨリ外國ヘノ輸出酒ニ對シテハ戻稅ヲ支拂フコトトナリタリ。

此ノ機會ニ於テ清涼飲料稅ニ付キ一言スレバ、是ハ左シタル營養物又ハ有害品ニ非ズシテ、主トシテ婦女幼年者ノ嗜好スル所ニ係リ、且衛生風紀上ノ見地ヨリスルモ、多少ナリト酒類ヲ飲用スルノ習癖ヲ此ノ方面ニ振り向クルヲ可トスルモノニシテ、是等ノ點ヨリシテ列國ニテハ伊國等ヲ除キテハ之ニ課稅セザリシガ、然シ財政主義ヨリスレバ清涼飲料ガ一般ニ飲用セラルル爲メ、酒類ニ對スル消費ノ大減退ヲ來タスノ傾向アルトキハ、租稅收入ノ減退ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ之ガ課稅ヲ

清涼飲料
稅

必要トナスノ場合無キニ非ズ。而テ戰後ノ財政難ニ苦シムノ歐洲列國ハ今ヤ相率ヒテ本稅ヲ賦課シアリ。

第二節 烟草稅

烟草稅

我邦ニテハ本稅ハ現ニ專賣ノ方式ニヨリ賦課セラレアルヲ以テ、鹽稅ト共ニ之ガ研究ヲ專賣的消費稅ノ部ニ據リ、茲ニハ本稅ニ關スル一般の觀察ヲ爲スニ止マルモノトス。

烟草ハ一種ノ嗜好品ニシテ人生ノ必需品ニ非ザルヲ以テ、之ガ課稅ノ源泉ハ飲料稅ト同ジク人々ノ自由所得ナリトス。然ルニ烟草ノ嗜好ハ國民一般ニ互リ、且ツ一旦喫烟ノ習慣ヲ生ズルトキハ容易ニ之ヲ節制シ得ザルヲ以テ、本稅ハ人口ト國民富力ノ増進トニツレ益々之ガ收入ヲ増加スルノ長所ヲ有スルモノトス。又烟草ノ消費ハ一般的ナリト謂フモ、概シテ多クハ成年以上ノ男子ニ限ラルルヲ以テ、負稅者ノ多クハ納稅力ヲ有シ、若クハ納稅力ヲ有シ得ルノ人々ニシテ、以上ハ何レモ飲料稅ト共通ノ性質ヲ有シアリテ、是等ノ點ハ人頭稅の性質ヲ有シ「隱レタル人頭稅」ノ一種トモ謂フベキ醬油稅、砂糖稅等トハ大ニソノ選ヲ異ニス。サレバ種々雜多ナル稅種稅目ヲ設ケ下層社會ニ至ル迄各種ノ租稅ヲ負擔セシムルヲ辭セザル列國ノ稅制トシテハ、生活上ノ必需品ニ非ズシテ寧ロ一

種ノ有害品ニシテ、且ツ比較的納稅力ヲ有スル者ニ賦課セラレ、之ガ收入ハ多大ニシテ而モ年々増加スル本稅ノ如キハ、消費稅中飲料稅ト相並ンデ最モ推獎スルニ値スルモノナリト謂フベシ。
本稅ノ賦課法トシテハ、專賣制度ヲ有セザルノ國ニ在ツテハ、多クハ製品稅ヲ採用シアリ、即チ製造セラレタル烟草ニ付キ、葉卷、紙卷、刻ミ等ニ分類シ、之ガ課稅法ヲ記帳稅、封帶稅及ビ封印稅ニ區分スルモノトス。記帳稅トハ製造者ヲシテ製造高ヲ帳簿ニ記入セシメ、之ニ基キタル申告ニヨリ課稅スルモノ。封帶稅ハ賣リ出スベク定メラレタル製造烟草ヲバ、一々包裝シテ之ニ印紙ヲ貼リタル封帶ヲ施シ、此ノ封帶ヲ破棄スルニ非ズンバ烟草ヲ取り出シテ消費スルヲ得ザルモノニシテ、此ノ封帶ハ政府ヨリ賣却シ、之ニ貼用シタル印紙ハ即チ烟草稅ナリトス。我邦專賣制度實施前ハ此ノ課稅法ナリシガ、封帶ヲ施サズシテ之ヲ密賣スル等、脫稅ハ頻々トシテソノ間ニ行ハレタリ。又封印稅ハ封帶稅ニ似テ稍簡單ナルモノニシテ、賣リ出スベク定メラレタル各包ミニ對シ印紙ヲ以テ封印スルモノトス。

以上ハ何レモ脫稅ニ對スル監督充分ナルヲ得ザルノ缺點アレド、記帳稅ト封帶稅トヲ結合スルトキハ、課稅スベキ烟草ノ數量ニ對シテハ稍完全ナル監督ヲ爲シ得ベキモ、是等ノ課稅法ニヨリ品質ニ應ジテ夫々適當ナル課稅ヲナサントセバ、之ガ耕作ノ始メヨリ消費ニ至ル迄、絶ヘズ煩雜ナル監督

督法ヲ設ケ以テ民衆ヲ煩ハスノ弊ニ陥ルモノニシテ、小耕作者ノ多キ國柄ニ於テ殊ニ然リトス。從ツテ以上ノ課稅法ニヨリ或ル程度迄品質ヲ顧慮スルハ殆ンド不可能ナリトス。列國中製品稅トシテノ是等ノ缺點ニ鑑ミ原料稅ヲ採用スルモノナキニ非ズシテ、原料稅ハ大體上面積稅、植付ケ稅及ビ重量稅ノ三者ヨリ成ル。

面積稅トハ烟草ヲ植エ付ケタル土地ノ面積ヲ標準トシテ課稅スルモノニシテ、此ノ方法ニヨレバ烟草製造者ハ課稅上何等ノ煩累ヲ受ケザルノミナラズ、烟草耕作地ニ等級ヲ付シ以テ或ル程度迄ハ品質ニ相當スルノ課稅ヲナシ得ベキモ、元來烟草ノ收穫ハ同一土地ニテモ、年ニヨリ大ニ之ガ分量ヲ異ニスルモノアリ、且ツ地方ノ異ルニヨリ、同等級ノ土地ニテモ大ニ收穫シ得ル分量品質ニ差違アルヲ以テ、本稅ニヨリ品質ニ適應スルノ課稅ヲ爲サントスレバ、或ル地方ニ對シ過重ナル負擔ヲ避クル爲メ、成ル可ク稅率ヲ低下ナラシムルノ要アリテ、爲メニ大ニ收入ニ影響スルニ至ルベク、又本稅ハ烟草ノ耕作人ヲ納稅者ト爲スヲ以テ、之ガ納稅ノ時期ト、之ヲ製品トシテ販賣シ以テ先キニ納稅シタルモノヲ消費者ニ轉嫁スル時期トノ距離餘リニ遠ク、爲メニ烟草ノ販賣代價ヲ高ムル等種々不都合ナル問題ヲ生ズルニ至ルベク、斯クテ本稅ノ長所ナリト稱セラルル課稅ノ方法簡單ニシテ徵收費ヲ要スルコト尠キノ點ハ、以上ノ缺點ヲ償フニ足ラザルモノトス。

次ギニ植付ケ税ハ或ル面積内ニ植付ケタル煙草ノ本數ニ應ジテ課税スルモノニシテ、之ガ當然ノ歸結トシテ或ル面積内ハ一定ノ種類ニヨリ且ツ各列ノ本數ヲ等フシ、一本一本ノ間隔ヲ同フシ、之ガ取扱法ヲ嚴重ニスル等複雑ナル手數監督ヲ要スルノミナラズ、煙草收入ノ多少ハ本數ノ多少ノミニ由ラズシテ、寧ロ葉ノ數及ビ之ガ大小ニヨルモノナルニ、本税ハ單ニ本數ノミヲ課税ノ標準トナスノ缺點アルノ外、面積税同様原料税ニ伴フノ缺點ヲ併有スルモノトス。

最後ニ從量税ハ收穫シタル葉ノ分量ヲ醱酵ノ前若クハ後ニ於テ調査シ、此ノ分量ニ對シ課税スルモノニシテ、是亦課税法ノ粗笨ナル、面積税及ビ植付ケ税ト伯仲ノ間ニアリト謂フベク、此ノ方法ニヨルトキハ、年々收穫シタル分量ヲ知ルヲ得レド、何等品質ニ應ジテ課税スルヲ得ザルノミナラズ、他ノ原料税同様、製造煙草ノ輸出ニ對シ精密ナル計算ノ下ニ戻税ヲ交付スルヲ得ザルノ缺點ヲ有ス。

要スルニ以上述べ來リタル各種ノ製品税モ原料税モ多クノ缺點ヲ有セザルナク、殊ニソノ重大ナルハ、煙草ノ如キ品質等級ノ大ニ異ルモノニ對シ、之ニ適應スルノ價格税ヲ課シ得ザルニアリテ、此ノ點ヨリシテ多クノ國ニテハ、我邦同様種々ナル經驗ノ後ニ於テ煙草專賣制度ヲ採用スルニ至リタリ、而テ專賣制度ハ殊ニ煙草ニ適ストノ稱アルハ、之ニヨリ始メテ品質ニ適應スルノ課税ヲ爲シ

得ルニヨル。

第三節 食品税

食品税

食品税トハ砂糖、鹽、醬油、穀物、肉税等ニシテ、或ハ鹽、穀物、ノ如ク國民ノ各層ヲ通ジテ生活上ノ必需品ナルアリ、或ハ肉ノ如ク必要ナルモ而モ之ガ程度ハ鹽、穀物等ニ及バズシテ、之ガ消費量モ亦是等諸品ノ如クニ普遍均一的ナラザルモノアリ。或ハ砂糖、醬油ノ如ク、國民ノ進展ニヨリ有用品ヨリ一步一步必需品ニ近接シ來リタルモノモアリテ、是等食品中列國ニ於テ最モ多クノ收入ヲ生ジ、國民富力ノ増進ニツレ多大ノ自然增收ヲ生ズルハ砂糖税ナリトス。

第一目 砂糖税

砂糖税

砂糖ハ一種ノ嗜好品ニシテ、今ヤ之ガ消費ハ益々文明國民間ニ普及シ、殆ンド國民生活ノ一般的必需品トナルニ至リシモ、之ガ消費ハ尠クトモ多少納税スルニ足ルノ所得アルヲ示シ、實際富裕ナルノ家庭丈ケ概シテ多クノ消費ヲ爲スヲ常トシ、歐洲諸國ニテハ國民ノ砂糖消費量ニヨリ以テソノ富力ノ程度ヲトスルニ足ルト爲スノ有様ニシテ、生活上ノ絶對必需品ニスラ課税スルノ今日、列國ニテ之ヲ一種ノ財源トナスハ故ナキニ非ズト謂フベシ。然シ一面ヨリスレバ、砂糖ノ如キ營養分ニ

我砂糖消費稅

富ムモノノ使用ハ大ニ國民間ニ普及スルヲ要スルヲ以テ、財政ノ許ス限リハ成ル可ク之ニ輕課スルノ方針ヲ採ルベキモノニシテ、英國ガ多年間砂糖ノ輸入稅ヲ廢止シ、財政ノ必要上之ヲ再興シタルモ、尙廢止以前ニ比シテ輕課スルハ此ノ理ニヨルモノトス。

我邦ノ砂糖消費稅ハ明治三十四年十月ヨリ實施セラレ、爾來數度ノ改正ト増稅トヲ經テ今日ニ至リタリ、現行稅法ハ砂糖、糖蜜、糖水ノ三者ニ大別シ、尙砂糖ヲバ第一種乃至第六種ニ區分シアリテ、第一種ハ砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖ニシテ最モ低廉ナルモノニ屬シ、此ノ内例ヘバ樽入黑砂糖ニハ百斤ニ付キ二圓ヲ課シ、ソレヨリ次第二優良糖トナルニツレ次第二稅額ヲ増シ、第五種砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ニハ百斤ニ付キ九圓ヲ課シ、尙第六種ニ屬スル氷砂糖、角砂糖、棒砂糖等ニハ百斤ニ付キ十圓ナル最高稅ヲ課シ、ソノ他糖蜜及ビ糖水ニハソノ品質ノ如何ニヨリ百斤ニ付キ二圓乃至九圓ヲ課ス。

本稅ハ右ニ述ベタル如ク出來上リタル砂糖ニ課スルノ製品稅ニシテ、且ツ製造場又ハ保稅地域(關稅内ノ假置場)ヨリ之ヲ引キ取ルトキニ、引取人ヨリ徵收スルヲ以テ所謂交通的製品稅ニシテ、又納稅者ハ引取人ナル卸賣商又ハ運送業者ナリトス。

本稅大正十一年度收入豫算ハ四三、〇八七、九九二圓ニシテ、大正元年度決算一三、五一七、三七四

醬油稅

圓、同六年度決算二九、八一二、九六七圓ニ比スレバ多大ノ增收ニシテ、是ハ一ニハ國民消費力ノ増進ニヨルモノニハ増稅ノ結果ナリトス。

第二目 醬油稅

本稅ハ明治八年ニ之ヲ新設シ、幾モナク日用必需品ナリトノ理由ヲ以テ同年之ヲ廢止シ、更ニ同十八年ニ至リ再興シタルモノニシテ、醬油製造人ニ對シ諸味一石ニ付キ一圓七十五錢、溜リニハ精成一石ニ付キ一圓六十五錢ヲ造石稅トシテ賦課スルノ製品稅ナリトス。而テ自家用醬油ノ製造ハ一家一人ニ限リ、又之ガ製造高ヲ五石以内ニ限定シアリテ、一石未滿ニハ五十錢、二石未滿ニハ一圓、三石未滿ニハ二圓、四石未滿ニハ三圓、五石未滿ニハ四圓ノ輕稅ヲ課ス。大正十一年度收入豫算ハ五、六二八、六七二圓ニシテ、内醬油造石稅四、八六七、一〇二圓、自家用醬油稅七七一、五七〇圓ナリトス。

我邦ニテハ以前ニハ自家用酒ノ釀造ヲ許シ、或ハ之ヲ無稅トシ、或ハ之ニ普通ノ酒稅ヨリハ輕稅ヲ課セシガ、三十二年一月一日以降ハ絶對ニ之ガ釀造ヲ禁止シタリ。而テソノ理由ハ實際上自家用酒ヲ釀造スルハ相當資産者ニ多ク、細民ハ反ツテ普通ノ造石稅ヲ負擔スルノ酒類ヲ飲用スルノ狀態ニシテ、斯クテハ資産者ヲシテ法律ノ特典ヲ享受セシムルノ變狀ヲ呈シ、細民ヲシテ輕稅ヲ課ス

醬油稅ノ廢止ヘ

ルノ自家用酒ヲ飲用セシメントスル當初ノ主義精神ニ反ストノ點ニアリシガ、自家用醬油ニ對シテモ亦同様ノ理由ヲ以テ現ニ之ガ製造禁止ヲ主張スル者モアレド、醬油ハ今ヤ我ガ國民ノ必需品ナルノミナラズ大ニ營養分ニ富ムヲ以テ、寧ロ營業用ト自家用トヲ問ハズ一切本税ノ賦課ヲ廢止スルヲ當然ナリトス、且ツ醬油ノ製造ハ酒ノ釀造ニ比スレバ之ガ方法ハ極メテ簡單ニシテ、何レノ家庭ニテモ之ヲ製造スルヲ得ベク、現ニ自家用醬油ノ製造人ハ全國ヲ通ジテ約百五十萬ノ多キニ達スルノ有様ナルヲ以テ、若シ之ニ高税ヲ課シ若クハ之ガ製造ヲ禁止スルトキハ、爲メニ多クノ脱税者反則者ヲ出ス等、忌ムベキ結果ヲ生ズルニ至ルベシ。

第三目 鹽 稅

我邦ニハ以前ニハ鹽ニ對シテ製品稅ヲ課セシガ、明治三十八年ヨリ現行專賣制度ヲ實施シタルヲ以テ、之ガ研究ハ煙草稅ト共ニ後章專賣ノ部ニ譲リ、茲ニハ簡單ニ本稅ニ關スル一般ノ觀察ヲ試ムルモノトス。

本稅ハ鹽ノ消費ニ對シテ課稅スルモノニシテ、人々ハ貴賤貧富ノ別ナク或ル分量ヲ消費シ、下層社會ハ中流以上ニ比スレバ遙カニ多大ノ消費ヲ爲スヲ以テ、本稅ハ殊ニ細民ヲ壓迫シ、負擔ノ不均衡ヲ生ズルモノニシテ、是レゾ所謂「隱レタル人頭稅」中ニアツテ最モ不都合不條理ナル租稅ナリトス。

ス。然ルニ文明列國中英國、諾威等ヲ除キテハ、或ハ普通ノ課稅法ニヨリ、或ハ專賣ノ方式ニヨリテ今尙本稅ヲ維持シアルハ、一ニハ重キヲ財政主義ニ置クニヨルモノナルモ、一ニハ下層社會ニ對スル公正ナル社會的觀念ノ尙ホ未ダ國民全般殊ニ立法者間ニ徹底セザルモノアルノ致ス所ナリトス。

佛國ハ本稅ヲ重課シタルノ點ニ於テ稅制史上著名ニシテ、ソノ餘リニ苛重ナル爲メ國民ヲ激昂セシメ、屢々一揆動亂ヲ誘發シタルモノニシテ、識者ガ彼ノ大革命勃發ノ主要原因ノ一トシテ、苛重ナル鹽稅ヲ舉グルモ亦偶然ナラザルモノアリ。又普國ニテハ十八世紀ノ後半葉ニハ、各戸ニ對スル鹽ノ受負消費法ヲ行ヒ、人ト牛羊トニ對シ之ガ一人、一頭當リニ付キ各消費平均量ヲ強制シ、此ノ強制的數量ニ對シ消費稅ヲ賦課シタリ。而テ是等ノ諸國ガ、今尙依然トシテ本稅ヲ支持シアルノ間ニ於テ、英國ハ奈翁戰後幾モナク本稅ヲ全廢シ以テ今日ニ至リタリ。

第四目 其ノ他ノ食品稅

以上第一目乃至第二目以外ノ食料品ニ對シテハ、歐洲諸國ニテ以前ニハ多クハ麥粉稅及肉稅ヲ課シアレテ、麥粉類ハソノ重量若クハ容量ニヨリ、若クハソノ製粉器ニ入ル時、若クハ都府ニ搬入セラルル時ニ課稅セルモノニシテ、ソノ重量、容量若クハ製粉器ニヨリ課稅スルノ方法ハ、之ガ監督上

大ニ煩雜ニ流ルルノ弊アリ、例ヘバ自家用製粉器ノ使用ヲ禁止シテ、絶ヘズ製粉所ノ現場監督ヲ勵行シ、麥粉類ヲ運搬出入スル時機等ニ關スル規定ヲ設ケ、若クハ重量ヲ計算スルノ装置ヲ要スルノ類ナリトス。本稅殊ニ麥粉稅ハ、鹽稅同様國民ノ必要ナル生活品ニ賦課スルモノニシテ、一面ニハ財政上相當ノ收入ヲ期待シ得ベキモ、ソノ性質ハ鹽稅同様「隱レタル人頭稅」中ノ最モ不都合ナルモノナルノミナラズ、全國ヲ通ジテ本稅ヲ施行スルニハ課稅ノ技術上大ニ困難ナルモノアリテ、前列舉シタル如キ監督法ヲ全國ニ散在スル多數ノ製粉場ニ適用スルノ勞費ハ多大ナルモノアリ、又本稅ニシテ都市ニ搬入スルニ際シテ課スルノ入市稅ナルトキハ、之ヲ地方ニ及ボスヲ得ザルノ缺點ヲ有スルモノニシテ、以上ノ理由ニヨリ本稅ハ國稅トシテハ何レノ國ニテモ關稅ノ外ハ多クハ之ヲ廢止シ、(英ニテハ穀物關稅スラ之ヲ全廢シタリ)、唯地方稅トシテ尙アル都府ニテ入市稅ヲ課スルノナリトス。

肉稅ハ或ハ屠殺稅トシ、或ハ入市稅トシ、或ハ交通稅ノ形式ニ於テ家畜ノ賣買ニ際シテ之ヲ課スルモノニシテ、本稅ノ麥粉稅ニ比シテヤヤ辯護ノ餘地ヲ有スルモノアルハ、畢竟肉類ノ消費ハ或ル程度迄ハソノ人々ノ納稅力ヲ證スルモノトナスヲ得ルニ由ル。然シ之ガ課稅ニヨリ一般國民ノ重要營養品ナル肉類消費高ヲ減少シ、又地方ニテハ脫稅大ニ行ハレ、又多大ノ納稅力ヲ有スル者ノ專ラ消

費スル熊掌等特殊ノ獸肉及ビ鳥肉等ニハ、課稅ノ技術上ヨリ本稅ヲ課スルヲ得ザル等ノ缺點アリテ(脫稅ノ多キニヨル)、今ヤ列國ニテハ麥粉稅同様、國稅トシテハ多クハ之ヲ撤廢シ、單ニ地方稅トシテ轉々尙存在スルニ過キザルノ有様ナリトス。

第四節 織物消費稅

我邦ニテハ明治三十七年四月一日ヨリ毛織物ニ、同三十八年二月一日ヨリ他ノ織物ニ對シ本稅ヲ實施シ、兩者何レモ織物價格ノ十分ノ一ヲ賦課スルノ價格稅ニシテ、製造場又ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキニ、引取人ヲシテ納稅セシムルモノトス。大正十一年度本稅收入豫算ハ四二、六一四、一四四圓ニシテ、内、内國產三七、三七四、四九四圓、外國產五、二三九、六五〇圓ナリトス。(大正七年度決算二二、三〇七、二三八圓、大正八年度現計三六、五〇〇、三三〇圓、大正九年

織物消費稅ノ短所

度豫算三九、五三四、九三〇圓、大正十年度豫算三三、二六〇、八八二圓)
本稅ハ我邦ニテ鹽稅、通行稅ト相並ンデ、消費稅中ノ三惡稅ト稱セララルモノナルガ、ソノ理由ハ織物價格ノ評定容易ナラズシテ、納稅者ト收稅吏トノ間ニハ之ニ關シ絶ヘザル紛爭アリテ、爲メニ國民ノ租稅道德ヲ荒廢セシムルノミナラズ、甲乙兩地ノ收稅吏間ニテ、織物價格ノ評定上各々

ノ見ル所ヲ異ニシ、爲メニ兩地ニ於ケル同業者間ニ多大ナル負擔ノ不均衡ヲ生ジ偏輕偏重ノ弊ニ陥ルニヨルモノトス。然ルニ織物ノ如キハ同一種類ニ屬スルモノニアリテモ、品質價格ニ非常ナル差違アリテ、絹織物ニ於テ殊ニ然ルモノアルヲ以テ、之ニ對シ從來ノ價格稅ヲ廢シテ重量稅ヲ課スル如キハ、課稅上益々不公平ニ陥ルニ至ルベク、本稅ノ改良刷新ハ一ノ難問題ト謂フベシ。日露戰後政府ニテ設置シタル稅制審査委員會ニテハ、本稅ノ根本的改正案トシテ、或ハ機臺ニ、或ハ原料絲ニ、或ハ賣上金ニ課稅スベシトノ說ヲ爲ス者ナキニ非ザリシモ、機臺課稅法ハ價格及ビ數量ニ比例シテ課稅スルヲ得ズ。又原料絲課稅ハ絲ノ輸出ヲ妨ゲ、生産者ノ仕事ヲ煩累ナラシメ、且ツ戻稅交付ノ手續ヲ困難ナラシメ、又賣上金課稅ハ現行營業稅ト重複スルノミナラズ、營業稅ノ部ニテ述ベタル如ク之ガ調査ハ非常ニ困難ナルモノアリテ、何レモ推獎スルニ足ルノ課稅法ト爲スヲ得ザルヲ以テ、今尙ホ依然トシテ價格稅ヲ維持シアリ。

本稅ハ奢侈
品ト必
要品ト
兩者ヲ
含ム
絹織物
ニ重
課スベ
シ

本稅賦課ノ目的物ナル織物ハ、二ツノ異リタル種類ヨリ成ルモノニシテ、一ハ木綿織物、普通織紗地等國民ノ必需品ニシテ、他ハ絹織物ナル奢侈品ナリトス。然ルニ此ノ兩者ニ對シ均シク價格ノ十分ノ一ヲ課スル如キハ、餘リニ均衡ヲ失スルヲ以テ、本稅中ヨリ木綿ト羅紗織物トヲ除外シ、絹織物ニ對シテ累進的課稅法ニヨリ織物價格ノ高貴トナルニツレ現稅額ニ十數倍スルノ高率ヲ課スルヲ

適當ナリトス。

第五節 通行稅

我邦ノ通
行稅

我邦ノ通行稅ハ前節ノ織物消費稅ト同ジク、明治三十七八年戰役ノ產物ニシテ、單ニ蒸汽力ニヨルノ汽車、汽船又ハ電力ニヨルノ電車ノ乗客ニ對シ賦課シ、石油動力ニヨルノ船車、又馬車人力車等ノ乗客ニ及バザルモノトス。大正十一年度本稅收入豫算ハ九、二七六、二一四圓ニシテ、内、汽車收入四、三三九、八二一圓、電車收入四、六九三、七六四圓、汽船收入二、二二二、六二九圓ニシテ、四面海ヲ環ラスノ我邦トシテハ、汽船通行稅ハ相對的ニモ絶對的ニモ餘リニ少額ナリトス。

通行稅ノ
性質

本稅ハ人々ガ船車等ノ交通機關ヲ使用消費スルニ對シ賦課スル一種ノ消費稅ニシテ、一面ニハ奢侈稅ノ性質ヲ帶ブルモノアリテ、汽車、汽船ノ一等乗客ニ對スル課稅ノ如キハ殊ニ然リトス。我邦ニテハ本稅ヲ以テ一種ノ惡稅ナリト稱スル者モ尠カラズシテ、ソノ理由ハ想フニ最低稅額ハ一錢ニシテ、僅カニ三錢、五錢ノ乗車乘船賃ニ對シテモ尙且ツ一錢ヲ課スルハ、余リニ重稅ナリト謂フアルモノノ如キモ、一錢ヲ以テ租稅計算ノ最低單位ナリトナストキハ、此ノ非難ハ必シモ之ヲ是認スルヲ得ザルノミナラズ、本稅ハ前述ノ如ク奢侈稅的性質ヲ併有シアリテ、我が國民ノ電車ヲ濫用

スルノ習癖ニ對シテモ、尠クトモ電車及汽車、汽船ノ一二等客ニ課税スルハ寧ロ當然ナリト謂フヲ得ベシ、且ツ大體上ヨリ之ヲ言ヘバ、交通機關ノ利用ハソノ人ガ或ル納税力ヲ有スルヲ示スモノニシテ、且ツ爲メニ經濟交通ヲ妨グルニ至ラザルノ程度ニ於テ課税スルハ何等不都合ナク、是等ノ點ヨリシテ多クノ國ニテモ我邦同様本税ヲ賦課シアルモノトス。

第六節 石油及其ノ他ノ消費税

石油消費税ハ我邦ニテハ明治四十一年三月以來實施セラレ、一石ニ付キ一圓ヲ課シ、製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引キ取ル時、引取人ヲシテ納税セシム。大正十一年度收入豫算ハ八八三、九一五圓ニシテ、内、内國産二五三、五六六圓、外國産六三〇、三四九圓ナリトス。本税ハ消費税トシテハ或ハ製品税ナルアリ、或ハ專賣ノ形式ニヨルアリ、或ハ内國消費税ト關稅トヲ併課スルアリ、或ハ關稅ノミヲ課スルモノアリテ、石油ヲ産出セザルノ國ニテハ、關稅ノミニテ石油消費税ヲ課スルノ目的ヲ達シ得ルモノトス。

石油ハ以前ニテハ燈火用トシテ、國民全般ニ互ルノ必需品ニシテ、之ニ課税スルハ尙人頭税ヲ課スルト異ルナク、此ノ點ヨリシテ既ニ惡税ノ一ニ算スベキモノナルガ、殊ニ今日ニテハ瓦斯電燈ノ

石油等ノ消費税
我邦石油消費税

使用ハ中流以上ニ普及シ、燈火用トシテ石油ヲ消費スルハ、下層階級ニ非ズンバ山間僻陬ノ地ニアリテ物質の文明ノ恩惠ニ浴スルヲ得ザルノ人々ニシテ、從ツテ本税ハ鹽稅同様「隠レタル人頭税」中ノ最モ不都合ナルモノトス。然ルニ列國ノ財政状態ハ容易ニ之ガ廢止ヲ許サザルモノアルヲ以テ、幾分カ此ノ不公平ヲ矯正シ國民負擔ノ均衡ヲ保ツタメ、瓦斯税、電燈税ヲ起スベシトノ議ヲ生ジ、既ニ之ヲ税制上ニ採用スルニ至リタルモノアリ。

石油ハ一面ニハ燈火用トシテハ細民税ナルノミナラズ、工業ノ進歩ニツレ多々益々工業界ニ使用セラルルニ至ルヲ以テ、工業發達ノ程度尙幼稚ニシテ、將來大ニ之ガ誘掖ニ努メザルベカラザル我邦ノ如キハ、此ノ兩者ノ何レヨリスルモ本税ノ撤廢ヲ當然ナリトス。本税實施ノ當時當局者ハ之ガ非難ニ對シ、石油一石ニ對スル一圓ノ課税ハ極メテ輕微ニシテ一合一厘ニ該當スルニ過ギザレバ、國民ハ之ガ負擔上別ニ痛苦ヲ感ゼザルベシトノ言ヲ爲セシガ、上述ノ點ヨリスレバ、國民ノ負擔ガ過重ナラズトノ事ハ之ヲ存置スルノ理由トナラザルノミナラズ、石油、鹽、醬油、木綿等ニ課スル諸税ヲ合スルトキハ、相當ノ負擔トナルベキモノトス。列國ニテハ燈火用ノ石油ニ課税スル外尙進ンデ瓦斯、電氣、蠟燭等ニ對シ燈火税ヲ課スルノミナラズ、此ノ外尙「ランプ」「マツチ」ソノ他ノ點燈具税ヲ課スルモノアリテ獨國ハ現ニ此ノ兩税ヲ賦課シアリ。而テ點燈品中ニハ通常ノ「ラン

石油税ノ廢止

燈火税點燈具税

「マツチ」ノ如ク國民日常ノ必需品アリ。又飾「ランプ」、蠟「マツチ」ノ如ク奢侈贅澤品ニ屬スルモノアルヲ以テ、若シ課稅上ヨリ此ノ兩者ヲ區分シ、各々之ニ適當ナル稅率稅額ヲ課スルヲ得バ本稅モ亦必シモ非難スベキニ非ザルモ、是ハ課稅ノ技術上殆ンド不可能ニ屬スルモノニシテ、國民多數ノ負擔トナリテ比較的多クノ收入ヲ國庫ニ舉グルモノハ、奢侈品ニ非ズシテ、寧ロ人々日常ノ必需品ナルヲ以テ、此ノ點ヨリシテ本稅モ亦多ク國民ノ必需品ニ課スルノ惡稅ナリト謂フヲ得ルモノトス。且ツ本稅ノ缺點ハ燈火具點火具ノ範圍ヲ定ムルノ困難ナルニアリテ、奢侈品ニ於テ殊ニ然ルト爲スヲ以テ、人々ガ課稅品以外ノ品種ヲ使用シ、以テ事實上ノ脫稅ヲ爲スノ弊害ハ到底防止シ得ザルモノトス。

以上第一ヨリ本節ノ石油消費稅ニ至ル迄ハ、主トシテ我邦現行消費稅法ニ基キ之ニ一般的説明ヲ加ヘ、以テ學理上ヨリ一般消費稅殊ニ我ガ稅制ヲ研究判斷スルノ資料ヲ讀者ニ提供シタルモノナルモ、以上各種ノ消費稅ノ外尙現ニ列國ニテ採用シアリ、若クハ曾テ採用セラレタルノ歴史ヲ有スル種々ナル稅目アリテ、例ヘバ住家稅（收入稅中家屋稅ノ部參照）、石鹼稅、紙稅、曆稅、新聞稅、廣告稅等枚舉ニ暇アラザルモノアリテ、是等ハ何レモ消費稅トシテ賦課セラルベキ多少ノ理論々據ヲ有セザルニ非ザレド、主トシテ財政困難ニ處スルノ財政主義ニヨリ課稅セラルルニ至リタルモノト

他ノ消費稅

奢侈稅

ス。又奢侈稅若クハ奢侈稅ノ色彩ヲ帶ブルモノトシテ、骨牌稅（現ニ我邦ニテモ課稅シアリ）、金銀器稅、樂器稅、召使稅、自働車稅、馬車稅、乘馬稅、犬稅、定紋稅、撞球臺稅、鶯稅、集會所稅、等アリテ、是等奢侈稅ノ殊ニ大ニ發達シタルハ英國ナリトス。而テ本稅ニ關スル概觀ハ既ニ消費稅總論ノ部ニテ述べタルヲ以テ、茲ニハ單ニ是等ノ稅目ヲ列舉スルニ止マルモノトス。

第二十三章 專賣の消費稅

專賣の消費稅トハ、專賣法ノ形式ニヨルモ、ソノ實ハ或ル貨物ニ對スル消費稅ヲ賦課徵收スルモノニシテ、我邦ニテ專賣益金ト稱スルモノノ大部分ハ、販賣代價トシテ取り上ゲラルルノ消費稅ナリトス。而テ專賣ハソノ如何ナル種類ナルヲ問ハズ、何レモ或ル貨物ノ製造販賣ニ關スル全部若クハ一部ヲ、個人ノ自由營業ヨリ引キ離シテ之ヲ國家ノ手ニ移スモノニシテ、ソノ貨物ノ輸入ニ關シテモ亦同様ナリトス。即チ專賣ハ或ル貨物ニ對スル國家ノ獨占の事業ニシテ、國家ハ之ニヨリソノ專賣スル貨物ノ價格ヲ左右シ、以テ普通ノ營業ヨリ生ズル利潤以上ニ大利益ヲ博取スルヲ目的トナスモノニシテ、此ノ世間ノ普通利潤以上ノ大利益全部ハ則チ一種ノ消費稅ナリ。例ヘバ或ル國家ガ葉煙草專賣ヲ實施スルモノトスレバ、國家ハ全國内ニ生産スル葉煙草ノ全部ヲ買收スルノ特權ヲ保有シ、且ツ外國ヨリノ葉煙草輸入ハ國家ノ手ニテ之ヲ爲スカ、然ラズンバ個人ノ輸入シタルモノハ總テ之ヲ國家ニ買收スルコトトシ、斯ク内外國ヨリ買收シタル葉煙草ハ、普通營業ノ利潤以上ニ尙多大ナル利益ヲ見込ミテ、更ニ之ヲ全國ノ煙草製造業者ニ拂ヒ下グルモノニシテ、此ノ拂下ゲ代價ハ無論國家ノ勝手ニ定ムル所ノ獨占的代價ニシテ、ソノ普通利潤以上ノ利益ハ、製造煙草ノ販賣代

價中ニ包含セラレテ之ガ消費者ノ負擔ニ歸スルモノニシテ、是レ則チ純然タル一種ノ消費稅ナリトス。

以上述べ來リタル所ニヨレバ、專賣ナル文字ハ狹キニ失スルモノニシテ、ツマリ專賣トハ獨占的製造、獨占的販賣ノ兩者ヲ併セ意味スルモノトス。列國ノ專賣制度ニハ廣狹ノ兩者、即チ總專賣ト部分的專賣トアリテ、總專賣トハ或ル貨物ノ製造ト販賣トノ兩者ヲ併セテ之ヲ國家ノ手ニ獨占スルモノニシテ、部分的專賣トハ或ハ國家ニテ或ル貨物ノ製造ノミヲ獨占シ、特許ヲ得タル個人ヲシテ之ヲ販賣セシムルモノニシテ之ヲ製造的獨占ト云フ。或ハ國家ニテ或ル貨物ノ販賣權ノミヲ獨占スルモノニシテ之ヲ販賣的獨占ト云フ。曾テ我邦ニ行ハレタル葉煙草專賣ノ如キハ、葉煙草販賣ノ權ノミヲ國家ニ獨占シ、之ガ製造及ビ製造煙草販賣ノ事ヲ個人ニ委スルモノニシテ、是亦販賣的獨占ノ一種ニシテ何レモ部分的專賣ナリトス。

次ギニ專賣ノ長短利弊ヲ見ルニ、學者ノ稱シテ之ガ利益ナリトナスノ點ハ、第一、專賣ニヨリ品質ニ相應スルノ課稅ヲ爲シ、以テ始メテ理想的ノ價格稅ヲ課シ得ベシトナスニアリテ、是ハ疑モナク專賣法ノ最大長所ナリトス。即チ品質ニ應ジ人々ノ消費能力ニ應ジテ課稅シ得ルノ一事ハ、國民ヲ壓迫セズシテ大收入ヲ擧ゲ、且ツ之ニヨリ國民間ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ保ツヲ得ベク煙草ハ殊ニ

專賣ナル文字ハ狹キニ失ス

專賣ノ種類

專賣ノ長

煙草ハ殊ニ專賣ニ適アル理由

專賣ニ適スト稱セラルルノ理由ハ主トシテ此ノ點ニ存スルモノトス。第二ハ專賣ニヨリ國家ハ容易ニ大收入ヲ舉グルヲ得ベク、又第三ハ之ニヨリソノ專賣貨物ヲ全國劃一的ニ供給スルヲ得ベシトノ點ニシテ、此ノ第二第三ノ裏面ニハ幾多缺點ノ伏藏スルモノアリ。而テ專賣ノ短所ナリト稱セラルル第一點ハ、專賣ハソレ丈ケ民業ヲ奪ヒ去リテ之ヲ國家ノ手ニ收ムルモノニシテ、殊ニ國民富力ノ尙大ニ増進スルノ要アル我邦ノ如キハ、成ル可ク國民ヲシテ各種ノ經濟事業ニ從事セシメ、以テ富源ノ涵養、富力ノ増進ニカムベク、國民ノ富力ニシテ増進スレバ、各種ノ租稅收入ハ自ラ増加スベシ。假リニ普通ノ消費稅トシテノ煙草收入ハ、或ハ品質ニ適應スルノ課稅ヲ爲スヲ得ズ、又ハ脫稅多シトノ理由ニヨリ、煙草專賣收入ニ比スレバ大ニ遜色アリトナスモ、個人事業トシテ煙草ヲ製造シ、大ニ之ガ販路ヲ内外ニ擴張シ、以テ國民ノ所得國民經濟ノ收入ヲ増加スルトキハ、所得稅、營業稅、各種消費稅等ノ増加ニヨリ、煙草消費稅ノ缺ヲ補フテ尙餘リアルモノナキヲ保セズシテ、專賣ガ民業ヲ奪ヒ去ルノ一事ハ之ガ最大短所ナリトス。專賣ニ伴フ第二ノ弊害ハ專賣品ニ對スル外國輸出ノ不振ヲ來スノ點ニシテ、通例專賣品ハ大ニ高價ニシテ外國貿易上他トノ競爭ニハ適セザルノミナラズ、官吏ハ貿易ノ事ヲ解セザルモノトス、現ニ我邦ニテ民間ニ於ケル煙草製造業稍發達シテ、次第ニ東洋方面ニ之ガ輸出ヲ増加スルノ趨勢ヲ呈スルニ當リ、專賣制度ヲ實施シタル爲メ、煙草ノ

輸出ハ一時ニ頓挫シ又救フベカラザルノ狀態ニ立チ至リタリ。第三、專賣モ亦官業ノ一種ニシテ、官吏ニヨリ經營セラルルノ官業ハ概シテ不經濟ナルヲ免レズシテ、必要以上ニ大規模ナル工場ヲ建設シ以テ徒ラニ大資本ヲ固定セシメ、又原料品ヲ濫用スル等ノ弊ハ往々ニシテ我煙草專賣ニ於テモ之ヲ見ルヲ得ルモノトス。且民業ヲ國家ニ買收スル際ノ如キハ、國家ハ多クハ不當ナル高價ヲ拂ヒ以テ國帑ヲ濫費スルモノニシテ、我ガ煙草專賣實施ノ際ニ於テ、有名ナル「ニコチン」問題トシテ世間ヲ沸騰セシメタルハ、今尙世人ノ記憶ニ新タナル所ナリトス。第四、專賣ニヨリソノ專賣品ヲ全國ニ劃一的ニ供給シ得ルノ長所アリト謂フモ、貨物ノ性質ニヨリテハ、專賣ナラズトモ劃一的ニ供給スルヲ得ベク、即チ鹽ノ如キハ之ガ一例ナリトス。又煙草、酒ノ如キ嗜好品ニ至ツテハ、劃一ト云フ點ヨリハ、寧ロ數多異種類ノ製品ヲ供給シ以テ個人ノ嗜好ニ投ズルノ要アルニ拘ラズ、專賣品ハ然ルヲ得ズシテ、現ニ我ガ專賣煙草ノ如キ比較的少數ノ品種ニ限ラレ、嗜煙家ハ專賣ニヨリ釣リ上グラレタル非常ニ高價ナル外品ノ輸入ニヨリ、辛フジテ寂寥ヲ破リ得ルニ過ギズ。第五、專賣ハ他ノ競爭ヲ阻絶シアルヲ以テ專賣品ハ勢ヒ劣惡トナルノ傾キアリテ、現ニ我邦ノ專賣煙草ハ此ノ點ニ關シ絶ヘズ國民ノ非難苦情ヲ免レザルモノトス。

我邦ニテハ專賣的消費稅ハ之ヲ專賣局益金ト稱シ、之ヲ官業收入ノ部ニ計上シアレド、ソノ實ハ

前述ノ如ク、此ノ官業益金ナルモノハ、世間普通ノ營業利潤以外ハ消費稅トシテノ租稅收入ナリトス。

大正十一年度豫算專賣局益金一〇一、三二三、一一九圓ノ内、煙草專賣益金一〇〇、七二六、五二七圓、鹽專賣益金五二七、八六九圓、樟腦專賣益金六八、七二三圓ナリ。煙草專賣ハ明治二十九年ニ葉煙草專賣ヲ實施シ、三十七年ニ現行製造專賣法ヲ採用スルニ至リ、又鹽專賣ハ明治三十八年樟腦專賣ハ同三十六年以降ノ實施ニ係リ、後者ヲ專賣トナシタルハ、臺灣ニテ樟腦專賣法ヲ實施シタル結果、之ガ效用ヲ全カラシムル爲メニ、内地ニモ同制度ヲ施行スルノ要アリタルニヨル。

大正十一年度收入豫算ニヨレバ、鹽ノ專賣益金ハ僅カニ五十二萬餘圓ニ過ギズシテ、同益金ガ以前千三四百萬圓ニ上リタルコトアルニ比スレバ餘リニ少額ナルガ、是ハ物價騰貴ノ爲メ、專賣局ハ鹽ノ生産者即チ賣上人ニ對シ、一般物價騰貴ニ相當スルノ代價ニテ買入レ、一方ニハ國民ノ必需品ナル鹽ヲ拂下グルニ當リテハ、成ルベク拂下ゲ代金ヲ高メザルノ方針ヲ取リタルニヨリカク益金ノ減少ヲ來シタルモノトス、元來鹽ハ既ニ屢々述べタル如ク、國民生活ノ必需品ニシテ、鹽稅ハ最も不都合ナル「隠レタル人頭稅」ナルガ、獨「デアロツフ」教授ガ一九〇八年二百八十ノ家庭ニ付キ調査シタル結果ハ左ノ如シ。

鹽專賣益金ノ大減少ノ理由

鹽稅ガ不都合ナル點細民稅ナル點實證

年所得高 (馬克)	鹽ノ平均消費高 (馬克)	一家平均消費金額 (馬克)	消費金額ノ年所得高ニ對スル割合 %
I. 4,000—6,000	2.30	2.30	0.03
II. 2,000—4,000	3.00	3.00	0.01
III. 1,200—2,000	4.00	4.00	0.15
VI. 800—1,200	5.30	5.30	0.31
V. 800—以下	4.00	4.00	0.33

本調査ハ全然資産階級ノ分ヲ缺キ、且ツ調査シタル家庭ノ數モ尠キニ失スル等、完全ナルモノト謂フヲ得ザルモ、如何ニ鹽稅負擔ノ不均衡ナルヤヲ知ルニハ充分ナリトス。即チ中産階級ニ屬スル第一級、第二級ハ、鹽ノ消費金額モ所得ニ對スル之ガ割合モ、下層社會ニ屬スル第三級及ビ第四級ニ比スレバ著シク低下ニシテ、遙カニヨリ輕微ナル負擔ナリトス。而テ最下級ナル第五ニ至ツテハ之ガ所得ニ對スル消費ノ割合ハ第四級以上ナルニ拘ラズ、消費金額ハ之ガ五分ノ四ニ達セズシテ、是等ノ家庭ニ至ツテハ、比較的ニ大負擔ヲ爲シテ尙且ツ鹽スラ充分ニ消費シ得ザル悲惨ナル状態ニアルヲ示シアリテ、斯ル惡稅ハ普通ノ消費稅ナルト專賣ノ形式ナルトヲ問ハズ當然全廢スベキモノ

我鹽專賣ノ將來

ナリ。而テ豊富ニシテ極メテ低廉ニ而モ優良ナル鹽ヲ産スル滿洲、臺灣ヲ包有スル我邦ノ如キハ、鹽業政策上殊ニ低廉ナル鹽ヲ國民ニ供給スルノ點ニ於テ、此ノ際根本的考慮ヲ要スルモノトス。

第二十四章 關 稅

關稅ノ意

關稅トハ或ル貨物ガ國境ヲ通過スルニ際シ課稅スルモノニシテ、事實上ハ必シモ國境ニテ本稅ヲ徵收スル場合ノミニ非ザルモ、(例ヘバ東京ニ稅關ヲ設ケ、橫濱揚ゲ東京行ノ貨物ハ橫濱ニ非ズシテ東京ノ稅關ニテ之ニ課稅スルノ類)然シ何ノ道、國境通過ノ事實アリテ始メテ關稅賦課ノ理由ヲ生ズルモノトス。

通過稅輸入
稅出

關稅ニハ通過稅、輸出稅及ビ輸入稅ノ三者アリテ、通過稅トハ國境ヲ素通りニスル或ル貨物ニ對シ、輸出稅ハ國境ヲ出ヅルモノ、輸入稅ハ國內ニ入り來ルモノニ對シ課稅スルモノナルガ、通過稅先ヅ跡ヲ列國ノ稅制上ニ絶チ、ソレヨリ輸出稅ハ次第ニ減少輕減セラレ、次第ニ廢止セラレ、戰前ノ文明列國ハ、關稅トシテハ殆ンド輸入稅ノミヲ賦課スルノ有様ニシテ、唯英國ガ南阿戰爭ニ際シ、一時的戰時稅トシテ數年間石炭ノ輸出稅ヲ課シ、南米ノ智利ニテハ同國特產品ナル硝石ノ輸出稅ハ、今尙國家重要ナル財源ノ一部ヲ占メアル等ノ例外アルノミナリトス。而テ歐洲ニテ通過稅ノ廢止セラレタルハ、(獨ニテ一八六一年ニ廢止)列國鐵道輸送上ノ國際的競爭ニヨリタルモノニシテ、又主ナル文明國ガ輸出稅ヲ全廢シタルハ、(英ハ一八四二年ニ、獨ハ一八七三年ニ、日ハ明治三十二年ニ)

廢、産業政策上輸出獎勵ノ見地ニ出デタルニ外ナラズ。以下關稅ト稱スルハ專ラ輸入稅ヲ意味スルモノトス。

本稅ハ國境通過ノ際ニ課スルノ點ヨリスレバ交通稅ノ一種ナリト謂フヲ得ベキモ、然シソノ實質上ヨリスレバ消費物ニ課スルノ消費稅ニシテ、殊ニ財政的關稅ニ於テ然リトス。而テ普通ノ消費稅即チ國內消費稅ト財政的關稅ト相俟ツテ、始メテ消費稅ノ系統ヲ完成スルモノトス。且ツ本稅ハ實質上消費稅ノ一種ナルモ、國內消費稅ノ有セザル多クノ長所ヲ有シアリテ、ソノ主ナルモノハ徵稅上內國ノ産業ハ毫モ煩累ヲ被ラザルコト、經濟交通ハ爲メニ些少ノ影響ヲ受クルニ過ギザルコト、及び監督ノ比較的容易ナルコトニシテ、四面環ラスニ海ヲ以テスル我邦ノ如キハ、本稅ニ對シテハ殊ニ國境監督ガ容易ニシテ脫稅尠キノ長所ヲ有ス。

關稅ハ保護的關稅ト財政的關稅トニ兩分セラレ、此ノ區別ハ本稅ノ研究上極メテ重要ナリトス。保護的關稅ハ內地産業ノ保護政策上ヨリ、輸入品ニ對シ課稅スルモノニシテ、之ガ極端ニシテ徹底的ナルモノハ所謂禁止的保護稅、即チ外國品ガ課稅ノ爲メ絶對ニ國內ニ入り來タリテ内地品ト競争シ得ザルノ程度ニ本稅ヲ課スルモノニシテ、財政的關稅トハ之ニ反シ、何等内地産業保護ノ目的ヲ有セズシテ、專ラ財政的收入ヲ得ルヲ目的ト爲スモノトス。例ヘバ我邦ニテ南米ヨリノ珈琲ニ對シ

輸入稅ヲ課スルモノトスレバ、珈琲ハ我が内地ニ産セザルヲ以テ、之ガ課稅ハ我が産業保護ノ目的ニ出ヅルニ非ズシテ、專ラ收入上ノ見地ヨリスル財政的關稅ナルヲ知ルニ足ルベキモ、我邦ニテ印度支那ノ輸入茶ニ對シ課稅スル場合ニハ、ソノ果シテ保護的財政的關稅ノ何レナリヤハ、前例ノ如クニ簡明ニ之ヲ知ルヲ得ザルモノアリ。即チ假リニ一斤一圓ニ値スル内國茶ト同品質ノ輸入茶ニシテ、一斤七十錢ヲ值スルモノニ對シ之ニ三十錢ノ輸入稅ヲ課スルモノトスレバ、内地茶同様一圓ノ相場トナルベクシテ、是レ丈ケノ課稅ニテハ尙保護的ナリト謂フヲ得ザルモ、此ノ輸入稅ヲ更ニ三十錢以上ニ高ムトキハ、三十錢以上ノ分ハ多クハ保護的關稅ノ性質ヲ有スルニ至ルベシ。而テ多クノ國ニテハ關稅中財政的ト保護的トノ兩性質ヲ併有スルモノ尠カラズシテ、ソノ如何ナル程度迄ガ保護的若クハ財政的ナリヤハ、一々ソノ品目稅率及ビ内地品ノ相場等ニヨリ、始メテ之ヲ判知スルヲ得ベク、要スルニ理論上保護的關稅ハ、何等財政的意義即チ收入ヲ舉グルノ目的ヲ有セザルヲ以テ、余ノ租稅ノ定義ニヨレバ、保護的關稅ハ租稅ノ一種ナリト謂フヲ得ズ。唯前述ノ如ク關稅中嚴密ニ保護的ト財政的トヲ區分スルハ困難ナルモノアルヲ以テ、兩者ヲ一括シテ之ヲ關稅ト稱スルモノトス。

列國ハ何レモ保護的關稅ト財政的關稅トヲ併課シアリテ、北米合衆國ハ殊ニ強度ナル保護稅主義

ニ傾キアリ。唯一ノ例外トシテ絶對ニ保護稅主義ヲ排シ、財政的關稅ノミヲ賦課シアルハ戰前ノ英國ノミナリシガ、戰後ノ今日ニテハ同國モ亦獨ノ輸入品ニ對抗スル等ノ爲メ保護稅主義ヲ加味スルニ至リタリ。同國ハ以前ニハ保護的關稅主義ヲ取り奈翁戰後ニ至ルモ尙之ヲ維持シ、一八三九年ハ一一五〇ノ關稅目ニ對シ苛察ナル課稅ヲ爲セシガ、一八四〇年代ニ入りテヨリハ次第ニ自由貿易主義ニ移リ、ソレヨリ絶體ニ保護的關稅ヲ廢スルニ至リ、開戰前即チ一九一三年ニ於ケル同國ノ關稅目ハ僅カニ二十七ニ過ギズシテ、是等ハ珈琲、ココア、チコリー、乾果、茶、葡萄酒、麥酒、火酒、ソノ他ノ酒精含有飲料、煙草、砂糖、砂糖含有物、サツカリン、骨牌ノ類ニシテ、即チ全然英國ニ産セザルモノ、若クハ内地品ニハ關稅ト同様ニ國內消費稅ヲ課スルモノノミニ賦課シアリテ、毫末モ内地品保護ノ目的ヲ有スルモノナク、又砂糖ノ外ハ一ノ食料品ニ課稅スルモノナク、同國ハ國民富力ノ多大ナルニヨリ、戰前ニ於ケル一般物價ハ他ノ歐洲列國ニ比シ高貴ナリシニ拘ラズ、又勞働者ノ賃金モ同様ナリシニ拘ラズ、日常食料品ノ他國ニ比シテ著シク低廉ナリシハ斯ル關係アルニ由ルモノトス。尙茲ニ注意ヲ要スルハ自由貿易主義ヲ採ルトノコトハ、何レノ輸入品ニモ課稅セズトノ意味ニ非ズシテ、唯内地ノ産業ヲ保護スルノ目的ヲ以テ關稅ヲ賦課セザルモノニシテ、絶對ニ自由貿易主義ヲ取ルノ英國モ多大ノ財政的収入ヲ舉グル爲メ、前記ノ二十七品ニ對シテハ極メテ

高歩ナル財政的關稅ヲ課シアリ、從ツテ課稅品目ハ極メテ尠キニ拘ラズ、之ガ關稅收入ハ巨額ニシテ、數百若クハ千以上ノ品種品目ニ對シ關稅ヲ賦課スル我邦、北米合衆國及ビ獨逸ノ關稅收入ヲ以テ英國ノ其レニ比スレバ、

日本大正十一年度豫算

七一、七四四、四二四圓

北米合衆國一九一二年度決算

約六二二、六四三、三四四圓

獨逸一九一三年度豫算

約三三九、六六〇、九〇〇圓

英國一九一三年度豫算

約三三四、八五〇、〇〇〇圓

ニシテ、即チ僅カニ二十七ノ品種ニノミ關稅ヲ課スル英國ハ、多數ノ輸入品ニ對シ極メテ高歩ナル課稅ヲ爲ス米國ニ比スレバ約半額ノ收入ニ過ギザルモ、之ガ金高ハ三億三千萬圓以上ノ巨額ニシテ、獨トハ伯仲ノ間ニアリテ、我邦ニ比スレバ約五倍ノ大收入ヲ舉グルモノトス。

世界戰後ニ於ケル列國ノ關稅政策ハ殆ンド混沌タル状態ニ陥リ、獨ノ如キハ數十年來廢棄シタル輸出稅ヲ再興スベク餘儀ナクセラレタルノミナラズ、列國ハ外國品ノ輸入ヲ防遏スル爲メ益保護稅主義ニ傾キ來タリテ、英國スラ前述ノ如ク列國ノ間ニ異彩ヲ放チアリタル絶對的自由貿易主義ノ層板ヲ撤退シテ、或ル程度ノ保護稅主義ヲ採ルニ至リシガ、然シ列國戰後ノ經濟財政ハ尙未ダ常態

從價稅
從量稅

復セザルヲ以テ、無論現在ヲ以テ將來ヲ推スヲ得ズ。
關稅ノ賦課法トシテハ從價稅主義ト從量稅主義ノ二者アリテ、此ノ問題ハ既ニ「消費稅總論」ノ部ニ於テ之ガ概要ヲ述ベタルヲ以テ、茲ニハ簡單ニ之ヲ一言スレバ、關稅ハ貨物ガ國境ヲ通過スル際シ殊ニ簡單敏速ニ之ニ課稅シ、以テ成ルベク經濟交通ヲ妨ゲザルノ用意極メテ肝要ナルヲ以テ、價格ニ大差違アル特殊ノ貨物ヲ除キテハ成ルベク從量稅主義ヲ取ルベク、列國ノ課稅法ハ次第ニ此ノ傾向ヲ呈スルニ至リタリ。

關稅表

關稅ハ豫メ定メタル關稅表ニヨリ之ヲ徵收スルモノニシテ、關稅表トハ關稅ヲ賦課セラルベキ貨物ヲ表示シ一之ニ稅率若クハ稅額ヲ附記スルモノニシテ、我邦ニテ關稅定率表ト稱スルモノナリ。而テ從價稅ニテハ輸入者ガ申告スル價格若クハ代價ノ何割何分トナシ、從量稅ニテハ量額等ノ單位若クハ個數ニ對シ稅額ヲ示スモノニシテ、例ヘバ何品ハ百斤何圓、何品ハ一個何錢ト謂フノ類ナリトス。而テ關稅表ハ或ル貨物ノ名稱ニヨリ、之ヲ「イロハ」順トナスモノ、或ハ貨物ノ種類別ニヨリ、粗製品、半製品、製造品ノ順序ヲ以テ排列スルモノアリ。或ハ「イロハ」順ニヨリ主ナル區分ヲ爲シ、此ノ區分中ニ於テ更ラニ品種別トナスモノアリテ、我邦ニテハ貨物ノ種類ニヨリ之ヲ區分シ、第一類、植物動物（生活力ヲ有スルモノ）、第二類、穀物、穀粉、澱粉及ビ種子等トシテ、總テ

國定稅率

協定稅率

我稅權恢
復問題

最惠國約
款

ヲ十六類、五百二十九號ニ分チアリテ、一號ニテ十種以上ヲ含ムモノモアリ。元來課稅ノ技術上ヨリ謂ヘバ、關稅表ハ成ルベク簡單明瞭ナルヲ要シ、關稅ニシテ複雜ニ互リ、同様ナル品種ニ對シ多ク異リタル稅率ヲ課シ、區分稅ヲ設ケ、保護稅ヲ課シ、階級ヲ附スル等ノ事ヲ爲セバソレ丈ケ關稅表ノ混雜ヲ來タシ、徵收ノ手數ヲ煩雜ナラシムルモノニシテ、我ガ關稅表ト英國ノソレトヲ對比スルトトキハ、此ノ點ニ於テ殆ンド霄壤ノ差アルニ拘ラズ、前表ニテ示シタル如ク、我ガ關稅收入ハ英國ノ五分ノ一ニ過ギザルモノトス。

次ギハ國定稅率ト協定稅率トノ區分ニシテ國定稅率ハ他ノ國ノ意思希望ノ如何ヲ問ハズ、國家ノ單獨意思ニヨリ關稅率ヲ定メ、協定稅率トハ他ノ國家ト國際的協約ニヨリテ之ヲ定ムルモノニシテ、是ハ國家ト國家トガ對等ノ地位ニ立チ互讓的精神ニヨリテ協定スル場合モアレド、弱國又ハ後進國ガ強國ヤ先進國ニ壓迫セラレテ、余儀ナク不利ヲ忍ンデ協定主義ニ出ルモアリテ、維新當時ノ我邦ノ如キハ後者ニ屬シ、明治年代ニ於ケル我ガ法權、稅權ノ恢復ハ、國民ガ衷心ヨリ希望シ絶叫シタルモノナリトス。而テ法權ノ事ハ別問題ナルガ、稅權ノ恢復トハ、明治維新當時我邦ガ列國ニ強壓セラレテ締結シタル關稅協定率ヲ國定率ニ改定セントスルニ在リテ、此ノ目的ハ明治四十四年ニ至リ漸クニシテ達成セラレタリ。尙本問題ニ關聯シテ最惠國約款ナルモノアリ、是ハ關稅率ノ制定上

區分稅

報復的關稅

某國ニ對シ最惠國約款ヲ附帶條項ト爲ストキハ、關稅率ノ上ニ於テ他ノ國ニ與フル特殊ノ利益ニ對シテハ此ノ最惠國約款ヲ附與セラレタル其國ニハ總テ之ニ均霑セシムルモノニシテ、是亦ソレ丈ケ國家ノ關稅率制定權ノ制限トナルモノトス。次ギハ區分稅ノ問題ニシテ、是ハ輸入シ來ル國ノ異ルニヨリ、又ハ內國船若クハ外國船ニテ輸入スルニヨリ、又ハ植民地若クハ外國ヨリ輸入スルニヨリ、同一品種ニ對シテ稅率ヲ區分スルヲ謂ヒ、無論最惠國約款ヲ適用セザルモノトス。而テ報復的關稅モ亦此ノ區分稅ノ一種ニシテ、是ハ特別ノ場合、即チ或ル國ガ我が輸出品ニ對シテ特ニ不利ナル待遇ヲ爲スノ場合ニ於テ、ソノ國ヨリノ輸入品ニ對シ、特ニ報復的ニ高率ヲ課スルモノニシテ、之ヲ戰鬪的關稅トモ謂ヒ、多クノ國ニテハ機宜ノ處置ヲ採リ得ル爲メ、便宜上之ヲ實行スル場合ヲ勅令ノ規定ニ一任シアリテ、獨ニテハ之ヲ戰鬪的條項ト稱ス、我が關稅定率法ニテハ、本邦ノ船舶又ハ生產品ニ對シ、他國ノ船舶又ハ生產品ヨリモ不利益ナル取扱ヒヲ爲ス國ノ生產品ニ對シテハ、勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ、別表ニ定メアル關稅ノ外、ソノ物品ノ價格ト同格以下ノ關稅ヲ課スルヲ得ルトノ規定ヲナシアリ。

保稅倉庫

最後ニ保稅倉庫及ビ自由港問題ニ付キ一言センニ、貨物ノ交通ヲシテ成ルベク敏速簡捷ナラシメ、且ツ納稅者ヲシテ成ルベク貨物ノ賣却ニ近ヅキテ稅金ヲ納入スルノ便宜ヲ有セシムル爲メ、列

國ニテハ保稅倉庫ナルモノヲ設置スルニ至リタリ、即チ輸入商ニシテ輸入品ヲ此ノ倉庫ニ格納シ、又一定境域內ニ積ミ置クトキハ、之ヲ販賣スル等ノ爲メニ倉庫ヨリ取り出シ、又ハ境域外ニ持チ出ス迄ハ課稅ヲ猶豫セラレ、又之ヲ內地ヘ持チ込マズシテ更ニ再輸出ヲ爲ストキハ全然課稅セラレザルモノトス。而テ保稅倉庫ニハ官設ト民設トアリ、又官設中ニハ長時日間格納ヲ許スモノト、ソノ期間ハ數月ニ過ギザルモノトアリ。我邦ノ稅關假置場ハ後者ニ屬スルモノトス、而テ此ノ保稅倉庫、保稅境域ガ更ニ擴張セラレタルモノヲ自由港トナス。

自由港

自由港中ニハ香港ノ如ク全島ヲ以テ之ニ充ツルモノアレド、多クハ獨ノ漢堡ノ如ク商港ノ一部ヲ割イテ之ヲ設定スルモノニシテ、是ハ中間的貿易、中繼商業ノ盛ナル國ニテハ最モ必要ニシテ、業者ハ輸入貨物ヲ自由港ニ揚陸シ、之ガ包裝ヲ仕換ヘ、若クハ之ニ加工シ、又ハ之ヲ内地ニ輸入スベキヤ若クハ更ニ輸出スベキヤ等ヲ決スルモノニシテ、之ヲ内地ニ輸入スルトキハ、ソノ際ニ至リ始メテ輸入稅ヲ課セラルルモ、更ニ之ヲ輸出スルトキハ、保稅倉庫ニ格納シタル場合ト同様何等課稅セラレザルモノトス。世間ニテハ此ノ自由港ト自由貿易トヲ混同スルモノアレド、香港ノ如キハ別トシ、自由港ヲ商港ノ一部ニ設定スルトイフ事ハ、全然自由貿易トハ沒交渉ニシテ、保護貿易主義ヲ取ル獨逸ノ如キモ、漢堡港ノ一部ニ自由港ヲ設定シアルモノニシテ、要スルニ自由港ハ保稅倉

主義ヲ確立シタリ。其ノ後數次ノ改正ノ結果現行規定ハ左ノ如シ。

國稅タル地租ニ對スル地方附加稅

北海道、府縣 宅地租ニハ百分ノ三十四以內、ソノ他ノ地租ニハ百分ノ八十三以內

ソノ他ノ公共團體 宅地租ニハ百分ノ二十八以內、ソノ他ノ地租ニハ百分ノ六十六以內

國稅タル營業稅ニ對スル地方附加稅

北海道、府縣 營業稅百分ノ二十九以內

ソノ他ノ公共團體 營業稅百分ノ四十七以內

國稅タル所得稅ニ對スル地方附加稅

北海道、府縣 所得稅百分ノ三、六以內

ソノ他ノ公共團體 所得稅百分ノ十四以內

但シ第二種ノ所得ニハ附加稅ヲ課スルヲ得ズ

右ノ外特別ノ場合ニハ、内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ、以上三種ノ國稅ニ對シ各百分ノ十二以內ノ超過賦課ヲ爲シ得ルノ規定ニシテ、此場合ハ一、内務、大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲メ、二、非常ノ災害ニヨル復舊工事ノ爲メ、三、水利ノ爲メ、四、傳染病豫防ノ爲メ

費用ヲ要スルトキナリトス。而テ此ノ内、負債ノ元利金償還云々ハ特ニ制限ヲ超過スルノ理由トナラザルモノニシテ、起債ノ當時ニ於テ既ニ之ガ元利金償還ノ財源ヲ確保スベキモノトス。

以上ノ外尙特別營業稅ナル鑛業稅、賣藥營業稅及ビ取引所營業稅ニ地方附加稅ヲ課スルヲ得。又地方ニテ間接國稅ニ附加稅ヲ課スル場合ニハ、内務大藏兩大臣ノ認可ヲ要スルモノトス。

我邦ニテハ原則トシテハ國庫ヨリ地方ヘ交附金ヲ爲スノ主義ヲ採ラズシテ、地方ノ經費ハ地方ニテ經營スル事業收入以外ハ主トシテ以上ノ附加稅ト、以下述ブル所ノ獨立ノ地方稅トニヨリ支辨セラルルモノトス。而テ地方稅ハ大體上之ヲ府縣稅ト市町村稅トニ區分シ、府縣ニテ國稅以外ニ獨立シテ賦課シ得ルノ租稅ハ、戶數割、家屋稅、營業稅、雜種稅及ビ反別稅ノ五種ニシテ、營業稅ト雜種稅ハ、國稅トシテ營業稅ヲ課セザルモノニ、又戶數割ハ一戶ヲ構フルモノニ對シ賦課セラルルモノトス。而テ府縣制ニヨレバ、府縣稅及ビ之ガ賦課徵收方法ニ關シテハ、法律ニテ規定シアルモノノ外ハ、勅令ノ定ムル所ニヨルモノニシテ、即チ將來法律ニテ規定スベキモノ迄モ勅令ニ委任シア

ルモノナリ。
市町村制ノ規定ニヨレバ、市町村ノ費用ハ主トシテソノ有スル財産ヨリノ收入及ビ之ガ使用料ノ他手數料過料等ニヨリ、尙不足アルトキハ市町村稅及ビ夫役現品ノ賦課徵收ヲ爲スヲ得ルモ、現

狀ハ主トシテ市町村税ニ依頼スルモノニシテ、是ハ上記國稅タル直稅ニ對シ附加稅ヲ課スルノ外、府縣稅ノ附加稅トシテ、營業割（府縣營業稅及ビ雜種稅ノ附加稅）、戶別割（府縣戶數割ノ附加稅）、家屋割（府縣家屋稅ノ附加稅）ヲ課シ、尙以上ノ外市町村ハ別ニ稅目ヲ起シ課稅スルノ必要アルトキハ、特別稅トシテ之ヲ課スルヲ得ルモノニシテ、現ニ行ハルルハ反別稅、借家稅、遊興稅等ナリトス。

最近年ニ於ケル地方稅收入ハ左表ノ如シ。

地方稅收入

道、府縣市區及ビ町村收入決算（道、府縣ハ大正八年度、ソノ他ハ同七年度分）

地租割、反別割 七二、六一〇、二七〇圓

内譯

道、府縣 五八、〇二二、〇一三圓

市、區 一、〇八一、二七七圓

町 村 一三、五〇六、九八〇圓

營業稅附加稅 一四、三四三、七七五圓

内譯

道、府縣 八、四六一、九五六圓
市、區 四、一二三、五四四圓
町 村 一、七五七、八二五圓
所得稅附加稅 二五、七七八、一七〇圓

内譯

道、府縣 一〇、二一七、七九〇圓
市、區 九、六八九、八二七圓
町 村 五、八六八、五五三圓
鑛業稅等特別營業稅附加稅 一、三九六、一八五圓

内譯

道、府縣 八二二、五〇八圓
市、區 一三八、七二〇圓
町 村 四三四、九五七圓
戶數割及ビ家屋稅 一四〇、〇八三、〇二四圓

内譯	道、府、縣	三一、一三五、一九九圓
	市、區	一〇、二二五、八二五圓
	町、村	九八、二二〇、〇〇〇圓
營業稅		一〇、七二七、九〇七圓
内譯	道、府、縣	六、九七一、三七三圓
	市、區	一、一五三、九七九圓
	町、村	二、六〇二、五五五圓
雜種稅及北海道水產稅		三三、四四五、一〇八圓
内譯	道、府、縣	二二、九八八、五五四圓
	市、區	三、〇二〇、二四六圓
	町、村	六、四三六、三〇八圓

地方稅ノ
増

獨逸ノ地
方稅

以上ノ外別稅及ビ特別稅

合計

一、五一四、一六九圓
二九九、八九八、一五八圓

最近年ニ於ケル我が地方費ノ激増ニツレ、地方稅收入モ急速度ヲ以テ増加シアリ。大正六年度收入決算ハ約二億一千萬圓ナリシニ、本表ハ約三億圓ニ達シ、又十年度豫算ハ四億七千餘萬圓ニ上リ戸數割ノミニテモ二億一千餘萬圓ノ巨額ニ達シアリ。而テ増費ノ大部分ハ教育費ナリトス。

獨逸ノ市府ニテハ國家ヨリ以前ニ租稅ノ發達ヲ見、國家ニ先ンジテ強制的ニ市民ヨリ地租ヲ徵收シ、ソレヨリ次第ニ財產稅ニ移リ、或ハ人頭稅ヲ起ス等、多ク直稅ニ倚賴セシガ、十三世紀頃ヨリアチコチノ市府ニテ間稅ヲ賦課スルニ至リ、ソレヨリ一般ニ入市稅ヲ課スルノ制ヲ取り、又別ニ各種ノ手數料ヲ徵收セシモ、當時地方稅ハ未ダ主タル收入トナルニ至ラズシテ、地方費ノ大部分ハ地方ノ公有財產ノ收入ニヨリ支辨シタリ。然ルニ地方稅務機關ガ、課稅上次第ニ橫暴ヲ逞シフスルニ至リタルヨリ、普國ニテハ一七三八年始メテ市府ニ對シ地方稅法ヲ制定シ、之ガ獨立ノ課稅權ヲ剝ギ取り、課稅ニハ一ニ國家ノ認許ヲ要シ、同時ニ共有財產ノ管理モ市府財政上ノ支出モ國家ノ監督ノ下ニ立チ、將來ハ單ニ一定シ且ツ必要ナリト認メタル目的ニ對シテノ課稅ヲ認許スルコトトナシタリ。

普ノ地方
報酬
主義

普國ニテハ十九世紀ノ始メニ於ケル、「フライヘア、フオン、スタイン」ノ地方制度ノ改造等ニヨリ、地方税法モ亦種々ノ影響ヲ受ケ、ソレヨリ一八二〇年ニ至リ、地方ノ目的ノ爲メ國家ノ認許ヲ經テ國稅ニ附加稅ヲ課スルヲ得ルコトナリシガ、地方有力者ノ利己的觀念ノ爲メ、土地所有ニ輕課シ所得稅ニ重課スルノ風ヲ助長シ、多クノ市府殊ニ西部地方ニテハ、國稅タル所得稅ニ對シ二〇〇%又ハ三〇〇%、甚シキハ四〇〇%ノ附加稅ヲ課スルニ至リタリ。唯當時所得稅ノ調査ハ調査委員ニヨリテ行ハレ、此ノ委員ハ地方附加稅ノ多少ニヨリ、國稅タル本稅ノ見積リヲ加減シタルヲ以テ、國民ハ尙之ニ堪ユルヲ得タリシモ、一八九一年六月二十四日ノ法律ニヨリ所得稅ハ一般所得稅トナリ、之ガ賦課徵收ハ個人ノ申告ヲ基礎トナスニ至リタルヨリ、人々ハ到底斯ル大附加稅ノ負擔ニ堪ヘザルコトナリタリ。同國ノ地方稅制ハ一八九三年ニ改定セラレ、ソレヨリ一九〇七年ニ至ル迄數回ノ修正ヲ經テ戰前ニ至リシガ、同地方稅制度ノ基礎的主義根本的精神ハ、成ルベク報酬主義ヲ地方課稅上ニ實現セシメ、納稅力主義ニヨルモノ即チ所得稅賦課ノ程度ハ、單ニ總テノ地方民ニ對シ同一ニ利益ヲ與フル地方歳出ノミニ限定スルニアリテ、此ノ大方針ニヨリ大ニ收入稅ヲ課スルコトトナシ、一八九三年七月十四日ノ法律ニヨリ、國稅タル三大收入稅ヲ地方ニ交付スルニ至リタリ。而テ之ト同時ニ同ジク此ノ主義精神ニヨルノ手数料ノ徵收ト、地方事業ノ收入トニ對スル地方團體

普ハ國稅
タル收入
ヲ地方
ニ移シテ
之カ改造
期ス

ノ權限ヲ擴張シ、斯クテ報酬主義ニヨルノ收入稅以下ノ收入ヲ以テ地方費ヲ支辨シ、之ガ補足トシテ國稅タル所得稅ニ對シ一〇〇%以内ノ地方附加稅ヲ課シ得ベク、是レ以上ニ對シテハ政府ノ同意ヲ得ルコトトナセシガ、爾來地方政費ノ膨脹ニ伴フ地方財政ノ困難トナルニツレ、特許ヲ得テ賦課スル所得稅ノ附加稅ハ次第ニ増加シ、開戰前ニハ二三〇%ノ附加稅ヲ課スルノ地方ヲ出シ、ソノ最モ少額ナル伯林スラ尙且ツ最高額ナル一〇〇%ヲ課シアリタリ。而テ普ノ所得稅ノ最高稅率ハ所得二十萬馬克ニ對スル五%ナルヲ以テ、之ニ二三〇%ヲ課スルモ國稅ト地方稅トヲ合シテ一六、五%トナリ、我ガ所得稅率ニ比スレバ遙カニ輕率ナリトス。然シハ普ノ所得稅率ガ列國ニ比シテ低下ナルニ非ズシテ、我ガ所得稅ガ非常ニ高率ナルニヨルモノトス。

同國ニテハ斯ク國稅タル三大收入稅ヲ地方ニ交付セシガ、是等ノ收入稅ハ地方ニテ大々的改良ヲ要スルモノトシ、之ガ改造ハ地方地方ノ特種ナル關係ニヨリ之ヲ爲スベシトノ事ナリシガ、是レ實ニ地方稅トシテハ主トシテ報酬主義ヲ採ルト同時ニ、化石然タル國稅タル收入稅殊ニ地租ヲ地方ニ交付スル主要ナル理由ヲ爲スモノニシテ、普ニ倣ヒタル或ル國ニテ、尙姑息的觀念ヨリシテ地租ノ一部ヲ國稅トシテ存置スル如キハ、徹底的ニ此ノ主義、理想ヲ實行スルヲ得ザルヲ示スモノナリトス。

普ノ地方
消費税

獨ノ戦後
ノ地方税

交付金主
義

佛ノ地方
税

英ノ地方
税

北米合衆
國ノ州税
トノ地方
關係

又普國ニテハ地方税ニ對シテハ、主トシテ報酬主義ヲ採ルト同時ニ、地方消費税ヲモ賦課シ得ル
コトトナセシガ、之ニ對スル立法ノ趣旨ハ、生活品ニ賦課スルニ非ズシテ、法律ノ眼中ニハ飲料税、
犬税、遊興税等ガ反映シアルモノトス。

獨逸ハ戦後大ニ中央並ビニ聯邦ノ國税及ビ地方税制並ビニ之ガ賦課徴收法ノ統一ヲ圖リ、原則ト
シテハ主要ナル總ベテノ直間税ヲ中央國家ニテ制定シ且ツ賦課徴收シ、之ガ一部ヲ聯邦ト地方ト
分割交付スルコトトナシ、以テ聯邦ト地方トニ對シ交付金主義ヲ採ルニ至リタリ。

佛國ニテハ一面ニハ國税タル收入税ニ附加税ヲ課シ、一面ニハ地方ノ獨立税トシテ消費品ニ入市
税ヲ課スルノ主義ヲ採リアリテ、入市税ハ附加税ニ比シヤ多額ノ收入ヲ舉グルモノトス。

英國ニテハ地方ハ主トシテ、不動産ニ課スルノ獨立ナル地方税ヲ有スル外、地方費ノ増加スルニツ
レ、從來國税タリシ召使税、馬車税、定紋税、犬税、狩獵税、銃器税等及ビ自働車税ノ一部即チ所
謂奢侈税ヲ地方税ニ移シ、且ツ次第ニ相續税等ヨリスル地方ヘノ交付金ヲ増加シ、一九一〇年度ノ
地方交付金ハ二千百十六萬五千磅ニ上リタリ。而テ同國ノ所得税ハ源泉課税ニシテ附加税ヲ課スル
ニ不可ナルモノアル等ニヨリ一切附加税主義ヲ採ラズ。

北米合衆國ニテハ以上ノ歐洲諸國ニ反シ、大體上地方税ガ州税ノ基礎トナリ、各州ハ各ソノ需要

ニ應ジ地方税ニ對シ國税トシテノ附加税ヲ課スルノ有様ニシテ、是レ一ニハ各州ノ政務ハ地方ニ比
シソノ範圍種類大ニ狹隘ナルニヨリ、課税ノ上寧ロ地方ガ主トナリテ州ハ之ガ從タルノ有様ヲ呈スル
ニヨルモノトス。又州ト地方トノ政務ノ區分ノ如キモ、州ニヨリ各々異リテ一トシテ同様ナルモノ
アルヲ見ズ。

官業收入論

第二十六章 官業收入總論

官業收入論中ニハ官有財産ノ收入問題ヲモ包含シアルモ、官有財産ハ英ノ國家ガ蘇士運河會社ノ大株主トシテ、年々莫大ナル配當ヲ受クル如キ例外ノ場合ヲ除キテハ、多クハ之ヲ經營シ貸貸スル等、或ル事業ヲ爲スニヨリ始メテ收入ヲ生ズルモノトス。

財政學者中ニハ、國家ノ收入ヲ公經濟的ト私經濟的トニ兩分シ、租稅ト手数料トヲ以テ國家ノ公經濟的収入トナシ、土地、山林、郵便、電信、鐵道等ノ官業ヨリ生ズルモノノ如キハ、國家ハ個人同様私經濟の原則ニヨリ始メヨリ收益利得ヲ生ズルノ目的ニテ經營スルモノナルヲ以テ、私經濟的収入ト稱スベキモノナリトナス者モアリシガ、是ハ徒ラニ官業ノ歴史ニ拘泥シ、現代の國家ノ性質ニ想到セザルヨリ生ズルノ誤見ナリトス、國家ハ公益の法人ニシテ、決シテ個人ト相並ンデ私利私益ヲ目的トスルノ私經濟ヲ營ムベキモノニ非ズ。從ツテ國家ノ經濟事業ハソノ如何ナル性質ヲ有スルニ拘ラズ、公益ヲ進捗スルノ點、即チ公經濟上ヨリ之ヲ爲スベキモノニシテ、例ヘバ鐵道事業ノ

國家ノ公經濟的収入ト私經濟的トニ分スルハ舊思想ナリ

國家ノ設施ノ何レモ公益事業ナリ

如キハ、個人ニシテ之ヲ經營スルトキハ、純然タル私經濟的營利事業ナルモ、一旦アル必要、アル理由ヨリシテ之ヲ國家ノ手ニ收ムルトキハ、ソノ性質ハ豹變シテ公益事業トナルモノニシテ、國家ハ飽ク迄公益ヲ進捗スルノ見地ヨリシテ之ヲ經營スベキモノトス。

斯クノ如ク國家ノ經營スル事業ハ何レモ公益的ナラザルナシト雖、決シテ利益ヲ獲得スベカラズトナスニ非ズシテ、鐵道等ノ經濟事業ニ對シテハ、國家モ亦アル程度迄ハ私經濟的方則ニヨリ、最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ効果ヲ舉グルヲ期スベキハ當然ニシテ、唯茲ニ最少ノ勞費ト謂フハ、私利私益ヲ專念トナスニ非ズシテ、唯必要以外ノ使用消費ヲナスベカラズトノ意ニシテ、彼ノ乗ズベキノ機會アレバ、直チニ給料賃金ヲ低下シ、以テ使用人勞働者ヲ壓迫シ、又ハ工事ノ低廉ヲ旨トシテ堅牢ナル材料ノ使用ヲ避ケ、又物價騰貴ニ依リ直チニ疎末ナル郵便切手、端書ヲ賣リ出ス如キハ、決シテ公益ヲ圖ルノ方法ニ非ルト同時ニ、徒ラニ乘客貨物ノ運賃ヲ低廉ナラシムル如キハ國民中ノ一部分ニ屬スル旅客運送業者ニ私スルモノニシテ、何レモ國家事業トシテ中正ヲ得ルモノニ非ズ。國家ハ公益ヲ企圖スル公正ナル見地ヨリ經營シ、ソレヨリ生ズル利益ハ當然國家ノ手ニ收ムベキモノトス。戰前ニ於ケル英國ノ國有郵便電信事業ノ純益ハ年々約四千萬圓ニ上リアリ、同國ノ郵便電信料ハ列國ニ比シ寧ロ低廉ナルニ拘ラズ、又國家ハ何等私利私益ヲ目的トナサザルニ拘ラズ、此ノ巨

額ノ收入ヲ生ズルモノニシテ、之ニ反シ北米合衆國ノ郵便事業ハ英國同様ナル主義方針ノ下ニ經營セラルルニ拘ラズ、ソノ國內ノ面積膨大ニシテ事業上多クノ經費ヲ要スル爲メ、國家ハ何等ノ純益ヲ得ザルノミナラズ、寧ロ年々多少ノ缺損ヲ生ズルモノトス。而テ公益ヲ企圖スルノ見地ヨリスレバ、英國政府トシテハ斯カル純益ヲ生ズレバトテ、既ニ低廉ナル郵便電信料ヲ此ノ上更ニ低廉ナラシムルノ要ナク、國家ハ平然トシテ此ノ利益ヲ國庫ニ收納スレバ足ルベク、米國政府ハ多少ノ缺損ヲ生ズレバトテ、文化事業ノ一種ナル郵稅ヲ值上ゲスルノ要ナク、國民ハ當然此ノ缺損ヲ負擔スベク、要スルニ兩者何レモ公益の見地ニ立脚スベキモノトス。

斯クノ如ク國家ノ性質上、既ニ國家事業ナル以上ハ、タトヘ經濟事業ニテモ公益的ナルノミナラズ實際上ヨリ之ヲ謂フモ、國家ハ私經濟ニハ不適當ナリトス。國家ノ事業ハ何レモ官吏ノ手ニヨリ營マルルモノニシテ、官吏ハ嚴重ナル規律ト上命下從ノ關係ノ下ニ服務シ、ソノ性質上自ラ法規ヲ遵守スルノ念ニ篤ク、之ニ反シソノ所掌事務ニ對シテハ概シテ責任觀念ニ乏シク、熱心ヲ缺キ、且ツ遲重ニシテ敏活ナルヲ得ザルモノトス。而テ立憲國家ニ於ケル會計法ノ如キハ、官吏ノ手足ヲ拘束シ、成ルベク之ヲシテ自由手腕ヲ振ハシメザルノ用意ヲ以テ制定セラレ、ソノ他ノ法規モ唯官吏ニシテ眞面目ニ日常ノ事務ニ服スルトキハ、自ラ相當ノ成績ヲ舉ゲ得ルヲ期スルモノニシテ、國

官吏ハ私
經濟的事
業ノ經營
ニ適セズ

家ハ官吏ニ對シテハ、積極的ナルヨリハ寧ロ消極的ニ、一善ヲ舉グルヨリハ寧ロ一害ヲ除カシムルノ主義方針ヲ以テ之ニ臨ムモノトス。從ツテ官吏ヲシテ生存競争優勝劣敗ノ鐵火場裡ニ、私利私益ヲ舉グルノ目的ヲ以テ經濟事業ヲ經營セシメ、經濟的戰場ニ馳騁セシメントスルハ元々無理ナル註文ニシテ、由來經濟的利益ヲ目的トナス國家事業ノ多ク失敗ニ終リタルハ、國家ト官吏ノ性質ヨリスル當然ノ歸結ナリトス。

獨逸ハ一九一九年社會的立法委員會ヲ設ケ、此ノ委員會ハ第一着手トシテ、從來少數ノ大組合ガ利益ヲ壟斷シアリタル同國炭坑ノ社會有テ決議セシガ、之ガ國有ニハ委員中一人ノ主張者贊成者モナカリシ。而テ彼等ガ斯ク國有ニ反對シタル理由ハ大要左ノ如キモノアリ。

「官廳的組織即チ官吏ノ俸給、進級及ビ豫算、會計法等ノ組織ハ、到底營利事業ニ適スルモノニ非ズ。即チ官廳ハ全然官僚的、繁文褥禮的ニシテ、例ヘバ立派ナル專門的技能ヲ有スルノ技師ニ對シ、尋常平凡ナル雜務ヲ双肩ニ荷ヒ切レザル程取リ扱ハシメテ之ヲ專門的方面ニ使用セズ、實際政府部内ハ雜務ヲ以テ充滿シ、ソノ醫師ナルト技師タルトヲ問ハズ二六時中雜務ノミ掌理セシメアリ、又無暗ニ且ツ無主義ニ官吏ノ勤務場所ヲ變更シ、爲メニ之ヲシテ永ク同一地位ニアリテソノ職務ニ習熟スルヲ不可能ナラシム。次ギハ俸給、給與ノ點ニシテ、是ハ絶對的ニハ非常ニ少額ニシテ、相對

一九一九年
社會的立
法委員會
及官吏ノ
對立スル
非

的ニ民間ノ人々ニ比スレバ殆ンド滑稽ノ感ニ堪エザル程寡少ナリトス。次ギニ官吏ノ自由行動、自由手腕 (Initiative) ハ極端ニ制限セラレ、從ツテ彼等ハ責任ヲ以テ仕事ヲ爲スノ愉快モナケレバ光明モナク、三重、四重、五重ニ上局ノ監督監視ヲ受ケ、ソノ上尙議會ト會計検査院ノ監督ノ下ニ立チアリ。斯ル有様ナルヲ以テ、一個人一會社ニテハ二三時間ニテ解決シ得ルコトモ、政府ハ一年二年ノ長キヲ要スルモ尙之ヲ處理シ得ザルコト多ク、要スルニ人ヲ信用セズシテ唯法規ヲ以テ人ヲ殺シテ使役スルモノナリ。

是ハ必シモ獨逸ノ官廳ト官吏ノ關係ニ於テノミ然ルニ非ズシテ、列國ノ官界ニ共通スルノ點ナリトス。而テ官吏ガ不熱心ニシテ責任觀念ニ乏シク且ツ遲重ナルハ、官吏ソノ人ノ罪ニ非ズシテ國家ノ制度ガ之ヲシテ然ラシムルモノトス。

世間ニテハ普國ガ一八七九年以降、國有鐵道ノ經營ニヨリ次第ニ收益ヲ増加シ、戰前ニハ年々五六億馬克ノ純益ヲ舉グルニ至リタルノ例ヲ見テ、官業ノ必シモ不經濟ナラザルヲ説ク者アリ。我政府ガ明治三十九年現行鐵道國有法案ヲ議會ニ提出スルヤ、其ノ理由中ニ普ノ國鐵ノ好成绩ナルヲ舉ゲ、之ヲ以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ好手段ナリトナセシガ、當時モシ我ガ當局ニシテ眞實スル信念ヲ有セシモノトスレバ、是ハ普國ガ如何ニシテ斯ル大收益ヲ舉ゲ得ルヤノ實ヲ審カニセザ

普國國有鐵道ノ大收益ノ例ナリ

普國國有鐵道主義ヲ取リテ其目的

ルヨリ生ズル一大誤想ナリトス。普ノ國鐵ノ事例ノ如キハ實ニ官業界ニ於ケル一大例外ニシテ、他ノ之ニ模倣スルヲ許サザルモノアリ。而テ同國鐵ガ斯ル大收益ヲ舉ゲ得タル理由ハ、第一、戰前ニ於ケル普ノ官吏ノ勤勉節約ナルハ世界無比ニシテ、獨ノ他ノ聯邦ノ官吏モ大ニ企テ及バザルモノアリテ、「プロシヤ」軍人トノ雙壁ト稱セラレタル此ノ「プロシヤ」官吏ノ素質ハ、約三百年間ニ於テ次第ニ鍊ヘ上ゲラレタルモノナリ。(戰敗後ハ無秩序無節制ニシテ品性陋劣ナル社會黨員ガ入りテ彼等ト相伍スルヨリ、今ヤ官紀ハ大ニ頹廢シタリ) 第二、同國ニテ鐵道買收ヲ決行シタル時期ハ、經濟界ガ獨佛戰捷後ノ非常ナル好況ノ後ヲ受ケタル大沈衰ノ際ニシテ、政府ハ意外ニ低廉ニテ買收ノ目的ヲ達シ得タリ。第三ハ、買收當時ニ於テ既ニ鐵道網ハ略全國ニ普及シ、國家ハ不經濟ヲ忍ンデ有利ナラザル新線ヲ延長スルノ必要ナカリシ。第四ハ、國有炭ヲ比較的廉價ニテ使用スルノ便宜ヲ有シ。第五、政府ハ專ラ產業保護ノ見地、即チ保護貿易政策ト相俟ツテ、或ル貨物ニ對シ自由ニ之ガ運賃ヲ輕減スルノ目的ヲ以テ國有主義ヲ實行セシガ、ソノ收益ノ意外ニ多大ナルニ隨喜シ、產業主義ハ次第二極端ナル財政主義ト變ジ、ソノ極ハ不都合ナル節約主義ヲ取ルニ至リ、從業員ノ數ヲ減ジ、線路車輛等ノ修繕改築ヲ怠ル等、年々議會ノ問題トナリタルノ有様ナリシ。而テ普ニ倣ツテ次第二國鐵主義ヲ採リタル諸國ハ、獨ノ聯邦ナルト否トヲ問ハズ、殆ンド普ノ三分ノ二ノ收益ヲ舉ゲ

得ルモノナク、或ル國ハ辛ウジテ收支ノ均衡ヲ保チ、或ル國ハ多少ノ缺陷ヲ生ズルノ状態ニシテ、是レ寧ロ國家事業ノ真相ナリトス。

歐洲列國ニテ各種ノ官業ヲ營ミタル專制君主時代ハ別トシ、列國ノ官僚政府モ亦好シテ官業ノ範圍ヲ擴張セントスルモノニシテ、是レ一ニハ之ニヨリ以テ政府ノ政治上ノ權力ヲ増大ナラシメントシ、一ニハ國民間ニ何等ノ基礎ヲ有セザル官僚政府ハ、成ルベク各種ノ事業ヲ營ミ、之ガ效績ヲ擧グテ國民ノ信賴歸依ヲ得ントスルニヨルモノトス。然ルニ官僚政府ノ官吏ハ比較的健全ナルヲ常トシ、從ツテ之ガ事業成績モ大ナル失態ヲ來サザルモノモ尠カラザレド、議院政治トナルニ及ンデハ局面ハ茲ニ一變シ、政府ハ形式上表面上丈ケニテモ多數黨ノ政府ニシテ、國民間ニ於ケル多數ノ黨員ヲ基礎トナスヲ以テ、國家ニ取リテ不適當ナル仕事ヲ爲スノ要ナキノミナラズ、國家ノ經營スル經濟事業ハ黨員ノ操縦上必ズヤ黨利黨略ノ犠牲ニ供スルヲ免レズシテ、英國ノ如キ二百五十年間ニ互リタル議院政治ノ經驗ニ鑑ミ次第ニ官業ヲ撤廢シ、今ヤ郵便電信電話事業ノ外ハ殆ンド何等ノ國營事業ヲ有セザルモノニシテ、是ハ決シテ自由放任主義ノ影響ノミニ非ザルモノトス。而テ此ノ議院政治ノ先進國、政黨政府ノ標本國ナル英國スラ今尙ホ政府ニテ經濟問題ニ關係スルトキハ、政黨間ニ種々ナル問題ヲ生ズルモノニシテ、例ヘバ同國ニテ一九〇九年ノ稅制大改革ニテ土地增價稅

ヲ採用スルニ至リタル結果、十一世紀ニ於テ「ウイリヤム」掠奪王ガ土地調査ヲ爲シタル以來、始メテ全國ニ互リテ新タニ土地ヲ測量スルニ至リシガ、此ノ從業員トシテ專ラ政府黨ニ屬スル人々ヲ使

用シ、之ニ多額ノ給與ヲ爲ストノ問題ヲ生ジタルコトアリ。斯ク議院政治ハ國家ノ經濟事業ヲ黨利黨略ノ犠牲ニ供スルノ弊アルノミナラズ、官吏ノ規律ハ多クハ遲緩スルヲ免レズシテ、我官界ノ現狀モ次第ニ此ノ傾向ヲ帶ビ來リアリテ、此ノ點ヨリシテ我官業ノ將來ハ大ニ考慮ヲ要スルモノトス。

次ギニ歐洲ニ於ケル官業ノ沿革ヲ略述スレバ（此機會ニ於テ國家收入ノ沿革ヲモ併セテ概説スベシ）、昔時ニ在ツテハ列國ノ君主ハソノ國ニ於ケル最大地主トシテ尨大ナル土地ヲ掩有シ、或ハ自ら農奴ヲ使役シ又ハ次第ニ之ガ一部ヲ他ニ貸貸シ以テ大ナル收入ヲ得、且ツ年々國內ヲ巡廻シ以テ國民ノ寄附ヲ受ケ、是等ノ收入ヲ以テ君主ノ宮廷及ビ國家ノ經費、即チ宮中府中ノ費途ヲ併セ支辨セシガ、爾來君主ノ權勢ノ増進スルニツレ、次第ニ統治の高權即チ司法、警察及ビ國防上ノ高權ヲ利用シテ、各種ノ收入即チ高權的收入ヲ得ルニ至リ、例ヘバ、貨幣鑄造ノ特權ヨリ、之ガ鑄造料トシテ高歩ナル手數料ヲ收メ、國境監視ノ警察の高權ニヨリテ、國境ヲ出入スル人ト物トニ對シ手數料ヲ課スル如キ（關稅ノ起源ナリ）、又ハ河川山嶽ニ對スル警察權ヨリ漁獵狩獵ノ手數料ヲ得、司法的

高權ヨリ訴訟費用ヲ徵收シ、犯罪者ノ財産ヲ沒收スル如キ、又ハ國防の高權ヨリ軍艦城塞ノ築造ニ人夫物資ヲ徵發スル如キ、國王ノ權力ノ増進スルニツレ高權的收入ノ範圍ハ擴張シ、遂ニハ貨幣ヲ劣惡ニシ官職ヲ賣買スル等ノコトヲ爲シ、以テ大收入ヲ得ルニ至リシガ、是等ノ高權的收入中、今ヤ手數料トシテ殘存シ、若クハ消費稅、交通稅ニ變形シタルモノモ尠カラズ。

斯クノ如ク特權收入ガ次第ニソノ範圍ヲ擴ムルノ以前ニ於テ、列國君主ノ多クハ或ハ戰敗ニヨリテ領土ノ一部ヲ喪失シ、或ハ十字軍ノ結果若クハ奢侈ヨリスル財政困難ノ爲メ、領土ノ一部ヲ典賣シ、若クハ之ヲ寵臣寺院ニ惠與寄附スル等ニヨリ、ソノ國有土地ハ著シク減縮シ、之ガ收入モ亦之ニツレ當然減少スルヲ以テ、益々此ノ特權的收入ニ倚賴スルニ至リ、斯クテモ尙國帑ノ給セザル場合ニ限リ、一時的、臨時的收入トシテ租稅ニ倚賴スルニ至リタリ、而テ當時ノ租稅ナルモノハ、何レモ今日ノ收入稅財產稅ノ系統ニ屬シ、現時ニ於ケル消費稅交通稅ノ如キハ、何レモ高權的收入トシテ國王ガ勝手ニ之ヲ徵收シタルモノトス、然ルニ租稅ノ賦課徵收ニハ、豪族若クハ議院ノ承認ヲ要スルヲ以テ、國王ハ成ルベク之ニ依ラズシテ、各種ノ方法形式ニ於テ是等ノ協贊ヲ經ルノ必要ナキ特權的收入ヲ利用シタルモノニシテ、英ノ暴王「ジョン」ガ一二一五年ニ、世界ノ憲政史上ニ於テ有名ナル大憲章ヲ發布スベク余儀ナクセラレタル一ノ動機ハ、彼ガ警察の高權ヲ利用シテ國境ヲ通

過スル人ト貨物トニ對シ無暗ニ監督料ヲ徵收シタルノ一事ナリトス。然ルニ近世ニ至リ列國ニテ官吏ナル新階級ヲ設ケ常備軍ヲ組織シ、專制君主ノ爪牙ハ全ク成ルト同時ニ、爲メニ大ニ國費ノ膨脹ヲ來タシ、減縮セラレタル國有土地ト特權的收入ニテハ、到底宮中府中ノ費途ヲ支辨シ得ザルヲ以テ一時的租稅收入ハ是ニ於テカ恒例的經常的トナリ、國王ハ議會ヲ無視シ之ガ協贊ヲ經ズシテ苛斂誅求ヲ事トシタルヨリ、英ニテハ一六四九年ノ革命トナリ、佛ニテハ十八世紀末ヨリ十九世紀ノ始メニ互ルノ大革命トナリ、奈翁戰爭トナリ、之ニヨリ始メテ西歐諸國ニ立憲政治ノ確立ヲ見タルモノニシテ、佛國大革命後ノ列國ハ自由放任主義ニ伴フノ消極的國家主義ノ流行ト財政ノ大困難トニヨリ、國有土地ノ殆ンド全部及ビ山林ノ一部ヲ拂ヒ下ケ、且ツ各種ノ官業ヲ民間ニ解放スルニ至リタルモノニシテ、英國ハ是等ノ原因ニ加フルニ議院政治ガ國家ノ經濟事業ヲ黨利黨畧ニ害用スルノ弊ニ鑑ミ、郵便事業ノ外何等官業ヲ經營セザルニ至リシガ、一八七〇年ニ電信事業ヲ國有ニ移シ後ニ電話事業ノ起ルニ及ビ之ヲ官業中ニ加ヘタリ。

是ヨリ先キ列國ノ專制君主ハ、一ニハ貴金主義ニヨルノ國民經濟ノ振興策ト、一ニハ各種ノ奢侈品ヲ製造スル爲メ、各種ノ經濟事業ヲ營ミ、土地山林ノ經營、採鑛冶金ノ事業ヨリ、壁紙、敷物、陶器、麥酒ノ製造等ニ至ル迄、國家自ヲ之ヲ經營スルカ、然ラズンバ民業ヲ保護監督スル等國家事

業ハ大ニ膨脹セシガ、佛國大革命後ハ前ニ述ベタル如ク、是等ノ事業ハ殆ンド總テ民間ニ解放セラレ、ソノ國家ノ手ニ殘リタルハ、專賣ノ形式ニ於テ或ル消費稅ヲ徵收スルノ機關トナリ、又民業ニ對スル保護監督等ヲ廢シ、一切之ニ干涉セザルコトトナシ、唯例外トシテ今尙或ル國家ニテ國營スルノ陶器製造所ノ如キヲ存スルニ過ギズ。而テ單ニ是ノミナラズ、佛國大革命ノ波動ヲ受ケテ出來上リタル新立憲國ハ、國王ノ有スル土地山林ノ殆ンド全部ヲ國家ニ納付セシメ、國家ハ別ニ王室費ヲ年々國王ニ供給スルコトトナリ、之ニヨリ宮中ノ經濟ト府中ノ財政トガ確然區別セラレ、昔時ハ國王ノ私收入ヲ以テ國家ノ公費ヲ支辨シタリシニ、今ヤ國家收入ノ一部ヲ割イテ之ヲ王室ニ供給スルコトトナリタリ。

以上ハ主トシテ西歐諸國ニ付キ述ベタルモノニシテ、獨塊ノ如キモ亦佛國大革命ノ喚起シタル氣運ノ大變遷ニ逆行スルヲ得ザルハ當然ニシテ、上述ノ沿革ハ大體上是等諸國ニモ行ハレタルモ、唯立憲政治ノ名アツテ官僚政府ノ實ヲ有シタル普國以下ノ獨聯邦及ビ獨塊ト、十九世紀ノ末葉迄ハ純然タル專制國ナリシ露ノ如キハ、尙國有土地、國家事業トシテ殘在スルモノ多ク、國家收入ノ三分一以上、若クハ半額、若クハソレ以上ハ租稅ニ非ズシテ官業收入ナルノ有様ナリシ。然ルニ一九八〇年代ニ於テ、普ノ國有鐵道主義ガ列國ノ官業主義ヲシテ再ビ擡頭セシメ、殊ニ鐵道國有ハ一種ノ

普ノ鐵道主義ハ列國ノ官業主義ニ熱ヲ高メタリ

現戰役中ニ於ケル國家事業

國家社會主義ハ大ニ戰時中ニ行ハレタリ

流行物トナリ、文明列國中、英ト北米合衆國トヲ除キテハ、何レモ國鐵主義ニ非ズンバ國有私有混合主義ヲ採リ、大革命ノ中心點タル佛ノ如キスラ鐵道ノ一部ヲ國有トナスニ至リタルモノニシテ、是レ實ニ世界戰役破裂前ニ於ケル列國官業ノ狀態ナリトス。

現戰役中ハ軍國ノ必要上、交戰國ノミナラズ、歐洲ノ中立國ニ至ル迄、國民間ニ於ケル各種ノ經濟事業ニ干與シ、自由放任主義ノ英國スラ、國家自ラ數千ノ工場ヲ管理シ、若クハ自ラ之ヲ經營シ、又ハ全國ノ鐵道、炭坑ヲ管理スル等ノ事ヲ爲シ、殊ニ海陸ヨリ封鎖ヲ受ケ、自給自足ノ計ヲ爲スベク余儀ナクセラレタル獨塊ノ如キハ、事ノ苟クモ軍需品、食料品等ニ關スルモノハ、之ヲ國家ノ手ニ收メズンバ、嚴重ニ之ヲ監督管理セザルナク、食料品、原料品ノ配給ヨリ、輸出入貿易又ハ外國爲替ノ賣買ニ至ル迄、國家若クハ中央銀行ニテ之ヲ爲スニ至リ、國家社會主義ハ遺憾ナクソノ間行ハレ、官吏ノ手腕ハ各種ノ經濟事業ニ延ビザルナキノ有様ナリシガ、ソノ結果ハ何レノ國ニテ極メテ不成績ニシテ、遺憾ナク經濟事業ニ對スル官吏ノ能力ヲ發揮シ、普ニテ國鐵主義ヲ採リタルヨリ、再ビ頭角ヲ擡ゲ出ズルニ至リタル官業ハ、列國民間ニ非常ニ不人望トナリ、獨ニテ革命後組織セラレタル社會的立法委員會ニ於ケル、國家事業及ビ官吏ニ對スル非難ハ、既ニ前ニ述ベタル如クニシテ、革命後ニ於テモ尙官吏崇拜ノ陋習ヲ蟬脫スルヲ得ザル獨人スラ官業事業上ノ能力ニ對

スル批判ハ實ニ斯クノ如キモノアリ。
 最後ニ官業收入ト手数料收入トノ別ヲ一言センニ、兩者ハ何レモ個人ニ對スル或ル特殊ナル行爲ニ要スル勞費ニ充ツル爲メ、國家ノ單獨ニ定メタル定率定額ヲ個人ニ賦課スルモノナルモ、官業收入ハ國家ノ經濟行爲ヨリ生ズル收入ニシテ、手数料ハ國家ノ非經濟的、即チ行政、司法行爲ヨリ生ズル收入ナルノ點ニ於テ、ソノ性質ヲ異ニスルモノトス。然ルニ手数料ニテモ財政主義ニヨリ實費以上ヲ徵收スルトキハ、ソノ以上ノ分ハ租税トナルニ同ジク、官業モ亦始メヨリ財政主義ニヨリ經營スルトキハ、專賣同様純然タル租税トナルニ至ルベク、獨ノ「コーン」教授ガ普ノ國鐵ノ純益ハ租税ナリト言フハ、此ノ理ニ由ルモノトス。

第二十七章 各種ノ官業收入

第一節 土地、山林ノ收入

列國ノ國有土地ハ大ニ財政的收入ヲ擧ゲタルノ點ニ於テ、沿革上重大ナル意義ヲ有スルモ、今ヤ之ガ面積ハ非常ニ減少シ、財政問題トシテハ單ニ之ヲ國家ノ手ニ保有スベキヤ、若クハ之ヲ民間ニ拂ヒ下グベキヤノ點ヲ存スルノミナリトス。而テ今ヤ國家自ラ土地ヲ經營シ農耕ニ從事スル場合アリトスレバ、是ハ經濟政策上模範的農場、牧場、育種場等ヲ設置シ以テ範ヲ農民ニ示スノ場合ナラザルベカラズシテ、始メヨリ收入ヲ得ルノ目的ヲ有セザルノミナラズ、農民ノ知識尙幼稚ニシテ農業ノ未ダ開發セザルノ昔時ニハ缺クベカラザルノ政策ナリシト雖、現時ノ文明的農民ニ對シ之ヲ爲スノ必要アリヤ否ヤハ一ノ疑問ニシテ、現ニ戰前ノ普國ノ如キハ、大地主ノ經營スル所ハ多クハ他ノ模範トナスニ足ルノ施設ヲ有スルヲ以テ、國家自ラ斯ル模範農場ヲ設置スルノ要ヲ見ザルモノナリト謂フ。假リニ農業進步ノ程度未ダ普國ノ域ニ達セズトナスモ、是等ノコトハ寧ロ地方團體ノ施設ニ俟ツモノニシテ、今日ノ文化程度ニテハ、國家事業トシテ之ヲ爲ス如キハ、極メテ例外ノ場合

ナラザルベカラズ。且ツ官吏中ヨリ熟練ナル老農老圃ヲ出ス如キハ至難ニシテ、机上ノ空論指導ハ却ツテ有害ナルコト尠カラザルモノアリ。

斯クノ如ク經濟政策上國家自ラ農事ヲ營ムノ一事ハ、時世ノ進展農業ノ開發ニツレ、益々ソノ必要ノ程度ヲ減ズルニ反シ、社會政策ト國有土地トノ關係ハ、社會問題ガ世間ヲ風靡スルノ今日ニ於テ、殊ニ之ガ研究ノ切要ナルヲ見ルモノアリ。

國家ソノ他ノ公共團體ハ、ソノ有スル土地ノ上ニ中産以下ノ需要ニ適スルノ家屋ヲ建造シ、以テ彼等ヲシテ低廉快適ナル住家ヲ得、一面ニハ地主家主ノ飽クナキ請求ヲ免レシメ、又ハ公有土地ヲ分割シ、之ヲ中産以下ニ拂ヒ下ゲ、以テ獨立ノ小農民ヲ扶殖スル如キハ、社會政策上重大ナル意義ヲ有スルモノニシテ、獨ノ聯邦「メクレンブルヒ、シュウエリン」ニテハ、國有土地ノ賣却ハ國法ノ禁ズル所ナルヲ以テ、政府ハ一八六七年ニ之ヲ小農ニ永代貸付ヲナスノ舉ニ出デシガ、此ノ政策ハ大ニソノ効ヲ奏シ、之ニヨリ五千三百ノ獨立農民ヲ植ヘ付クルヲ得タリ。丁抹モ亦之ト同様ナル政策ヲ採リ以テ大ニ穩健ナル獨立農民ヲ増加シタルノ實例ヲ有シアリ。尙一步ヲ進メテ是等ノ目的ヲ供スル爲メ、便宜上私有土地ヲ買上グル如キモ亦社會政策實行ノ一手段トナスニ足ルモノアリテ、例ヘバ英國ニテ一九〇九年ノ稅制大改革ニ際シ、土地ノ相續ニ對シテハ必シモ現金ニテ相續稅ヲ納

入スルヲ要セズシテ、土地ヲ以テ納付スルヲ得ト爲シタル如キハ、土地ニ關スル社會的政策ノ機械ヲ現ハシタルモノト謂フベシ。唯斯ル場合ニ於テモ考慮ヲ要スルハ、官公吏ノ仕事ガ極メテ不經濟ナルノ點ニシテ、例ヘバ某地方團體ニテ中産以下ニ適スル借家ヲ建造スル如キハ、ソノ目的ハ極メテ現時ノ社會政策ニ適スルモノナルモ、若シ建築費ニシテ民間ノ同種同様ナル貸屋ニ比シ高貴ナルトキハ、之ガ賃貸料モ亦自ラ或ル程度迄ハ之ニ伴ハザルヲ得ズシテ、爲メニ却ツテ世間一般ノ家賃ノ値上ゲヲ促進スルノ不覺ヲ招致スルニ至ルベキモノトス。元來土地國有ハ一面ニハ國民ガ自由ニ之ヲ分割賣買シ、之ヲ有利ニ使用スルヲ妨グルモノナルヲ以テ、寧ロ之ヲ賣却シ之ヨリ生ズル收入ヲ以テ有利ノ事業ヲ起シ、若クハ高利ノ國債ヲ償還シ、若クハ之ニヨリ國債ノ新募集ヲ避クベシトノ說ヲ生ズル所以ニシテ、無論此ノ場合之ヲ大地主大資本家ノ手ニ歸セシメバ益々土地兼併ノ弊ヲ助長スベキヲ以テ、之ニ對スル用意ハ極メテ肝要ナリトス、普國ニテハ曾テ三十年戰爭ニ際シ、國有土地ノ大賣却ヲナシ之ニヨリ大收入ヲ得、以テ當時窮乏ヲ告ゲタル國庫ノ急ニ應ジタルコトアリ。ソノ後地價大ニ騰貴シタルヲ以テ、ソノ賣却ハ國家ニ取り損失ナルヲ免レズトノ議ヲ爲ス者アリ。又今日ニ於ケル公有土地ノ收入ハ、之ガ賣却代金ノ利子ニモ及バザルニ拘ラズ、土地ノ次第ニ増價スベキヲ見込ミテ之ヲ賣リ放ツベカラズト爲ス者アリ。獨ノ「コンラード」ノ如キモ此ノ論者ノ

一人ナレド、充分ニ利用セザルノ土地ヲ擁シテ將來ノ騰貴ヲ待ツ如キハ是レ投機者流ノ爲ス所ニ違ギザルノミ。

「ロツツ」教授曰ク、國有財産ヲ賣却シテ國債ヲ銷却スルノ點ニ於テ大ニ吾人ヲ啓發スルニ足ルハ、一八一五——一八四八年ニ於テ埃ト普トノ取りタル手段ナリトス。此ノ兩國ハ何レモ高歩ノ國債ト不換紙幣トヲ抱イテ、辛ウジテ奈翁戰爭ノ重圍ヲ脱シ得タルモノナレドモ、普ハ大ニ國有土地ヲ賣却シテ國債ヲ銷却シ不換紙幣ヲ整理シ、節約ト新債ノ不募集トニヨリ著シク國家ノ信用ヲ高メ、後年戰禍ニ投ズルニ際シ、ソノ財政上ノ能力ハヨク戰爭ヲ有利ニ導クヲ得タリ。然ルニ埃ハ奈翁戰後依然トシテ負債ノ深淵ニ沈ミ、不健全ナル幣制ヲ刷新スルヲ得ズシテ、一八五〇年代ニ至リ漸クニシテ遲レ馳セニ不換紙幣ヲ整理スル爲メ、極メテ不利ナル條件ニテ國有財産ヲ賣却セシモ、之ニヨリ以テ國家ノ信用ヲ鞏固ナラシムルニ足ラズ。一八五九年及ビ一八六六年ノ戰役ニ於テ普通ノ國債ニヨリ以テ戰費ヲ支辨スルヲ得ズシテ、更ラニ一層不換紙幣ヲ増發シ、最近時ニ至リ漸クニシテ之ガ整理ヲナスヲ得タリト。

我邦ニテハ今ヤ愈々國有土地ノ整理ニ着手セントスルモノガ如ク、我が財政施設ハ一トシテ手遅レナラザルルハナク、土地整理問題ノ如キモ之ガ一ナリトス。然シ大ニ遲レタルハ尙爲サザルニ優ルヲ以テ、政府ハ以上述ベタル趣旨ニヨリ銳意之ガ整理ニ着手スベシ、又地方團體ノ所有地ノ如キモ、此ノ際大整理ヲ要スルモノニシテ、彼ノ極メテ低キ貸貸料ニテ個人ニ貸シ付ケアルモノノ如キハ、之ヲ相當ノ貸貸料ニ引キ直シ、以テ一私人ニ私スル如キノ形跡ヲ避ケ、一面ニハ多少ナリトモ地方財政ノ窮乏ニ充ツルノ計ヲ講ズベキモノトス。

歐洲列國ハ十八世紀末以降、消極的國家觀念ト、自由放任ノ時代思潮ト、財政ノ大困難トニヨリ、多クハ國有土地ノ大部分ヲ賣リ放テタルモ、山林ハ之ニ反シ今尙英、伊等ヲ除キタル諸國ニテハ比較的多クノ面積ヲ國家ノ手ニ保有シアリ、而テ是ハ歴史的二生ズル偶然ノ事實ニ非ズシテ、國土ノ保全及ビ山林經營ノ技術上等ニ於テ相當ノ理由ヲ有スルモノトス。

山林ハ燃料、建築用材、工業用材等ヲ供給シ、以テ或ル收入ヲ舉グルノミナラズ、森林ノ存在分布ハ一國ノ公益ニ多大ノ關係ヲ有スルモノニシテ、ソノ地味等ニ有利ナル影響ヲ及ボシ、水源ヲ涵養シ、洪水ヲ防ギ、且ツ國土山河ノ風致ヲ保存スル如キハソノ重ナル點ニシテ、現ニ伊、西ノ兩國及ビ佛ノ南部地方ニテハ、十九世紀ノ始メニ當リ、山林ヲ荒廢ニ委シテ顧ミザリシ結果、河川ハ常ニ一樣ノ水量ヲ保チ得ズシテ、忽チニシテ大洪水ノ爲メニ數萬頃ノ美田ヲ水底ニ陥没セシメ、忽チニシテ大減水ノ爲メニ小ハ水車ノ運轉ヨリ、大ハ船舶ノ航行ニ至ル迄大ニ困難ニ陥リタルノ時代ア

列國ハ比較的多ク山林ヲ保有ス

森林ノ効用

リ。而テ我邦ニテ維新以降林政擧ラズシテ、屢々洪水ノ災ニ罹リアルハ吾人ノ實見スル所ナリ。森林ノ一國ノ公益ト相關聯スル此ノ如キモノアルヲ以テ、尠クトモ我邦ノ所謂土砂扞止林、飛砂防止林、水害潮害防備林、防風林、水源涵養林、風致林ノ如キハ國家自ラ之ヲ經營スルニ非ズンバ、充分ニ此ノ目的ヲ達スルヲ得ザルモノアリ。元來森林ノ經營ニシテ宜シキヲ得バ、年々殆ンド平均ニ燃料、建築用及ビ工業用材ヲ供給スルヲ得ルモノナルモ、樹木ノ發育ハ數千年ノ久シキヲ期セザルベカラザルヲ以テ、一私人若クハ財力ノ豊富ナラザル小團體ノ如キハ、眼前ノ小利益ノ爲メ、適當ノ時期ニ達スルニ先チテ之ヲ伐採シ、又ハ伐採スベキ順序ニヨラズシテ之ガ濫伐ヲ爲シ、又代採スルニツレ、施スベキ植付ケヲ等閑ニスル等ノ弊ニ陥リ易キモノトス、然ルニ是等ノ弊害ハ國家ノ嚴重ナル監督ニヨリ、之ヲ除去スルヲ得ベシトナス者アルモ、實際上之ニ要スル監督費ハ莫大ニ上リ、而テ實効ハ容易ニ擧ラザルモノアリ。且ツ國有林ハ樹木ノ下枝、枯葉ヲ最寄ノ材民ニ與ヘ又ハ最寄ノ罹災民ニ低廉ナル木材ヲ供給ルス等、社會政策ノ一端トナルノ利アリテ、此ノ點亦沒スベカラザルモノアリ。

公益上山林ヲ國有ト爲スノ必要ハ前述ノ如ク、又純粹ナル私經濟的及ビ技術的方面ヨリ見ルモ、經濟事業中山林ノ經營ハ最モ國家ノ官吏ニ適スルモノト謂フヲ得ベシ。是レ森林ハ、第一、廣キ面

國家ニテ山林ヲ保
有スルノ
理由

山林ノ經
營ハ國家
事業ニ適
ス

山林收入

積ニ互リ之ヲ經營スレバ足ルモノニシテ、多クノ勞費ヲ投ジテ深ク地力ヲ盡スノ要ナク、造化ハ寧ロ之ガ自然ノ生育ニ俟ツモノアリ。第二、之ガ經營ノ方法略々一定シアリ且ツ簡單ニシテ寧ロソノ方針ガ多年ニ互リテ動搖不定ナラザルヲ要ス。第三、之ガ事業ハ林業ナル專門的業務ニハ相違ナキモ、概シテ一定ノ法則ニ準據スルノ外至難ナル技術的經營ヲ要スルモノ尠ク、第四、樹木ノ植付ケヨリ生長ニ至ルノ間、永キ年月ニ互ルヲ以テ、年々幾回モ資本ノ運轉ヲ要スル事業ノ如ク煩雜ニシテ敏捷ニ行動スルヲ要セザル等ノ理由ヨリシテ、從來ノ經驗上寧ロ規則正シク秩序節制ノ下ニ行動スル官吏ノ經營ニ適スルモノニシテ、是ハ官吏ニ對スル經濟事業ノ一例外ナリトス。サレバ獨佛ノ如キハ、地方團體及ビ個人ニ屬スル森林ニシテ之ガ經營ヲ國家ノ官吏ニ委託スルモノ尠カラズ。國家ノ山林ヲ經營スルヤ、重キヲ公益ヲ進歩スルノ點ニ置クベキハ謂フ迄モナケレド、之ト同時ニ成ルベク森林ノ整備繁殖ヲ圖リ輪伐植付等ノ手段ニヨリ以テ經濟的利益ヲ收ムベキモノトス。歐洲諸國中國有林ヨリ生ズル收益ノ最モ多大ナルハ獨ノ諸聯邦ニシテ、我邦ノ如キハ尙未ダ企テ及ブベカラザルモノアリ。

歐洲諸國ニテハ十九世紀ノ始メ頃迄ハ、一般ニ成ルベク土地ヲ農業ニ利用スル等、山林ノ面積ハ爲メニ制限セラレ、且ツ木材ノ使用未ダ普ネカラズシテ、山林ノ國家國民ニ及ボス利益ハ未ダヨク

世人ニ了解セラレズ、人々ハ専ラ之ヲ狩獵若クハ游牧ノ目的ニ供スルニ過ギザルヲ以テ、之ガ收入ハ極メテ尠ク、爾來年所ヲ經ルモ收入ハ容易ニ増加セズシテ、林務官ガ私ヲ營ミ公ヲ忘ルル等ノ非難ハ諸國ニ簇出シ、當時ノ國有林賣却論ハ一ニハ是等腐敗シタル林務官ヲ嫌厭スルノ餘ニ出デタルモノ多カリシ。然ルニ十九世紀ノ半頃ヨリシテ、木材需要ノ増加ト共ニ、植林法ハ大ニ整備改良セラレタルヨリ、之ガ收入ハ頓ニ増加シ、獨諸聯邦ノ如キハ、銳意山林ノ經營ニ從事シ、ソノ林政ハ以テ天下ノ範トナスニ足ルベク、之ガ收入ヲ以テ國家ノ一大財源トナスニ至レリ。而テ戰前ニ於ケル同國山林ノ總價格ハ約百億馬克ニシテ平均二、五%ノ收益ヲ生ズト謂フ。(國勢院ノ「戰前戰後ニ於ケル國富統計」ニヨレバ我が大正二年度ノ山林總價格ハ一億五千餘萬圓ニ過ギズ。)

第二節 商工業ヨリノ收入

商業ハソノ絶ヘズ機敏ナル行動ヲ要スルノ點、及ビ冒險的性質ヲ帶ブルノ點等ニ於テ、殊ニ官吏ノ經營ニ適セズシテ、近代の國家ハ現戰役ノ如キ場合ヲ除キテハ、絶對ニ普通ノ商業ヲ營マザルニ至リタルモ、之ガ例外ヲナスハ一種ノ商業ナル銀行業及ビ之ガ類似業ナリトス。

國家ハ日々巨額ノ金錢有價券ヲ收支シ、又之ガ保管ヲ爲スヲ要スルモノニシテ、是等ノ業務ハ何

銀行業ノ
公有問題

等臨機敏活ノ處置ヲ爲シ、又ハ大責任ヲ以テ獨斷專行スルノ要モナク極メテ安全確實ナルヲ以テ、國家ノ機關トシテ或銀行ヲ國有トシ、官吏ヲシテ是等ノ業務ヲ掌理セシムルハ何等不可ナルモノアルナク、殊ニ多年間國有銀行タルノ經歷ヲ有スルモノヲ維持繼續スル如キハ寧ロ當然ナリト謂フベシ。

獨ノ諸聯邦中普ノ「プロシヤ」銀行(以前ノ「ゼー、ハンドリング」ガ改名シタルモノ)及ビ「ババリア」ノ「ニュールンベルヒ」銀行ハ、何レモ國有銀行トシテ國庫金ノ出納事務ヲ司ル外、普通ノ銀行業務ヲ營ミ之ガ收益ヲ國庫ニ納入シアリテ、(端西ノ諸州中ニモ之ト同様ナル國有銀行アリ)、一九一四年度ニハ普々是ヨリ四百七十七萬千馬克、「ババリア」ハ三百六十萬馬克ノ收入ヲ豫算シアリ。

右ノ外不動産抵當銀行ノ如キ、貯蓄銀行ノ如キ、又ハ廣義ノ意味ニ於ケル銀行ノ一種ナル質屋業ノ如キ、列國ニテハ市町村等公共團體ニテ之ヲ經營スルモノ多ク、是等ハソノ業務ノ性質ヨリスルモ、寧ロ公共團體ノ經營ニ適スルモノナリト謂フヲ得ベク、又各種ノ保險業ノ如キモ、必シモ民業ニ適スルモノト謂フヲ得ザルベク、是等ノ問題ハ我邦ニテモ自治團體ノ廓清ヲ行フト同時ニ、大ニ考慮スルノ價值ヲ有スルモノトス。

以上ノ外銀行ノ國有問題ニシテ重要ナルハ兌換券發行銀行ニシテ、前述ノ如ク國家ハ金庫ノ計算

列國ニ於
ケル國有
銀行

兌換券發
行銀行ノ
國有問題

事務、有價證券ノ保管、國債ノ募集之ガ元利金ノ支拂ヒ等、幾多銀行の事務ヲ有スルヲ以テ、必ズヤアル機關銀行ヲシテ是等ノ業務ヲ爲サシムルノ要アルモノトス。且ツ近時兌換銀行券發行ノコトハ次第二少數銀行ノ手ニ歸シ、銀行券發行銀行ハ殊ニ重キヲ公利公益ニ置カザルベカラザルト同時ニ、巨額ノ銀行券ヲ發行スルノ利益ハ莫大ナルモノアルヲ以テ、國家自ラ銀行業ヲ營ミ、一面ニハ國庫金ノ出納計算等ヲ爲スト同時ニ、自ラ兌換券ヲ發行シ以テ全國ノ金融調節ノ大任務ニ當ルノ可否ハ、必シモ閑却スベキノ問題ナリト謂フベカラザルモノアリ。

戰前ニ於テ國有中央銀行主義ヲ採リタルハ露及ビ瑞典ニシテ、最近情報ニヨレバ、社會主義ノ誤想ヲ實行シタル爲メ一時混沌タル情勢ニ陥リタル露國ハ、更ニ二千億留ノ資本金ヲ以テ國有中央銀行ヲ起スノ議アリトノコトナルガ、列國中露ト瑞典トノ外ハ、何レモ一ノ私有銀行ヲ以テ中央銀行ノ任務ヲ遂行セシメ、之ヲシテ國庫金出納等ノ事務ヲ扱ハシムルト同時ニ、之ニ兌換券發行ノ權ヲ賦與シアリテ、多クノ國ニテハ之ニ對シ種々ナル監督ヲ爲スヲ常トシ、事實上半官半私ノ實ヲ呈スルモノアリ。

而テ此ノ兌換券發行ノ中央銀行ヲ國有トナスベシトノ重要ナル論據ハ、

發券銀行
國有論ノ

第一、全國ノ金融ヲ調節スルノ一事ハ、兌換銀行券發行問題ト相待ツテ、國民經濟上極メテ重要

主張點

ニシテ且ツ大ニ困難ナルモノアルヲ以テ、國民ノ上ニ立ツテ虚心坦懷ニ經濟界ノ趨勢ヲ達觀シ得ルノ至公至正ナル國家ニシテ始メテ之ガ大任務ヲ全フスルヲ得ベシ、私立銀行ニアツテハ之ガ役員ハ勢ヒ多勢株主ノ意嚮ニ左右セラレ、私利私益ノ擁護ニ専ラナルニ至ルベキヲ以テ、此ノ重大任務ヲ托スルニハ不適當ナリ。

第二、兌換券ハ貨幣ノ代用ヲ爲スモノニシテ國家ハ當然貨幣ノ發行權ヲ有スルヲ以テ、兌換券發行ヨリ生ズル莫大ナル利益ハ擧ゲテ之ヲ國家ニ納レ以テ國費ニ充當スベク、之ヲ一私人ナル私立銀行ノ株主ニ附與スベキモノニ非ズ。從ツテ兌換券發行ノ特權ヲ一二人ノ銀行ニ與フル如キハ、國家ノ當然收ムベキノ利益ヲ以テ一私人ニ私スルモノナリ。

此ノ國有論ニ對スル私有論者ノ主張點ハ、

第一、國家ノ官吏ト銀行業者ノ何レガ果シテヨク金融ノ大勢ヲ達觀スルヲ得ルヤハ、獨斷的ニ判定スルヲ得ザルモ、大體上銀行業者ヲ以テ優レリト爲サザルベカラズ。唯銀行家ガソノ私利私益ニ專念ナルノ點ハ爭フベカラザルモノアレド、是ハ我邦及ビ他ノ列國ニテ實行シアル如ク、官ニテ總裁以下ノ重役ヲ任命シ、財務當局ヲシテ嚴重ナル監督ヲ爲サシムル等ノ手段ニヨリ、此ノ弊ヲ防グヲ得ベシ。

發券銀行
私有論ノ
主張點

第二、中央銀行ヲ國有ト爲ストキハ、銀行ハ自ラ金融調理ナル經濟的機關タルノ任務ヲ第二段トシ、國家財政ノ急ニ赴クノ財政機關タルニ至ルベシ、是ハ國民經濟上大ニ寒心スベキ問題ナリトス。現ニ我が日本銀行ノ如キハ、國有銀行ナラザルモ尙且ツ絶ヘズ國民ヨリ此ノ種ノ非難ヲ受ケアリテ、戰後ニ於ケル物價調節問題ニ對スル同行ノ施設ノ如キハ殊ニ然ルモノアリ。

第三、中央銀行ニテ國庫金ノ出納、國債ノ募集等國家ノ財務機關タルノ任務ヲ遂行スル以上ハ、之ニ要スル費用ハ多額ニ上ルモノニシテ、國家ハ別ニ之ヲ補償スルノ手段ヲ取ルニ非ズンバ、兌換銀行券發行ヨリ生ズル利益ヲ之ニ附與スルハ當然ニシテ、何等之ニヨリ一私人一銀行ヲ私スルモノニ非ズ。而テ銀行ガ國家ノ財務機關タルノ任務ニ要スル勞費ニ對シテ、兌換券發行ノ利益ガヨリ多大ナルトキハ、此ノ多大ナル分ハ之ヲ國家ニ徵收スベクシテ、現ニ獨逸等多クノ國ニテハ之ヲ實行シアリ。即チ獨逸ニテ一九〇九年ニ改正シタル帝國政府ト中央銀行トノ利益分配法ニヨレバ、同行ノ利益中ヨリ先ヅ株主ニ二二、五%ヲ配當シ、残りノ七〇%ヲ國庫ニ入レ、二〇%ヲ更ニ株主ニ配當シ、一〇%ヲ準備金ニ繰リ入ルルモノニシテ、一九一四年ニ於ケル帝國政府ノ此ノ收入豫算ハ千六百六十五萬四千馬克ナリシ。

以上國有私有ノ兩説ヲ比較スルトキハ、國有論遂ニ私有論ニ及バザルモノアリ。唯我邦及ビ獨逸

等ノ如ク私立銀行ヲ半官半民ノ中央銀行トナスハ、國有同様殆ンド專門的財政機關トナリ、金融調節ノ大任務ヲ遂行スルニ於テ、絶ヘズ國家ノ財政ノ爲メニソノ方針ヲ動搖セシメラルルノ遺憾アルノミナラズ執務振リハ自ラ官僚的トナリテ銀行業ノ性質ニ反スルニ至ルベシ。英ノ中央銀行ナル英蘭銀行ハ純然タル私立銀行ニシテ、政府ハ何等ノ監督干渉ヲ爲サザルモ、過去七八十年間ニ於ケル同行ハ、曾テ公ヲ忘レ私ニ殉ジタリトノ非難ヲ受ケタルコトナシ、或ハ之ヲ以テ一ノ例外トナシ、英人ニシテ始メテ然ルヲ得ルモノナリトナス者ナキニ非ザレド、英人ナレバトテソレ程偉キモノニ非ズシテ、個人タルト會社タルトヲ問ハズ、獨立獨行以テ重大ナル責任ヲソノ双肩ニ荷フトキハ、自ラ此ノ重責ヲ全フスルノ信念ヲ固フスルモノニシテ、此ノ種ノ中央銀行ニシテ始メテ全國金融ノ調節ナル大任務ヲ遂行スルヲ得ベシ。(斯ク言フモ余ハ決シテ英蘭銀行ノ營業振リヲ謳歌スルモノニ非ズ、唯同行ガ私立銀行トシテ公ヲ忘レ私ニ殉セザルノ點ヲ一言シタルノミ。)

以上銀行問題ノ外、歐洲諸國ニテ尙一ノ例外ヲ爲スハ、國家ニテ富籤ヲ興行シ、以テ多クノ收入ヲ得ルノ一事ナリトス。通例是等ノ諸國ハ一私人一會社ニテ此ノ業ヲ營ムコト、及ビ國民ガ外國ノ富籤ヲ購入スルコトヲモ禁止シ、國家自ラ唯一ノ興行主トナリ、以テ富籤ノ賣出シヨリ生ズル利益ヲ收ムルモノニシテ、普國ハ尙一步ヲ進メ、他ノ聯邦政府ニテ發行スル富籤ガ、普國民ノ手ニ入り

テ爲メニ普政府ノ發行、收入高ニ影響スルヲ恐レ、從來各々富籤ヲ興行シ居リタル聯邦ト協約シ、之ヲシテ一定ノ賠償ノ下ニ富籤興行權ヲ拋棄シテ普ノ一手興行ニ同意セシムルコトトナシ、一九二二年迄ニ十八聯邦ト此ノ協約ヲ爲シタリ。彼ノ「ウイルヘルム」一世、「ビスマーク」及ビ「モルトケ」ガ、鐵ト血トヲ以テ政治上ニ獨逸ヲ統一シタル以前ニ於テ、既ニ經濟的ニ之ガ統一ノ基礎ヲ作りタル彼ノ有名ナル獨逸聯邦關稅同盟ノ光輝アル成功者トシテ、盛名ヲ世界ニ轟カシタル普國ハ、今ヤ聯邦ヲ糾合シテ富籤興行權ヲ掌握スルニ至リタリ。

獨以外ノ國家ニテ戰前ニ於テ富籤ヲ興行シアリタルハ、埃洪、伊、蘭、丁抹、西、塞等ニシテ、是等ノ諸國ナレバトテ富籤ノ興行ヲ以テ財政上最善ノ收入手段トシテ満足シ居ルモノニ非ザルベキモ、財政主義ヨリシテ容易ニ之ヲ廢止スルヲ得ザルモノアルベシ。本來高尙ニシテ道義的ナラザルベカラザル國家ノ相率ヒテ斯ル財源ニ倚賴スル如キハ、西歐文明ノ爲メニ惜ムベキモノトス。

一九一四年度ノ收入豫算ニヨレバ、普ノ富籤收入ハ約一億九千六百五十萬馬克ニシテ、之ガ支出ハ一億八千四百萬馬克ナルヲ以テ、純收入ハ約千二百五十萬馬克ナリ。又伊ノ純收入ハ四千九百萬法、西ノ純收入ハ四千二百二十五萬「ペセタ」ナリ。

工業及鑛山業ノ國有

次ギニ工業及ビ鑛山業ニ付キ一言センニ、列國中今尙大規模ニ官營シアルノ工業ハ、國防上ニ要

船舶兵器製造所

スル艦船兵器ノ製造修理事業ニシテ、是ハ絕對ニ財政主義ヲ超越シテ、主トシテ國防ノ獨立ヲ期スルコト、工事ノ秘密ヲ保ツコト、精巧無比ナルモノヲ製出スルコト、民業ニ模範ヲ示スコト、民業ヲ牽制スルコト、作戰上ノ必要ニ出ヅルコト、(各要港ノ修理工場ノ類)、本業ノ副業トナスコト、(或ル炭坑ヲ保有スルノ類)等ノ必要ヨリ之ヲ官營スルモノニシテ、是等モ國民道德ノ進歩、民間工業ノ發達ニヨリ、尠クトモ或ル程度迄ハ次第ニ民業ニ移スベク、我ガ枝光製鐵所、海軍採炭所、陸軍製絨所ノ如キハ殊ニ然リトス。

造幣局印

造幣局ハ當然之ヲ國有トナスベキモノニシテ、貨幣ハ財政主義ニヨリ收益ノ目的ヲ以テ鑄造スベカラザルト同時ニ、之ガ贋造偽造ハ如何ニ峻烈ナル制裁法ヲ以テスルモ之ヲ防遏シ得ザルハ、學說ノ一致シ又列國幣制史ノ示ス所ニシテ、唯一ノ豫防策ハ、極メテ精巧ナル器械ヲ以テ、之ニ模倣シ得ザルノ貨幣ヲ鑄造スルニアリテ、國家ハ統治權ノ作用ニヨリ當然貨幣ヲ鑄造スベキモノナルト同時ニ此ノ點ヨリスルモ、營利ヲ目的トセザルノ國家事業ニ非ズンバ之ヲ爲スヲ得ザルモノトス、又印刷局ハ官文書ノ秘密ヲ保ツヲ要シ、且ツ前述ノ如ク精巧ナル紙幣類ノ印刷ヲ要スルモノアル等、是亦之ヲ國有スベキ當然ノ理由ヲ有スルモノトス。此ノ外列國中今尙陶器製造所、麥酒釀造所等ヲ國有トナスモノアルモ、是等ハ何レモ專制時代ノ名殘リニテ、今尙國有陶器製造所ヲ存シアルハ、

一ニハ精巧ナル美術品ヲ製出スルノ目的ヲ有シ、又「ミュンヘン」ノ國有麥酒釀造所ノ如キハ、之ニヨリ以テ國粹的飲料ノ精華ヲ保ツト同時ニ財政的目的ヲ有スルモノナリ。

列國中ニハ今尙採礦冶金業ノ一部ヲ國有シアリテ、普ノ如キハ比較的大規模ニ之ヲ經營シアリ。同國ニテハ炭坑主ノ大「トラスト」ノ爲メ、國民ハ之ガ弊ニ堪ヘザルモノアリ、普國政府ハソノ既ニ成立シタル後ニ於テ遲レ馳セニ之ガ牽制策トシテ一部ノ炭坑ヲ買收シ、從來保有シアリタル國有炭坑ト相共ニ之ヲ國營トナシ、以テ此ノ大「トラスト」ニ當ラントシタリシガ、國營ニハ失費多ク、一面國家ノ財政ハ之ヨリ相當ノ利益ヲ要求シテ止マザルヲ以テ、勢ヒ採掘炭ヲ貴賣セザルベカラズ、而テ石炭「トラスト」ハ「右ニ倣ヒ」ノ態度ヲ以テ、國有炭ト同一ノ相場ニテ自己採掘ノ石炭ヲ賣リ出スニヨリ、却ツテ以前ヨリモ莫大ナル利益ヲ得、之ガ爲メ損失ヲ招クハ一般消費者ト工業家ノミトス。是ニ於テカ普國政府ハ遂ニ國有炭坑ヲ舉ゲテ此ノ「トラスト」ニ加入シ、以テ内ニアツテ之ヲ牽制スルノ手段ニ出デタルモ、何等實効ノ見ルベキモノナカリシ。而テ數多ノ大工業者殊ニ鐵工業家ノ如キハ、一面ニハ炭坑主トシテ此ノ「トラスト」ノ要部ヲ占メアルヲ以テ、彼等ハソノ地位勢力ヲ利用シ、自家ノ工場用炭ヲ廉買シ、「トラスト」ニ關係ヲ有セザル小工業家ニハ之ヲ貴賣シ、斯クテ炭價ノ差ノミニテ既ニ小工業ヲ壓倒スルニ於テ餘リアルモノニシテ、是レ同國ニ於テ戰前

ハ大ニ炭坑國有論勃興シ、戰後ニハ一變シテ社會有論トナリタル所以ナリトス。

第三節 運輸交通事業ノ收入

國家ノ運輸交通事業トシテ經營スル主要ナルモノハ、郵便、電信(電話)及ビ鐵道ニシテ、今ヤ是等ノ事業ヨリ生ズル收入ハ、官業收入中ノ重要ナルモノトナリ、又次第ニ官業ヲ廢止スルニ至リタル英國スラ、例外トシテ郵便、電信、電話事業ヲ官營シアリ。

運輸交通事業ヲ國有トナスベキヤニ付キ第一ニ生ズル問題ハ、國家ハ國民ニ對シ自ラ之ヲ經營スルノ義務アリヤノ點ニシテ、前ニ述ベタル我邦鐵道國有案ノ理由中ニハ、鐵道ハ尙道路ノ如シトノ一節アリ、道路ハ國民生活ノ必要上、是非トモ國家ソノ他ノ公共團體ノ築造ニ待タザルベカラズシテ、之ガ修築ハ國民ニ對スル公共團體ノ義務ナリト謂フベキモ、鐵道ハ果シテ道路トソノ性質ヲ同ジシスルヤ。道路橋梁ノ如キハ人々ガ交通運輸ヲナスノ機會ヲ與フルモノニシテ、郵便、電信、鐵道、船舶ノ如ク自ラ運搬輸送ヲ爲スモノトハ、ソノ性質ニ於テ截然タル區別ヲ有スルモノアリ、吾人ヲ統治スルノ國家ハ吾人ニ交通往來スルノ機會ヲ與フルノ設備ハ當然之ヲ爲スヲ要スルモ、國家自ラ國民ノ爲メニ運輸々送ヲ爲スノ義務ナク、國民モ亦ソレ程迄ニ國家ニ倚賴スベキモノニ非ズ、是

於テカ當然發生スルハ、國家ハ何故ニ是等ノ交通事業殊ニ鐵道事業ヲ國有スルノ要アリヤトノ問題ニシテ、彼ノ鐵道ヲ以テ道路ト同一視シ、又鐵道ヲ以テ近代の國家ノ寶庫ナリトナス如キハ、何モ之ヲ國有ノ理由トナスニ足ラザルモノトス。

國有ノ可否ニ付テ今尙專ラ論争ノ行ハルルハ鐵道事業ニシテ、郵便ノ如キハ均シク運輸交通事業ノ一種ナルモ、一面ニハ一種ノ文化的化育の事業ニシテ、普通教育ト相並ンデ國家ハ力メテ之ガ普及ヲ計ルベク、一面ニハ統治ノ必要上國民ノ需要ヲ別ニスルモ國家ニテ經營スルヲ要スルモノニテ、列國郵便事業ノ多クハ國營ニ其端ヲ發シタルハ此ノ理ニ由ルモノトス、即チ是等ノ點ヨリシテ國營トナスト同時ニ成ルベク料金ヲ低廉ナラシメ、以テ經濟事業ヨリハ寧ロ一種ノ行政事務トシテ之ヲ經營スルノ要アリ。又電信事業ニ至ツテハ、之ヲ利用スル者ハ國民ノ一部ニ偏スル等、既ニ一種ノ文化事業ト謂フヲ得ザルモノアルモ、國家統治上ノ必要ハ郵便ニ異ルナク、又彼ノ民業ヲ重ンズルノ英國スラ、實驗上電信及ビ小包郵便物民營ノ弊ニ鑑ミテ、郵便同様之ヲ官業ニ移スニ至リタルモノニシテ、文明列國中現ニ之ヲ民業トナスハ特種ノ關係ヲ有スル北米合衆國アルノミ。又電話ハ電信ノ附屬事業トシテ經營スルハ便利ニシテ且ツ經濟的ナルヲ以テ、國有電信ノ附屬事業ト爲スハ當然ニシテ、問題トシテ殘存スルハ鐵道事業アルノミ。而テ大體上鐵道ノ國有私有ニ關スル議論ハ電

信等ニモ適用シ得ルヲ以テ、以下專ラ鐵道ニ付キ觀察スル所アルベシ。

鐵道國有ノ主要ナル論據ニ三アリ、即チ之ガ

第一ハ、鐵道事業ガ獨占の性質ヲ有スルノ點ナリトス。鐵道事業ト郵便、電話、電氣、瓦斯、水道等ナルトヲ問ハズ獨占の事業ハ國家若クハ他ノ公共團體ノ經營ニ適ストノ點ハ鐵道國有ノ倔強ナル論點ナリトス。例ヘバ茲ニ甲地ヨリ乙地ヘ鐵道ヲ敷設スルノ會社アリトスレバ、此ノ兩地間ハ此ノ會社ノ獨占ニ歸スルナルベク、萬一之ニ對スル競爭線ノ起ルアルモ、之ガ當然ノ歸結ハ、兩者一時ハ激烈ナル競爭ヲ試ミ弊端百出ノ後遂ニ競爭ノ不利ヲ覺リテ相合シテ完全ナル獨占事業トナルニ至ルベク、是ニ於テカ甲ノ貨物ヲ運搬シテ乙ノ貨物ヲ拒ミ、若クハ乙ニ對シテハ丙ニ對スルヨリヨリ高キ賃金ヲ要求スル等、封家長蛇爲サント欲シテ爲サザルナキニ至ルベシ。以上ノ手段ノ如クハ實ニ米國ニテ或ル企業者ガ他ノ同業者ヲ打仆サントスルニ當リ、鐵道會社ト結托シテ取ル所ノ慣用手段ナリトス。斯クテ多數國民ハ此ノ獨占會社ニ左右セラレ、之ガ勝手氣儘ノ營業法ノ下ニ死命ヲ制セラルルニ至ルベクシテ、是レ畢竟交通事業ハ私經濟ニ必要ナルノ條件、即チ企業者間ノ競爭ヲ缺キ、又遂ニハ缺クニ至ルヲ以テ、私經濟ノ目的タルニ適セザルモノトス。

前述ノ如ク同一區域ニ競爭線アルトキハ、彼等ハ競爭ノ不利ヲ覺リ、相聯合シテ獨占事業トナ

ニ至ルベク、此ノ場合ニハ甲乙ノ地方ヲ聯絡スルニ二線若クハヨリ以上ノ線路ヲ以テシ、始メヨリ一線ニテ事足ルベキニ、二線以上ヲ敷設シ二倍以上ノ資本ヲ投シアルヲ以テ、大ニ高貴ナル運賃ヲ貪ラザルヲ得ズシテ、旅客貨物ノ爲メニ被ル損害ハ莫大ナリトス。萬一是等ノ會社ニシテ、或ル事情ノ爲メ競争ヲ繼續センカ、是レ既ニ經濟上必要ナル競争ノ範圍ヲ脱スルモノニシテ、爲メニ一方ハ倒レ一方ハ傷キ國民經濟ノ損害測ルベカラザルモノアリ、又萬一、二三會社ニシテ依然駢立シテ事業ヲ營ムトキハ何レモ極メテ低利ニ甘ンゼザルベカラズシテ、即チ多クノ資本ヲ他ノ事業ヨリ引き揚ゲ來リ、以テ之ヲ利益尠キ事業ニ注入スルモノニシテ、ソノ不都合ナルヤ謂フ迄モ無キモノトス。

第二、交通事業ハ一國ノ文明ヲ進メ、經濟ノ發達ヲ促スノ利器ニシテ、之ヲ國內ノ一部ニ偏セシムベカラズ。是レ私ヲ營ムヲ目的トナスノ私經濟ニ比スレバ、公利公益ヲ企圖スル國家ノ經營ニ適スルノ點ナリトス。

私設會社ハ乗客貨物運輸ノ狀況ニ徴シ、出來得ベクンバ常ニ運賃ヲ高メ、出來ル丈ケ多クノ利益ヲ博セントスルモノニシテ、ソノ利益ナキ地方、又ハ利益有無ノ疑ハシキ地方ニハ、投機者流ヲ除クノ外ハ之ガ企業ヲ敢テスルモノニ非ズ。然ルニ經濟事業中ニハ直チニ利益ヲ生ズルモノト、之ガ收獲ヲ未來ニ期スルモノトアリテ、後者ハ一時若クハ數十年間損得ノ相償ハザルモノアルモ、ソノ

事業ニヨリ冥々裡ニソノ地方ノ經濟力ヲ培養シ、十年數十年ノ後ニハ大ニ利益ヲ生ズルモノニシテ、斯ル事業ハ目前ノ利益ヲ目的トナス私立會社ノナシ得ベキモノニ非ザルヲ以テ、文明ノ利器ナル交通事業ヲ全國ニ洽ネカラシメンニハ、國家自ラ之ヲ經營セザルベカラズ。

第三、交通事業ノ性質トシテソノ組織設備ノ一途ニ出ルヲ必要トス。即チ統一ト謂フ事ハ交通機關ヲ設備スルノ點ト、之ヲ經營運轉スルノ點トニ於テ共ニ必要ニシテ、是レ各獨立シテソノ會社若クハ企業者ノ私利私益ノミヲ眼中ニ置クノ個人經營ニ望ミ得ベキニ非ズ。元來交通機關ノ設備運輸ノ統一ハ種々ナル利益アリテ、殊ニ乗客貨物ノ運搬ヲ迅速ナラシムルノ效アリ。而テ多數ノ私立會社モ亦相互間ノ規約ニヨリ事業ノ統一ヲ計リ得ベシト言フ者アレド是レ空論ニシテ、他ヲ排シ己ノミ巨利ヲ博セントスル私立會社ノ爲シ得ベキモノニ非ズ。

以上ノ三點ハ鐵道國有論トシテハ何レモ一面ノ眞理ヲ有スルモノナレド、尙未ダ絶對ニ國有ヲ可ナリトナスノ結論ニ到達スルヲ得ザルモノアリ。第一、一私人一會社ノ經營スル獨占事業ヨリ生ズルノ流弊ハ恐ルベキモノアルモ、之ヲ監督シ矯正スルハ國家當然ノ任務ニシテ、國家ハ各種ノ方面ヨリ成ルベクソノ弊害ヲ尠ナカラシメ、之ヲシテ國民ノ利害ト一致セシムルヲ努ムベク、「デモクラシー」ハ無秩序(Anarchy)ナリトノ稱アル米國經濟界ノ例ヲ以テ之ヲ推スハ極端ナルヲ免レズ。鐵道國

有論ノ第二ノ主張點ハ我邦ニ對シテハ倔強ナル理由ニシテ、我邦ノ如キハ若シ鐵道國有ノ要アリトスレバ、全國ニ鐵道網ヲ普及シ近キ將來ニ於ケル利害ノ打算上一個人一會社ニテハ之ヲ經營シ得ザルノ地點ニ迄之ヲ敷設スルト、一時多大ノ經費ヲ投ジテ狹軌ヲ廣軌ニ造リ直シ、以テ大ニ輸送力ヲ増加スルノ二點ニアリトス。第三ハ多少國有ノ理由トナラザルニ非ザレド、是亦國家ノ監督ニヨリ大ニ不統一ノ缺點ヲ緩和スルヲ得ベシ。而テ此ノ鐵道統一問題ト相關聯シテ、我邦ニ於テ鐵道國有ノ實行上有力ナル主張點ナリシハ、國防上ノ見地ニ出デタルモノナリシモ、是ハ獨逸ノ嚮ニ倣ハントスルモノニシテ、彼我地理的形勢ノ異ルヲ無視スルモノナリ。彼ハ歐洲ノ中原ニ國ヲ成シ、經濟上大陸的ニハ極メテ好地位ニアルト同時ニ、軍事上ハ極メテ不利ナル地理的關係ニアリテ、四面敵國ニ封鎖セラルルノ状態ナルヲ以テ、有事ノ際ニハ轉瞬ノ間ニ軍隊ノ動員ヲ完成シ以テ國境外ニ繰リ出スノ要アリテ、比翁ガ獨佛戰後曾テ議會ニ於テ出師準備金ノ説明ヲ爲スニ當リ、我が大捷ノ原因ハ一言ニシテ足レリ、即チ我が軍隊ハ逸早く動員シ、二日間佛ニ先ンジテ同國內ニ侵入シタルニヨルモノナリト公言セシハ事ノ真相ヲ得タルモノニシテ、斯ル國柄ニシテ始メテ國防上ヨリ鐵道國有ノ問題ヲ生ズベキモノトス。

以上ハ鐵道國有論ト之ガ批評ノ概要ニシテ、之ニ加フルニ前章ニテ述べタル國家及ビ官吏對經濟

事業ノ點等ヲ以テスルトキハ、國有私有ノ利害ハ未ダ容易ニ之ヲ判定スルヲ得ザルモノアリテ、殊ニ議院政治ニ入ラントスル我邦ノ如キハ國鐵ノ前途ニ關シ大ニ考慮ヲ要スルモノトス。

以上國家ノ運輸交通事業ニ付イテ述べタル所ハ、大體上地方團體ニテ經營スルノ獨占事業即チ市街鐵道、電氣、瓦斯、水道等ニ適用スルヲ得ベキモ、地方財政ハ國家ノ財政ト個人ノ私經濟トノ中間ニ位シ、ソノ性質ハ強制的ナルト同時ニ一面ニハ私權的報酬的ナルモノ多ク、又國家ト地方トノ間ニ於ケル事業經營ニ關スル會計法規ノ如キハ、大ニ寬嚴ノ度ヲ異ニスルモノアリ、又地方ノ官吏ハ國家ノ官吏トハ自ラソノ嚮フ所ヲ異ニスルモノアル等、地方施設ノ實際問題トシテハ大ニ如上ノ理論ノ適用ヲ加減スルノ要アリ、且ツ地方財政ニテハ市街鐵道、電氣、瓦斯、水道等ノ收入ヲ以テ地方稅ニ代ユルノ可否モ亦大ニ研究ニ價スルモノトス。

歐洲諸國ニテハ十九世紀末ニ至リ、獨占事業ハ私經濟ニ適セズトノ說ハ大ニ世論ヲ支配シ、之ニ加フルニ當時水道、瓦斯等獨占會社ノ橫暴ヲ以テシ、列國ノ地方團體ハ爭フテ新設ノ市街電車等ノ經營ニ着手シ、且ツ既存ノ獨占會社ヲ買收スルノ風大ニ行ハレ、英國スラ大ニ然ルモノアリタリ。然ルニ之ガ實施ノ蹟ヲ見ルニ、多クノ事業ハ創立、買收費ニ要シタル公債ノ元利金ヲ銷却スルニ足ラズシテ、地方債ハ益々増加スルノ一方トナリ、一面之ガ施設經營ハ、何等專門的知識ヲ有セズ、

經濟事業ヲ解セザルノ地方名譽職等ノ無用有害ナル干涉容喙等ニヨリ豫期ノ功程ヲ舉グルヲ得ザル等、地方經濟事業ノ膨脹ニ對シ次第ニ物論ヲ釀成スルニ至リ、以テ世界戰爭ニ入りタリ。

公債論

第二十八章 公債ノ本質

公債ノ定義

財政學上公債 (Öffentliche Schuld, Public debt) トハ、財政ノ不足ヲ補ヒ若クハ特定ノ費途ニ充ツルノ目的ヲ以テ、國家ソノ他ノ公共團體ノ信用ニヨリ、他ノ資金ヲ利用スルヨリ生ズル債務ヲ謂フ。(公債ハ國家ソノ他ノ公共團體ノ負債ノ總稱ニシテ、國家ノ分ヲ國債 Staats Schuld 地方團體ノ分ヲ地方債 Gemeinde Schuld, Local Debt ト謂フ) 以下此ノ定義ヲ釋明スレバ、

第一、公債ニハ財政ノ不足ニ充ツルモノト、特定ノ費用即チ新事業費ニ振リ向クルモノトアリ。以前ニハ公債モ私債同様殆ンド總テ財政ノ不足ニ充ツルモノ、即チ消費的目的ヲ有セザレバ、專制君主ノ威ヲ張リ武ヲ耀カスノ用ニ供セラレタルヲ以テ、學者ハ當時個人ノ私債ニ對スルノ論法ヲ以テ、舉ツテ公債ヲ非難シタルモノナルモ、今ヤ公債ハ財政ノ不足ノミナラズ、經濟政策、社會政策等、新事業費ニ充ツルモノ多キヲ以テ、之ニ關スル學說ハ一變シタリ。

第二、公債ハ財政ノ不足ヲ補ヒ、若クハ特定ノ費途ニ充ツルモノナルヲ以テ、始メヨリ國費ニ充

當スルノ目的ヲ有セズシテ、法令又ハ行政行為ノ結果トシテ自然ニ生ズル債務、即チ行政的公債ノ如キハ、國法上一種ノ債務ニ相違ナキモ財政上ノ公債ニ非ズ。唯アル場合ニハ此ノ兩者ハ殆ンド區分スルヲ得ザルモノアリ、又彼是相關聯スルモノアルヲ以テ、公債論ノ研究上之ヲ無視スルヲ得ザルモノトス。

第三、公債ハ國家ソノ他ノ信用ニヨリ、他ノ資金ヲ利用スルモノナルヲ以テ、國家ノ威力ニヨリ強制的ニ國民ニ課スルノ強迫債ハ、財政學上ノ公債ニ非ズト謂ハザルベカラズ。然ルニソノ果シテ強迫債ナリヤ否ヤハ容易ニ之ヲ知ルヲ得ザルモノアルノミナラズ、強迫債ハ以前ニハ公債トシテ重要ナル地位ヲ占メタル歷史上ノ關係アリ、且ツ歐洲列國ハ戰時中ハ強迫債ノ一種ナル不換紙幣ニヨリ軍國的財政ヲ維持シ、今ヤ戰後財政ノ困難ニ堪ヘズシテ強迫債募集ノ計畫ヲ爲スモノ尠カラザル等、之ヲ公債論ノ一部トシテ研究スルノ價值ヲ有スルモノトス。

以下主トシテ國債ニ付キ之ヲ述ベンニ、右ノ定義ニヨレバ、國債モ吾人ノ私債ト略々ソノ性質ヲ同ウスルモ、國家ハ永久ノ性質ヲ有シ、之ガ事業モ亦永久遠大ニ互ルモノ多キヲ以テ、國債ヲ律スルノ法則ハ必シモ私債ニ同ジカラザルモノアリ。凡ソ國家ノ國債ニ倚賴スル場合ハ、個人同様之ヲ三者ニ大別スルヲ得ベク、第一ハ經常ノ需要ニ對シ經常收入ニテ不足ヲ生ズル場合、第二ハ臨時

公債ト私債トノ異同

的一時的ノ需要アル場合、第二ハ或ル特殊ナル事業經營ノ場合ニシテ、此ノ内第一ハ個人ノ私債ト同ジク多クハ不謹慎不用意ノ結果ニシテ、爲メニ財政紊亂ノ端ヲ啓クモノ尠カラズ。現ニ獨逸帝國ハ多年此ノ弊ニ陥リ、一九〇六年及ビ一九〇九年ノ稅制改革ニ伴フ大増稅ニヨリ、漸クニシテ之ガ整理ノ緒ニ就クヲ得タリ。第二、臨時ノ急需ニ應ズル爲メノ負債ハ、個人ニアツテハ病患災厄等ノ場合ニ於テ多ク之ヲ見ルモノニシテ、元來個人ハ平素事無キノ日ニ於テ、所得ノ一部ヲ貯蓄シ、又ハ保險契約等ニヨリ有事ノ際ニ備フベキモノニシテ、之ガ爲メ債務ヲ生ズル如キハ、多クハ平生ノ用意ニ於テ缺クル所アルニ由ルモノナレド、國家ハ之ニ反シ年々單ニ必要ナル費途ノミヲ國民ニ要求スベクシテ、豫期スベカラザルノ需要ヲ見越シ、豫メ財貨ヲ貯蓄スベキニ非ザルヲ以テ、(或ル資金等ハ例外ナリトス。)戰爭事變、天災地妖等臨時ノ出費ヲ要スルニ際シテハ、當然國債募集ノ手段ニ出ツベクシテ、唯ソノ新稅ヲ起シ増稅ヲ爲スノ余地アル場合ニ於テハ、國債租稅ノ何レヲ可トスルヤ、若クハ兩者ヲ併用スベキヤ等ノ問題ヲ生ズルノミナリトス。第三ノ事業經營ノ資ニ充ツルノ負債ニ至ツテハ、事業ノ性質ニヨリテハ、個人トシテ之ヲ爲スモ毫モ不可ナルナク、殊ニ國家ノ事業ハソノ效果ノ永久遠大ニ互リ莫大ノ出資ヲ要スルモノ尠カラズシテ、之ヲ國債ニ倚賴スルハ當然ニシテ、若シ斯ル場合ニ於テモ、尙且ツ國債ノ募集ヲ避ケ、經常收入ノ一部ヲ割イテ徐々ニ之ヲ遂行

セントスル如キ、若クハ財政的收入ガ不足ナルノ故ヲ以テ、之ガ事業經營ヲ後世子孫ニ推譲スル如キハ、何レモ百年ノ長計ヲ誤ルモノト謂フベシ。

國債ノ私債ト相類似シ而モ相同ジカラザルハ畧々上述ノ如シ。而テ之ガ銷却ニ付イテハ、個人ハソノ債務ノ如何ナル種類ナルヲ問ハズ成ル可ク迅速ニ之ヲ辨濟シ、以テ累ヲ子孫ニ殘サザルノ計ヲ爲スヲ要スルモ、國家ハ必シモ然ラズシテ、彼ノ戰時事變、鐵道ノ建設、港灣ノ修築等ニ投シタル莫大ナル國債ニ至ツテハ、到底現代ノ國民ニ於テ之ガ全部ヲ銷却シ得ザルモノアルノミナラズ、大捷ヲ博シタル戰費ノ如キ若クハ直接ニ生産發達ニ資スルノ事業ニ投シタルモノノ如キハ、何レモ永遠ノ效果ヲ有シ百世ノ後永クソノ慶ニ浴スヘキヲ以テ、後世子孫ヲシテ之ヲ分擔セシムルハ理ノ當然ナリト謂フベク、殊ニ大信用アル大國家ノ國債ニ對シテハ、始メヨリ元金ノ銷却ヲ望マズシテ、寧ロ永ク之ガ利子ヲ受ケ取ルノ目的ヲ以テ應募スル者多クシテ、畢竟國債銷却ノ長期ニ互リ且ツ戰前ノ英佛等ニテ永遠國債ガ一般公衆ニ歡迎セラレタルハ、多クハ是等ノ理由ニ基クモノトス。

斯クノ如ク國債ハ必ズシモ之ヲ起シタル現代國民ニ於テ、急速ニ之ヲ銷却シ終ラザルベカラザルノ理ナシト雖、元來負債ハソノ個人タルト國家タルトヲ問ハズ、不知不識ノ間ニ増加スルノ傾向ヲ有シ、且ツ後世子孫ニハ又自ラ彼等ノ經營スベキ幾多ノ大事業ノ横ハルモノアルノミナラズ、平素

無事ノ日ニ於テ成ルベク國債ヲ減少シ、以テ有事ノ際ニ備フルハ國家當然ノ責務ナリトス。彼ノ國民富力ノ増進ニツレ貨幣ノ購買力ハ益々減少シ、金利ハ益々低下スベキヲ以テ、遠キ將來ニ至ル丈ケ國債元利金ノ負擔ヲ輕減スルモノトナシ、以テ之ガ銷却ヲ等閑視スル者ノ如キハ、是レ早晚國家ヲ破産ノ厄ニ瀕セシムルモノナリト謂フベシ。

國債ノ本質ハ略上述ノ如クニシテ、以上ノ理論ハ大體上之ヲ他ノ公共團體ノ公債ニ適用スルヲ得ルモノトス。而テ現戰役ニ於テ國債ハ非常ニ重大ナル意義ヲ有シ、幾千億圓ノ戰費及ビ戰後ノ經營費ノ大部分ハ國債ヲ以テ之ニ充テアリテ、如何ニモ大國家ノ信用ノ偉大ナルト、大國民ノ富力ノ殆ンド無盡藏ナルモノアルヲ示シタルト同時ニ、之ガ發行募集等ノ如キハ吾人ノ研究上ニ資スルモノ尠カラザルベキモ、尙正確ナル資料ニ乏シク、斷片的ニ之ガ消息ヲ解シ得ルニ過ギザルモノトス。

第二十九章 公債ノ利弊

公債ノ利弊

公債ハ前章ニ述ベタル如ク、財政ノ不足ヲ補フノ外事業經營等當然之ヲ募集スベキノ場合尠カラズシテ、單ニ普通ノ觀念ニヨリテ、借金ハ之ヲ爲サザルヲ優レリト爲ストノ、「アダム・スミス」時代ノ舊理想、舊學說ニヨルノ不可ナルハ謂フ迄モナク、歴山大王ガンノ父「フイリツプ」ガ殘シアリタル五百「タレント」(五百金「タレント」ハ約百萬圓)ノ負債ヲ以テ、ソノ國ニ於ケル一大弱點ナリトナルタルハ、一ノ故事記トシテ歴史學派ノ一顧ヲ値スルニ過ギザルモノトス。

公債ノ利弊ハ之ヲ經濟上、財政上、政治上ノ三者ニ區別シ、且ツ多クノ場合ニ於テ之ヲ内債ト外債トニ區分シテ説明スルヲ便ナリトス、左ニ國債ニ付キ之ヲ述ブレバ、經濟上國債ノ利益ハ大要在ノ如シ。

第一、内債ニアツテハ、之ニヨリ國民ヲシテ安全ナル投資法ヲ見出サシメ、國民間ニアル游金及ビ豫備資金ノ一部ヲ驅ツテ之ガ募集ニ應ジ、以テ資金運轉ノ效用ヲ全カラシメ、國民ヲシテ益々貯蓄ノ觀念ヲ養成セシム。元來國民中ニハ資金ヲ愛着スルノ念熾ナルヨリ、若クハ資金ノ利用ニ慣レザル等ヨリシテ、空シク之ヲ死藏シ若クハ徒ラニ之ヲ費消スル者尠カラズ。然ルニ大信用アルノ

國債ノ經濟的利便

國家ハ是等ノ人々ヲシテ安ンジテ國債ニ應募セシメ、以テ死藏消費ノ弊ヲ除キ、資金利用ノ途ヲ全カラシムルヲ得ベシ。且ツ國民ノ資金中ニハ、徒ラニ之ヲ使用シ消費スルニ非ズ、又現ニ之ヲ事業ニ投入シアルニ非ズシテ、投入ノ時期ヲ待チツツアルモノアリテ、之ヲ資本界ノ豫備軍ト謂フヲ得ベシ、是等ノ豫備資金ハ、銀行當座預金ニ比スレバ利子ノ高キ國債ニ一時應募シ置キ、以テ次ギニ來ルベキ一層有利ナル投資ノ機會ヲ待チ得ルノ利益ハ莫大ナリトス。

又國家ニテ國債ヲ銷却スルニ際シ、ヨク金融市場ノ趨勢ヲ達觀シ、緩急ノ序ヲ誤ラザルトキハ、之ガ銷却ニヨリ經濟市場ヲシテ時雨ニ潤フノ感ヲ爲サシメ、大ニ金融ノ逼迫ヲ緩和シ市場ヲ潤澤ナラシムルヲ得ベシ。

又外債ヲ起シ以テ低利ノ資本ヲ輸入シ、國內ニ於ケル有利ノ事業ニ充當スルトキハ、之ニヨリ大ニ産業ノ開發ヲ來スベク、殊ニ資本ニ乏シキ新興國等ニアツテハ、之ニヨリ國民經濟ヲ壓迫セズンテ、之ヲシテ順調ナル發達ヲナサシムルヲ得ベシ。

次ギハ内外債ニ共通スルノ點ニシテ、個人ノ資力ニ限リアリ、又個人經營ハ或ル獨占事業ニ適セザル等國家ニ非ズンバ爲スヲ得ザルモノ、國家ニテ經營スルヲ要スルモノ等數フルニ暇アラズシテ、國家ニシテ内外債ニ倚賴シ、之ガ大資本ニヨリ、永遠ノ計ヲ以テ是等ノ事業ヲ經營スルニ非ズン